

(別紙)

平成23年度

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業
－住宅に係るもの－

様式及び作成要領

(二次公募)

平成23年8月

目 次

1. 申込みに必要な各様式	3
・様式第1（補助事業申込書）	4
・実施計画書（新築・増改築）	5
・実施計画書（既築A区分 機器のみ）	14
・実施計画書（既築D1 断熱改修のみ）	21
・実施計画書（既築D2～D4 断熱改修+機器）	25
・追加的節電実施計画書（新築・増築・改築）	35
・追加的節電実施計画書（既築 全区分共通）	36
・費用総括表	37
・費用明細書（空調設備）	38
・費用明細書（給湯設備）	39
・費用明細書（省エネナビ・省エネ換気・照明・開口部・断熱部・その他）	40
・新規システム事前相談票	41
・システム提案書	42
・交付要件等確認書	45
・提出書類チェックリスト	46
2. 作成要領	48
(1)様式第1（補助事業申込書）の作成要領	48
(2)実施計画書の作成要領	49
(3)追加的節電実施計画書の作成要領	68
(4)費用総括表の作成要領	70
(5)費用明細書の作成要領	71
(6)配置図の作成要領	79
(7)建築図面等（A1～A3）の折り方	81
(8)システム提案書の作成要領	83
3. 予約者決定以降に必要な様式・書類	86
・様式第2（工事着工届出書）	87
・様式第6 補助金交付申請書（兼工事完了報告書）	89
・エネルギー使用量等計測機器設置報告書	90
・システム導入前のエネルギー使用状況報告書	91
・定期報告書	94

1. 申込みに必要な各様式

書類	補助対象	既築			別紙「様式及び作成要領」	
		新築、増築及び改築	断熱改修+機器	機器のみ	断熱改修のみ	様式
①補助事業申込書		【様式第1】			【様式第1】 4ページ	48ページ
②実施計画書	直近1年間のエネルギー月別使用量等を記載するとともに、電気、ガス、水道等については証憑(請求書や検針票等の検針期間と使用量がわかるもの)の写しを添付すること ※証憑の写しは、A4サイズ(複数月の検針票をA4用紙に貼り付けて、コピーを取る等)にまとめること				定型様式1 ・新築・増築・改築: 5~13ページ ・既築 機器のみ: 14~20ページ ・既築 断熱改修のみ: 21~24ページ ・既築 断熱改修+機器: 25~34ページ	49~67ページ
③追加的節電実施計画書※	電球形LEDランプの導入前と導入後の照明機器一覧を作成し、消費電力削減率を記載すること ※電球形LEDランプ以外については様式自由(但し、事前相談を行った場合のみ申込み可)				定型様式8	68~69ページ
④費用関係書類	下記3点を全て提出すること				—	—
	費用総括表	費用明細書を元に、システムを構成する設備ごとの補助対象合計金額を総括表に記載すること			定型様式2 37ページ	70ページ
	費用明細書	システムを構成する補助対象設備ごとに、補助対象、補助対象外について材工別の費用明細を記載すること ※詳細は、費用明細書作成要領(71~78ページ)を参考に作成すること ※追加的節電対策の費用は「その他」の費用明細に記載すること			定型様式3 38~40ページ	71~78ページ
	見積書(写し)	工事請負契約予定の見積書のうち、下記の該当箇所を抜粋し、写しを添付すること (1) 工事請負契約の全体見積金額が記載されている箇所 (2) 補助対象工事に係る見積内容が記載されている箇所(補助対象外が含まれていても可) ※申請用に別途、見積書を作成する必要はない ※(2)は補助対象が含まれていることが分かるように、備考欄等にその旨(例:補助対象を含む等)を記載するか、費目にマーク等を記すこと			様式自由	—
⑤配置図 (注)平面図に補助対象機器の配置、改修部位等を記載したもので可	・補助対象設備の配置を設計図書に記載すること ・断熱強化の場合は、矩計図で代用可とする	補助対象機器の配置、改修部位を平面図に記載すること。また、改修面積が要件を満たしていることを裏付ける計算根拠を記載すること(例:断熱改修面積/延床面積≥0.5)			様式自由	79~80ページ
⑥仕様書 (カタログの写し等)	システムを構成する補助対象設備全て(窓、断熱材等も含む)について、省エネルギーに係わるものの根拠(型式(品番)、性能、効率)等が記載されたもの ※メーカーカタログの写しを使用する場合、該当する箇所にマーク等を記し、当該機器の性能・仕様が分かるようにすること ※追加的節電対策を実施し補助を申込み場合は、設置する機器の仕様書(カタログ)も添付すること				様式自由	—
⑦建築図面	手書きも可とするが、スケール、モジュール等は合わせ、申請内容の確認が出来ること					
	平面図 (1/100以上)	・階層全て ・方位、部屋名(実施計画書に記載の部屋名と同じ表現とし、部屋面積を記載)				
	立面図 (1/100以上)	東西南北全て	東西南北全て (写真可) ※集合分譲住宅の場合は不要	不要	東西南北全て (写真可) ※集合分譲住宅の場合は不要	様式自由 81~82ページ
	矩計図 (断面図)	躯体(屋根・天井、壁、床等)の構成材が明記されていること	不要	不要	不要	
※「新 申込 規 者 シ ス テ ム 提 出 」 の	⑧事前相談結果票の写し	事前相談期間に、「新規システム事前相談票」(定型様式4(41ページ)をFAXで提出し、その後、SIIから新規システムによる申込を可とFAXで通知した「事前相談結果票」の写し			SIIから(FAXで)通知した書類の写し	—
	⑨システム提案書	新規システムの提案概要を記載すること			定型様式5 42~44ページ	83~85ページ
	⑩技術資料	・エネルギー削減の実績データに関する資料 ・システムの導入実績、製品の供給体制に関する資料 ・システムの制御方法に関する資料 ・JISなどの公的規格や業界自主規格等への適合を示す資料			様式自由	—
⑪交付要件等確認書	申込者が、本事業の内容、交付要件、提出書類、個人情報の利用等について確認し了解した上で申込むこと。申込者自身が提出書類一式について責任を持ち、虚偽、不正のないことを確認するための書類。必ず申請者自身が作成すること(手続代行者の作成は不可)				定型様式6 45ページ	—
⑫提出書類チェックリスト	上記①~⑩(⑧~⑩は新規システムでの申込者のみ)の書類について、添付漏れや記入の不備がないかチェックするもの(手続代行者のチェックで可)				定型様式7 46~47ページ	—

※③の書類は追加的節電対策計画者のみ。⑧~⑩の書類は新規システムでの申込者のみ提出。

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
代表理事 赤池 学 殿

申込者 郵便番号
住所
(ふりがな)
氏名 印
電話番号
手続代行者 郵便番号
住所
会社名 印
代表者等名

平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業
(住宅に係るもの) 申込書

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(住宅に係るもの) 交付規程第5条 第1項の規定に基づき、下記のとおり経済産業省からの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業) 交付要綱第3条に基づく国庫補助金に係る補助事業の申込みをします。

記

1. 住宅の所在地(新築・増築・改築・既築)

住所	
----	--

2. 工事期間等

工事着工予定日	平成 年 月 日
工事完了予定日	平成 年 月 日

3. 先行予約者決定の希望の有無 ※いずれかを選択。

先行予約者決定	希望する ・ 希望しない
---------	--------------

※平成23年8月末日までに工事を完了できる場合のみ希望可能。

4. 導入する住宅高効率エネルギーシステム

モデル区分	A1・A4・A10・A14・A15・A22・A27・A28・D1・D2・D3・D4
システム番号	- - (定型システムの場合のみ記入)
追加的節電対策	<input type="checkbox"/> 申込む <input type="checkbox"/> 申込まない

5. 住宅の概要

地域区分	I a I b II III IV a IV b V VI
延べ床面積	m ²
床面積	1 F m ² 、2 F m ² 、3 F m ² 、4 F m ² 、5 F m ² B1 F m ² 、B2 F m ²

(注) 新築・増築・改築住宅は、「住宅に係るエネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び建築物の所有者の判断基準」(平成18年経済産業省・国土交通省告示第3号)に準じた性能を満たすものであること。

6. 排出削減事業への参加 高効率給湯器(CO2冷媒ヒートポンプ給湯器、潜熱回収型ガス給湯器、ガスエンジン給湯器、又は潜熱回収型石油(灯油)給湯器)の補助を申込む場合は、下記のいずれかにチェックすること。(注)

<input type="checkbox"/>	国が運営委託する排出削減事業(グリーン・リンケージ倶楽部(高効率給湯器))
<input type="checkbox"/>	その他の排出削減事業

(注) いずれか1つにチェックがされていない場合は、申込みを受理することができません。

7. 補助金交付申請予定額

円(対象費用の1/3)

(手続代行者連絡先)

担当者	(E-mail:)
所属	
住所	
電話番号	FAX番号

(添付書類) 一般社団法人 環境共創イニシアチブが公募要領で指定する書類を添付すること。(備考) 用紙は日本工業規格A4とし、縦位置とする。一般社団法人 環境共創イニシアチブの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金は、経済産業省が定めた住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業) 交付要綱第3条に基づく国庫補助金を住宅・建築物に係る高効率エネルギーシステムを住宅・建築物に導入しようとする方に交付するものです。

実施計画書(新築・増改築)

1. 申込者 システム導入先住所 _____

氏 名 _____

2. システム導入住宅 居住者人数(予定) _____ 人

地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI

↑該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)

工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・
 重量鉄骨造・RC・その他()

↑該当工法に○印をつける

3. 他の補助金への申請状況

今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

4. 導入システム

定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)		— A	— 新・増改築
システムの組み合わせ (該当する仕様に○印をつけ、 省エネ比はメーカー名と型式を 記入する)	空調	ダクト式HPセントラル空調・冷温水式HPセントラル空調・冷温水式HP(部分)空調(HP床暖房等)・ 地中熱利用冷温水式セントラル空調・個別エアコン・ガス温水床暖房・石油温水床暖房・ 太陽熱利用暖房・その他()	
	給湯	CO2冷媒HP給湯器(エコキュート)・潜熱回収型ガス給湯器(エコジョーズ)・ 潜熱回収型石油給湯器(エコフィール)・ガスエンジン給湯器(エコウィル)・ 太陽熱利用給湯器+補助熱源()・ その他()	
	省エネ比	メーカー名： 型式：	
	その他	省エネ換気・照明・断熱強化・その他()	

5. エネルギー計算結果

- ・システム導入後の消費エネルギー削減量 _____ MJ/年 (小数点以下四捨五入) ←算出根拠(F)より転記
- ・システム導入後の消費エネルギー削減率 _____ % (小数点第一位まで) ←算出根拠(G)より転記
- ・システム導入による費用対効果 _____ 円/MJ (小数点第一位まで) ←算出根拠(H)より転記

6. エネルギー計算根拠

※計算方法(計算式、SMASH等のソフトによる計算)に係わらず必ず記入すること

※エネルギー計算については公募要領52～57ページも参照すること

(1) 暖房のエネルギー計算

① 暖房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

暖房の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

() × () ÷ 125(m²) = (a) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

↑ 公募要領52ページ表5

↑ 小数点第二位まで

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で全館もしくは全居室暖房する →②-1へ
- ・ () 複数の機器で暖房する →②-2へ

②-1(単一の機器で全館もしくは全居室暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	暖房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (m ²)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(m ²)			(ア)	(イ)

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		暖房 COP	効率
			(ウ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること

(効率(ウ)) = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

←必ず全居室について記入すること

②-2(複数の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	暖房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (m ²)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (m ²) × 効率	(エアコンの場合) APF
							暖房 COP	効率		
居室①										
居室②										
居室③										
居室④										
居室⑤										
居室⑥										
居室⑦										
居室⑧										
合計			(ア)	(イ)	-				(エ)	-
			↑ 面積は小数点第二位まで		↑ メーカー名・機種名は 補助対象設備のみ記入		補助対象暖房 機器の平均効率 (エ) ÷ (イ) =		(ウ)	

(効率は小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること (効率 = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がエアコンの場合は暖房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(m²) × 効率」は小数点第三位まで記入

③ 暖房エネルギー削減量の算出

- SMASH等のソフトで計算する → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

$$\text{暖房エネルギー削減量} = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

- 断熱強化、省エネ換気を含まない場合

〈補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

暖房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で暖房する居室の床面積 ÷ 暖房する居室の床面積

$$(a) \times (イ) \div (ア) = \frac{(オ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

〈暖房エネルギー削減率の算出〉

1 - 暖房の比較効率 ÷ 補助対象とする暖房機器の(平均)効率

$$1 - \left(\frac{\text{↑ 公募要領53ページ表6}}{\text{(ウ)}} \right) \div \text{(エ)} = \frac{(カ)}{\text{(小数点第三位まで)}}$$

《暖房エネルギー削減量(A)の算出》

補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量 × 暖房エネルギー削減率

$$(オ) \times (カ) = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

- 断熱強化を含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

- 省エネ換気を含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

- 断熱強化、省エネ換気ともに含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

$$\text{暖房エネルギー削減量} = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(2) 冷房のエネルギー計算

① 冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

冷房の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

$$\left(\frac{\text{↑ 公募要領52ページ表5}}{\text{(ハ)}} \right) \times \left(\frac{\text{↑ 小数点第二位まで}}{\text{(ニ)}} \right) \div 125(\text{m}^2) = \frac{(b)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で全館もしくは全居室冷房する → ②-1へ
- ・ () 複数の機器で冷房する → ②-2へ

②-1(単一の機器で全館もしくは全居室冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	冷房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (m ²)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(m ²)			(キ)	(ク)

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		冷房 COP	効率
			(ケ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること

$$\text{(効率(ケ))} = \text{冷房COP} \times 3,600 \div 9,760$$

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

←必ず全居室について記入すること

②-2(複数の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							冷房 COP	効率		
居室①										
居室②										
居室③										
居室④										
居室⑤										
居室⑥										
居室⑦										
居室⑧										
合計			(キ)	(ク)	-				(コ)	
		↑面積は小数点第二位まで		↑メーカー名・機種名は 補助対象設備のみ記入		補助対象冷房 機器の平均効率 (コ)÷(ク)=		(ケ)		

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること (効率=冷房COP×3,600÷9,760) (効率は小数点第三位まで)

※ 機器がエアコンの場合は冷房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 「効率」及び「床面積(㎡)×効率」は小数点第三位まで記入

※ 機器が暖房と同じ場合は「メーカー名」に「暖房と同じ」と記入し、機種名の記入は省略可(エアコンの場合はAPFについても省略可)

③ 冷房エネルギー削減量の算出

- SMASH等のソフトで計算する → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

$$\text{冷房エネルギー削減量(結果)} = \frac{(B)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

- 断熱強化、省エネ換気を含まない場合

〈補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

冷房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で冷房する居室の床面積 ÷ 冷房する居室の床面積

$$(b) \times (k) \div (ki) = \frac{(sa)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

〈冷房エネルギー削減率の算出〉

1 - 冷房の比較効率 ÷ 補助対象とする冷房機器の(平均)効率

$$1 - \frac{0.985}{(ke)} = \frac{(sh)}{\text{(小数点第三位まで)}}$$

《冷房エネルギー削減量(B)の算出》

補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量 × 冷房エネルギー削減率

$$(sa) \times (sh) = \frac{(B)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

- 断熱強化を含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

- 省エネ換気を含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

- 断熱強化、省エネ換気ともに含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

$$\text{冷房エネルギー削減量(結果)} = \frac{(B)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(3) 給湯のエネルギー計算

① 給湯の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

給湯の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)
 () × () ÷ 125 = (c) MJ/年・世帯
↑ 公募要領52ページ表5 ↑ 小数点第二位まで (小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)

メーカー名	機種名 (型式)	電気：APF ガス・石油：給湯効率	台数 (台)

※定型以外の給湯器の場合はメーカー名、型式、台数を記入

③ 給湯エネルギー削減量の算出 ※定型以外の給湯器の場合は、下記(C)に結果のみ記入し(4)へ(計算根拠を別紙添付)

〈給湯エネルギー削減率の算出〉

1 - 導入する機器のエネルギー係数 ÷ 比較するエネルギー係数
 1 - () ÷ () = (ス)
↑ 公募要領54ページ表7 ↑ 公募要領54ページ表8 (小数点第三位まで)

《給湯エネルギー削減量(C)の算出》

給湯の消費エネルギー量 × 給湯エネルギー削減率
 (c) × (ス) = (C) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

(4) 照明のエネルギー計算

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 照明を補助対象とする → ①へ
- ・ () 照明を補助対象としない → (5)へ

① 照明の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

照明の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)
 () × () ÷ 125(m²) = (d) MJ/年・世帯
↑ 公募要領52ページ表5 ↑ 小数点第二位まで (小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

メーカー名	機種名 (型式)	エネルギー消費効率 (lm/W)	台数 (台)	消費電力 (W)
合計				(セ)

家全体の照明の消費電力合計	(ジ)
---------------	-----

※ エネルギー消費効率(lm/W)の高い順に補助対象機器のみ記入すること
 ※ エネルギー消費効率(lm/W) = ランプの全光束(lm)/消費電力(W)
 ※ 家全体の照明機器の型番・消費電力・設置箇所を明記した一覧表を別途添付すること
 ※ (セ)÷(ジ)=0.2以上でない場合は申請不可

(セ)÷(ジ)
(小数点第三位まで)

7. 導入住宅が次世代省エネルギー基準を満たす根拠

次世代省エネルギー基準仕様 断熱強化仕様 (該当する仕様に○を付ける)

- ・新築で次世代省エネルギー基準仕様の場合、以下の項目は記入不要 →8. へ
- ・増改築で次世代省エネルギー基準仕様の場合は、(1)又は(2)で示す。
- ・断熱強化仕様の場合(断熱仕様を補助の対象とする場合)は、(1)及び(2)の双方で示す。
- ・断熱強化仕様の場合は、熱損失係数を必ず記入すること。
また公募要領7ページ<表1>の基準値以下であること。
- ・性能規定による場合は、算出根拠を添付すること。

(1) 基準値との比較で示す場合(建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準による「性能規定」)

導入住宅の熱損失係数	_____	W/m ² ・K
夏期日射取得係数	_____	

(2) 仕様で示す場合(設計・施工の指針による「仕様規定」)

① 断熱仕様

部 位		断熱材の種類	厚さ(単位mm)	次世代省エネ基準 への適合確認	ノンフロン 材の確認
屋 根 又 は 天 井	屋 根				
	天 井				
壁					
外壁の中間階床 の横架材部分					
床	外気に接する部分				
	その他の部分				
土間床等 の外周部	外気に接する部分				
	その他の部分				

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

② 気密仕様

部 位 (取合い部を含む)	材 料 (素 材)	厚さ(単位mm)
壁	()	
床	()	
天井	()	
屋根	()	

③ 開口部の断熱・気密仕様

部 位	種 類	構造又は熱貫流率	気密性等級
窓			
引き戸 及び框ドア			
ド ア			

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

④ 開口部の日射侵入防止措置

部 位	ガラスの日射侵入率	措 置
窓		
引き戸 及び框ドア		
ド ア		

8. システム導入前(申込時点で居住している)の住宅について

① 基本情報

・居住者人数	_____ 人
・地 域	_____ I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI _____
・建物種別	戸建(持ち家)・戸建(賃貸)・集合住宅(持ち家)・集合住宅(賃貸)・社宅・その他(_____)
・工 法	木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・重量鉄骨造・RC・その他(_____)
・築年数	_____ 年
・延べ床面積	_____ m ²
・開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様を記入)	
サッシ	: アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他(_____)
ガラス	: 単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他(_____)
・その他住宅の性能に関わる情報(_____)	

② システム導入前の住宅の空調設備について

	居室 (全居室を 記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	暖房/ 冷房	空調機器 使用の有無	機器の種類	メーカー名	機種名(型式)	使用 年数	他、性能に 関わる情報	台数
居室①			暖・冷	有・無						
居室②			暖・冷	有・無						
居室③			暖・冷	有・無						
居室④			暖・冷	有・無						
居室⑤			暖・冷	有・無						
居室⑥			暖・冷	有・無						
居室⑦			暖・冷	有・無						
居室⑧			暖・冷	有・無						

※全ての居室について記載すること

※分かる範囲で記載すること

※空調設備使用の有無については該当するものに○印をつけること

③ システム導入前の住宅の給湯設備について

メーカー名	機種名 (型式)	使用 年数	他 性能に 関わる情報	台数

※分かる範囲で記載すること

④ システム導入前(直近1年間)の住宅における過去のエネルギー使用量実績値

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合計							

※使用しているエネルギーについて記載すること

※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること

※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること

※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること

※ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印をつけること

※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位(m³もしくはkg)を記入すること

※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること

(例えば、4～5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)

※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入すること

(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1～30日)を記入する)

※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入すること

※灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入すること

※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間(日にち単位)の分かる証憑(検針票または請求書等)の写しを必ず添付すること

実施計画書(既築 A区分(機器のみ))

1. 申込者 システム導入先住所 _____
氏 名 _____
2. システム導入住宅
- ・ 居住者人数(予定) _____ 人
 - ・ 地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI
↑ 該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)
 - ・ 住宅延床面積 _____ m² …(ア)
 - ・ 家全体の暖冷房している(床)面積(空調面積) _____ m² …(イ)
 - ・ 今回補助対象空調設備を導入する居室の合計床面積 _____ m² …(ウ)
 - ・ (ウ)/(ア) _____ (小数点第二位まで記入)
 - ・ 住宅の種別 戸建・分譲マンション
 - ・ 工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・
重量鉄骨造・RC・その他()
↑ 該当工法に○印をつける
 - ・ 築 年 数 _____ 年
 - ・ 開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様)
サッシ:アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他()
ガラス:単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他()
↑ 該当仕様に○印をつける

※(ウ)は、平面図において斜線等で示すこと
※(ウ)/(ア)が0.33以上でない場合は申請不可

3. 他の補助金への申請状況

今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

--

4. 導入システム

定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)						- A				- 既築
システムの組合わせ (該当する仕様に○印をつけ、省エネ比はメーカー名と型式を記入する)						冷温水式HPセントラル空調・冷温水式HP部分空調(HP床暖房等)・ 地中熱利用冷温水式セントラル空調・個別エアコン・ガス温水床暖房・ 石油温水床暖房・太陽熱利用暖房・その他()				
						C02冷媒HP給湯器(エコキュート)・潜熱回収型ガス給湯器(エコジョーズ)・ 潜熱回収型石油給湯器(エコフィール)・ガスエンジン給湯器(エコウィル)・ 太陽熱利用給湯器+補助熱源() その他()				
						メーカー名: 型式:				
						その他()				

5. エネルギー計算結果

- ・ システム導入後の消費エネルギー削減量 _____ MJ/年 (小数点以下四捨五入) ←算出根拠(F)より転記
- ・ システム導入後の消費エネルギー削減率 _____ % (小数点第一位まで) ←算出根拠(G)より転記
- ・ システム導入による費用対効果 _____ 円/MJ (小数点第一位まで) ←算出根拠(H)より転記

6. エネルギー計算根拠

- ※計算方法（計算式、SMASH等のソフトによる計算）に係わらず必ず記入すること
- ※エネルギー計算については公募要領58～63ページも参照すること

(1) 直近1年間のエネルギー使用量実績値

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合計							

- ※使用しているエネルギーについて記載すること
- ※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること
- ※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること
- ※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること
- ※ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印をつけること
- ※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位(m³もしくはkg)を記入すること
- ※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること
(例えば、4～5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)
- ※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入すること
(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1～30日)を記入する)
- ※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入すること
- ※灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入すること
- ※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間(日にち単位)の分かる証拠(検針票または請求書等)の写しを必ず添付すること

(2) 一次消費エネルギー量実績値の算出

① 使用量実績からのエネルギー換算

	使用量実績	換算値	エネルギー消費量
電気	() kWh ×	9.76 MJ/kWh	= (エ) (MJ) (小数点以下四捨五入)
都市ガス	() m ³ × () MJ/m ³		= (オ) (MJ) (小数点以下四捨五入)
LPG	() kg ×	50 MJ/kg	= (カ) (MJ) (小数点以下四捨五入)
灯油	() ℓ ×	37 MJ/ℓ	= (キ) (MJ) (小数点以下四捨五入)

- ※当該住宅で使用していないエネルギーについては空欄にすること
- ※都市ガスの換算値については当該地区のガス会社に照会、確認のこと
- ※LPGの単位がm³の場合はkgに換算(1m³=1.964kg)すること(()内は小数点第三位まで記入)

② 全体の一次消費エネルギー量の計算

(エ))+(オ))+(カ))+(キ))= (ク) _____ (MJ)
-----	-------	-------	-------	-------------------

(3) 暖房のエネルギー計算

① 暖房の消費エネルギー量(MJ)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 暖房用途割合(%)

(ク) _____) × (_____) ÷ 100 = (a) _____ MJ/年・世帯
↑ 公募要領59ページ表11 (小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で暖房する →②-1へ
- ・ () 複数の機器で暖房する →②-2へ

②-1(単一の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)			
					居室①	居室②	居室③
床面積合計(㎡)			(ケ)	(コ)			

↑必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		暖房 COP	効率
			(サ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること

(効率(サ)) = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

②-2(複数の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							暖房 COP	効率		
居室①	居室②	居室③	居室④	居室⑤	居室⑥	居室⑦	居室⑧			
合計			(ケ)	(コ)	-			(シ)	-	

↑面積は小数点第二位まで

↑メーカー名・機種名は
補助対象設備のみ記入

補助対象暖房
機器の平均効率
(シ) ÷ (コ) =

(サ)

(効率は小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること (効率=暖房COP×3,600÷9,760)

※ 機器がエアコンの場合は暖房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(㎡)×効率」は小数点第三位まで記入

③ 既存暖房機器の情報

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	機器種別	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	その他 性能に関する情報
居室①									
居室②									
居室③									
居室④									
居室⑤									
居室⑥									
居室⑦									
居室⑧									

↑石油、ガス、電気のいずれか
該当するものを記入

※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること
※ 既存機器名称の例：石油ファンヒーター、ガスストーブ、エアコン 等
※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

③-1 補助対象設備設置箇所における既存機器の暖房効率

↓いずれかに○印をつける

- ・ () 全て石油(灯油)暖房 → 効率(ズ)0.8
- ・ () 全てガス暖房 → 効率(ズ)0.75
- ・ () 全てエアコン → 効率(ズ)1.095
- ・ () 複数の種別の機器が混在する → 下記の計算へ

〈複数の種別の機器が混在する場合の計算〉

【計算式】

(例) 居室①②に補助対象設備を設置する場合

$$\{(\text{居室①の既存機器効率} \times \text{居室①の床面積}) + (\text{居室②の既存機器効率} \times \text{居室②の床面積})\} \div \text{居室①②の合計床面積}$$

$$\{(\quad \times \quad) + (\quad \times \quad)\} \div (\quad)$$

(計算結果) 効率 = $\frac{\text{ズ}}{\text{(小数点第三位まで)}}$

④ 暖房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 計算式で計算する →⑤へ
- ・ () SMASH等のソフトで計算する

→右記(A)を記入し(4)へ(計算根拠は別紙で添付すること) 暖房エネルギー削減量 = $\frac{\text{(A)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

⑤ 計算式での計算(暖房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

暖房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で暖房する居室の床面積 ÷ 暖房する居室の床面積

$$(\text{a}) \times (\text{コ}) \div (\text{ケ}) = \frac{\text{(セ)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

〈暖房エネルギー削減率の算出〉

1 - 既存機器の(平均)暖房効率 ÷ 補助対象とする暖房機器の(平均)効率

$$1 - (\text{ズ}) \div (\text{サ}) = \frac{\text{(ソ)}}{\text{(小数点第三位まで)}}$$

《暖房エネルギー削減量(A)の算出》

補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量 × 暖房エネルギー削減率

$$(\text{セ}) \times (\text{ソ}) = \frac{\text{(A)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(4) 冷房のエネルギー計算

① 冷房の消費エネルギー量(MJ)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 冷房用途割合(%)

$$(ア) \times (イ) \div 100 = (b) \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ 公募要領59ページ表11 (小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で冷房する →②-1へ
- ・ () 複数の機器で冷房する →②-2へ

②-1(単一の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(㎡)			(ウ)	(エ)

↑必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		冷房 COP	効率
			(ツ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること

$$(効率(ツ)) = \text{冷房COP} \times 3,600 \div 9,760$$

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

②-2(複数の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							冷房 COP	効率		
居室①										
居室②										
居室③										
居室④										
居室⑤										
居室⑥										
居室⑦										
居室⑧										
合計			(ウ)	(エ)	-			(フ)		
		↑面積は小数点第二位まで		↑メーカー名・機種名は 補助対象設備のみ記入		補助対象冷房 機器の平均効率 (フ)÷(エ)=		(ツ)		

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること (効率=冷房COP×3,600÷9,760)

(効率は小数点第三位まで)

※ 機器がエアコンの場合は冷房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(㎡)×効率」は小数点第三位まで記入

※ 機器が暖房と同じ場合は「メーカー名」に「暖房と同じ」と記入し、機種名の記入は省略可(エアコンの場合はAPFについても省略可)

③ 既存冷房機器の情報

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	その他 性能に関わる情報
居室①								
居室②								
居室③								
居室④								
居室⑤								
居室⑥								
居室⑦								
居室⑧								

※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること

※ 既存機器名称の例：エアコン 等

※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

④ 冷房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

・ () 計算式で計算する →⑤へ

・ () SMASH等のソフトで計算する

→右記(B)を記入し(5)へ(計算根拠は別紙で添付すること) **冷房エネルギー削減量** = $\frac{(B)}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

⑤ 計算式での計算(冷房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

冷房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で冷房する居室の床面積 ÷ 冷房する居室の床面積

(b) × (チ) ÷ (タ) = $\frac{(b)}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

〈冷房エネルギー削減率の算出〉

1 - 既存機器の冷房効率 ÷ 補助対象とする冷房機器の(平均)効率

1 - 0.985 ÷ (ツ) = $\frac{(ト)}{\text{(小数点第三位まで)}}$

《冷房エネルギー削減量(B)の算出》

補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量 × 冷房エネルギー削減率

(ト) × (ナ) = $\frac{(B)}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

(5) 給湯のエネルギー計算

① 給湯の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 給湯用途割合(%)

(ク) × () ÷ 100 = $\frac{(c)}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯
↑ 公募要領59ページ表11

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

メーカー名	機種名 (型式)	電気 : APF ガス・石油 : 給湯効率	台数 (台)

③ 既存の機器の効率の算出

機器種別	メーカー名	機種名 (型番)	使用年数 (年)	台数 (台)	他 性能に関わる情報

↑石油、ガス、電気のいずれか該当するものを記入
※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

↑機器種別が石油の場合は、瞬間式か瞬間貯湯式かを記入

④ 給湯エネルギー削減量の算出

〈給湯エネルギー削減率の算出〉

1 導入する機器のエネルギー係数 ÷ 既存の機器のエネルギー係数

$$1 - \left(\frac{\text{↑ 公募要領54ページ表7}}{\text{↑ 公募要領62ページ表13}} \right) \div \left(\frac{\text{↑ 公募要領62ページ表13}}{\text{↑ 公募要領62ページ表13}} \right) = \frac{\text{(ニ)}}{\text{(ニ)}} \quad \text{(小数点第三位まで)}$$

《給湯エネルギー削減量(C)の算出》

給湯の消費エネルギー量 × 給湯エネルギー削減率

$$\text{(c)} \times \text{(ニ)} = \frac{\text{(C)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(6) 照明・その他のエネルギー計算(新規システムの場合のみ)

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 照明・その他で補助対象がある → 下記(D)、(E)を記入し計算根拠を別紙で添付
- ・ () 照明・その他で補助対象はない → (7)へ

$$\text{照明のエネルギー削減量(結果)} = \frac{\text{(D)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

$$\text{その他のエネルギー削減量(結果)} = \frac{\text{(E)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

※照明(またはその他)の消費エネルギー量は、他と同様に「全体の一次消費エネルギー量」×「照明(またはその他)の用途割合(%)」÷100で算出すること

(7) 申請住宅(全体)のエネルギー計算

① 申請住宅(全体)のエネルギー削減量(MJ/年・世帯)の算出

$$\text{(A)} + \text{(B)} + \text{(C)} + \text{(D)} + \text{(E)}$$

$$= \text{(F)} \text{ MJ/年・世帯} \quad \leftarrow \text{1ページ目に転記すること}$$

② 申請住宅(全体)の改修部のエネルギー削減率(%)の算出

$$\text{(セ)} + \text{(ト)} + \text{(c)} + \left(\frac{\text{(ニ)}}{\text{(ニ)}} \right) + \left(\frac{\text{(ニ)}}{\text{(ニ)}} \right)$$

$$= \text{(f)} \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ (照明を改修した場合のみ) 照明の改修部の消費エネルギー量 ↑ (その他を改修した場合のみ) その他の改修部の消費エネルギー量

$$= \text{(F)} \div \text{(f)} \times 100 = \frac{\text{(G)}}{\text{(小数点第一位まで)}} \% \quad \leftarrow \text{1ページ目に転記すること}$$

③ 費用対効果(円/MJ)の算出

補助対象費用(1/3をする前の費用)[税込] ÷ 申請住宅(全体)のエネルギー削減量

$$= \left(\frac{\text{補助対象費用}}{\text{(F)}} \right) \div \text{(F)} = \frac{\text{(H)}}{\text{(小数点第一位まで)}} \text{ 円/MJ} \quad \leftarrow \text{1ページ目に転記すること}$$

実施計画書(既築 D1(断熱改修のみ))

1. 申込者 システム導入先住所 _____

氏 名 _____

2. システム導入住宅 ・ 居住者人数(予定) _____ 人

・ 地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI
↑該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)

・ 住宅延床面積 _____ m² …(ア)

・ 家全体の暖冷房している(床)面積(空調面積) _____ m² …(イ)

・ 断熱改修面積 _____ m² …(ウ)

・ (ウ)／(ア) _____ (小数点第二位まで記入)

・ 暖冷房している全ての居室を改修するか はい ・ いいえ
↑該当に○印をつける

・ 住宅の種別 戸建・分譲マンション

・ 工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・
重量鉄骨造・RC・その他()
↑該当工法に○印をつける

・ 築 年 数 _____ 年

・ 既設の開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様)
サッシ:アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他()
ガラス:単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他()
↑該当仕様に○印をつける

※ (ウ)は、平面図において斜線等で示すこと

※(ウ)／(ア)が0.5以上でない場合、及び暖冷房している全ての居室を改修しない場合は申請不可

3. 他の補助金への申請状況

今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

--

4. 導入システム

定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)			-D	0	1				-既築
断熱改修の組み合わせ	窓ガラス	窓サッシ	外壁又は壁	床	天井又は屋根	ドア			
(該当する改修部位に○印をつける)									

5. エネルギー計算結果

・システム導入後の消費エネルギー削減量	_____ MJ/年	(小数点以下四捨五入)	←算出根拠(A)より転記
・システム導入後の消費エネルギー削減率	_____ %	(小数点第一位まで)	←算出根拠(B)より転記
・システム導入による費用対効果	_____ 円/MJ	(小数点第一位まで)	←算出根拠(C)より転記

6. エネルギー計算根拠

※計算方法(計算式、SMASH等のソフトによる計算)に係わらず必ず記入すること

※エネルギー計算については公募要領58～63ページも参照すること

(1) 直近1年間のエネルギー使用量実績値

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合計							

※使用しているエネルギーについて記載すること

※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること

※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること

※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること

※ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印をつけること

※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位(m³もしくはkg)を記入すること

※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること

(例えば、4～5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)

※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入すること

(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1～30日)を記入する)

※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入すること

※灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入すること

※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間(日にち単位)の分かる証拠(検針票または請求書等)の写しを必ず添付すること

(2) 一次消費エネルギー量実績値の算出

① 使用量実績からのエネルギー換算

	使用量実績		換算値		エネルギー消費量
電気	() kWh	×	9.76 MJ/kWh	=	$\frac{(エ)}{(小数点以下四捨五入)}$ (MJ)
都市ガス	() m ³	×	() MJ/m ³	=	$\frac{(オ)}{(小数点以下四捨五入)}$ (MJ)
LPG	() kg	×	50 MJ/kg	=	$\frac{(カ)}{(小数点以下四捨五入)}$ (MJ)
灯油	() ㍓	×	37 MJ/㍓	=	$\frac{(キ)}{(小数点以下四捨五入)}$ (MJ)

※当該住宅で使用していないエネルギーについては空欄にすること

※都市ガス換算値については当該地区のガス会社に照会、確認のこと

※LPGの単位がm³の場合はkgに換算(1m³=1.964kg)すること()内は小数点第三位まで記入)

② 全体の一次消費エネルギー量の計算

$$(エ) + (オ) + (カ) + (キ) = (ク) \text{ (MJ)}$$

(3) エネルギー削減計算

① 暖冷房の消費エネルギー量(MJ)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (暖房用途割合 + 冷房用途割合) (%)

$$(ク) \times \left\{ \left(\frac{\quad}{\quad} \right) + \left(\frac{\quad}{\quad} \right) \right\} \div 100 = \frac{(a)}{(小数点以下四捨五入)} \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ 公券要領59ページ表11 ↑

② 断熱改修のエネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

・ () みなし削減率及び計算式で計算する → ③へ

・ () SMASH等のソフトで計算する → 下記(A)を記入し(4)へ(計算根拠は別紙で添付すること)

$$\text{断熱改修の暖冷房エネルギー削減量} = \frac{(A)}{(小数点以下四捨五入)} \text{ MJ/年・世帯}$$

③ みなし削減率及び計算式での計算(断熱改修における暖冷房エネルギー削減量の算出)

↓該当に○印をつける

・ () 家全体の改修であり、全体を同じ削減率で計算できる → 断熱改修のエネルギー削減率 $(ケ) \%$

$$\begin{aligned} & \text{暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)} \times \text{断熱改修のエネルギー削減率}(\%) \div 100 \\ & = (a) \times (ケ) \div 100 = \frac{(A)}{(小数点以下四捨五入)} \text{ MJ/年・世帯} \quad \leftarrow 2\text{ページ目に転記すること} \end{aligned}$$

・ () 居室毎もしくは階毎に計算する必要がある → 下記に計算根拠を記入

【計算根拠】

$$\text{(計算結果) エネルギー削減量} = \frac{(A)}{(小数点以下四捨五入)} \text{ MJ/年・世帯} \quad \leftarrow 2\text{ページ目に転記すること}$$

(4) エネルギー削減率・費用対効果の算出

① エネルギー削減率(%)の算出

暖冷房のエネルギー削減量(MJ/年・世帯) ÷ 暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 100

$$= \frac{(A)}{(a)} \times 100 = \frac{(B)}{(小数点第一位まで)} \% \quad \leftarrow 2\text{ページ目に転記すること}$$

② 費用対効果(円/MJ)の算出

補助対象費用(1/3をする前の費用)[税込] ÷ 申請住宅(全体)のエネルギー削減量

$$= \left(\frac{\quad}{\quad} \right) \div (A) = \frac{(C)}{(小数点第一位まで)} \text{ 円/MJ} \quad \leftarrow 2\text{ページ目に転記すること}$$

7. 断熱改修の仕様

① 断熱仕様

部 位		断熱材の種類	厚さ(単位mm)	次世代省エネ基準への 適合確認	ノンフロン 材の確認
屋根又は天井	屋 根				
	天 井				
壁					
外壁の中間階床の横架材部分					
床	外気に接する部分				
	その他の部分				
土間床等の外周部	外気に接する部分				
	その他の部分				

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

② 開口部の断熱・気密仕様

部 位	種 類	構造又は熱貫流率	次世代省エネ基準への 適合確認 (窓ガラス・窓サッシは 仕様等の確認)
窓ガラス・窓サッシ			
引き戸及び框ドア			
ド ア			

③ 開口部の日射侵入防止措置

部 位	ガラスの日射侵入率	措 置
窓		
引き戸及び框ドア		
ド ア		

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

8. 空調設備・給湯設備の情報

① 空調設備

	居室 (全居室を 記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房/ 冷房	空調機器 使用の有無	機器の種類	メーカー名	機種名(型式)	使用 年数	他、性能に 関わる情報	台数
居室①			暖・冷	有・無						
居室②			暖・冷	有・無						
居室③			暖・冷	有・無						
居室④			暖・冷	有・無						
居室⑤			暖・冷	有・無						
居室⑥			暖・冷	有・無						
居室⑦			暖・冷	有・無						
居室⑧			暖・冷	有・無						

※全ての居室について記載すること

※現在設置している機器について分かる範囲で記載すること

② 給湯設備

メーカー名	機種名 (型式)	使用 年数	他 性能に 関わる情報	台数

※現在設置している機器について分かる範囲で記載すること

実施計画書(既築 D2～4(断熱改修＋機器))

1. 申込者 システム導入先住所 _____
 氏 名 _____

2. システム導入住宅

- ・ 居住者人数(予定) _____人
- ・ 地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI
↑ 該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)
- ・ 住宅延床面積 _____㎡ ……(ア)
- ・ 家全体の暖冷房している(床)面積(空調面積) _____㎡ ……(イ)
- ・ 断熱改修面積 _____㎡ ……(ウ)
- ・ (ウ)／(ア) _____ (小数点第二位まで記入)
- ・ 暖冷房している全ての居室を断熱改修する はい ・ いいえ
↑ 該当に○印をつける
- ・ 住宅の種別 戸建・分譲マンション
- ・ 工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・
 重量鉄骨造・RC・その他()
↑ 該当工法に○印をつける
- ・ 築 年 数 _____年
- ・ 既設の開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様)
 サッシ:アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他()
 ガラス:単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他()
↑ 該当仕様に○印をつける

※ (ウ)は、平面図において斜線等で示すこと

※ (ウ)／(ア)が0.5以上でない場合、及び暖冷房している全ての居室を改修しない場合は申請不可

3. 他の補助金への申請状況

今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

4. 導入システム

定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)			-D		-既築		
断熱改修の組合わせ (該当する改修部位に○印をつける)	窓ガラス	窓サッシ	外壁又は壁	床	天井又は屋根	ドア	
機器の組合わせ (該当する仕様に○印をつけ、省エネ比はメーカー名と型式を記入する)	空調	冷温水式HP空調（HP床暖房等）・地中熱利用冷温水式空調・個別エアコン・ガス温水床暖房・石油温水床暖房・太陽熱利用暖房・その他（ ）					
	給湯	CO2冷媒HP給湯器（エコキュート）・潜熱回収型ガス給湯器（エコジョーズ）・潜熱回収型石油給湯器（エコフィール）・ガスエンジン給湯器（エコイル）・太陽熱利用給湯器＋補助熱源（ ）・その他（ ）					
	省エネ比	メーカー名： 型式：					
	その他	照明・その他（ ）					

5. エネルギー計算結果

- ・システム導入後の消費エネルギー削減量 _____ MJ/年 (小数点以下四捨五入) ←算出根拠(G)より転記
- ・システム導入後の消費エネルギー削減率 _____ % (小数点第一位まで) ←算出根拠(H)より転記
- ・システム導入による費用対効果 _____ 円/MJ (小数点第一位まで) ←算出根拠(I)より転記

6. エネルギー計算根拠

※計算方法（計算式、SMASH等のソフトによる計算）に係わらず必ず記入すること

※エネルギー計算については公募要領58～63ページも参照すること

(1) 直近1年間のエネルギー使用量実績値

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合計							

※使用しているエネルギーについて記載すること

※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること

※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること

※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること

※ガスについては、都市ガスかLPG（プロパンガス）のどちらか該当する項目に○印をつけること

※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位（m³もしくはkg）を記入すること

※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること

（例えば、4～5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する）

※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備（エコウィル）等の発電設備を設置している方は、発電量（モニター数値）を記入すること

（上段に発電量、下段に発電量の計測期間（例えば、4月分は1～30日）を記入する）

※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量（検針票の数値）も記入すること

※灯油、その他（ペレットや重油など）を使用している方は、月毎の購入量を記入すること

※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間（日にち単位）の分かる証憑（検針票または請求書等）の写しを必ず添付すること

(2) 一次消費エネルギー量実績値の算出

① 使用量実績からのエネルギー換算

	使用量実績		換算値		エネルギー消費量
電気	() kWh	×	9.76 MJ/kWh	=	$\frac{(エ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} (MJ)$
都市ガス	() m ³	×	() MJ/m ³	=	$\frac{(オ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} (MJ)$
LPG	() kg	×	50 MJ/kg	=	$\frac{(カ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} (MJ)$
灯油	() ㍓	×	37 MJ/㍓	=	$\frac{(キ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} (MJ)$

※当該住宅で使用していないエネルギーについては空欄にすること

※都市ガスの換算値については当該地区のガス会社に照会、確認のこと

※LPGの単位がm³の場合はkgに換算(1m³=1.964kg)すること()内は小数点第三位まで記入

② 全体の一次消費エネルギー量の計算

$$(エ) + (オ) + (カ) + (キ) = (ク) (MJ)$$

(3) 断熱改修によるエネルギー削減計算

① 暖冷房の消費エネルギー量(MJ)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (暖房用途割合 + 冷房用途割合) (%)

$$(ク) \times \{ () + () \} \div 100 = \frac{(a)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ 公募要領59ページ表11 ↑

② 断熱改修のエネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

・ () みなし削減率及び計算式で計算する → ③へ

・ () SMASH等のソフトで計算する → 下記(A)を記入し④へ(計算根拠は別紙で添付すること)

$$\text{断熱改修の暖冷房エネルギー削減量} = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

③ みなし削減率及び計算式での計算(断熱改修における暖冷房エネルギー削減量の算出)

↓該当に○印をつける

・ () 家全体の改修であり、全体を同じ削減率で計算できる → 断熱改修のエネルギー削減率 $\frac{(ケ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \%$

↑ 公募要領64～65ページ

暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 断熱改修のエネルギー削減率 (%)

$$(a) \times (ケ) \div 100 = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

・ () 居室毎もしくは階毎に計算する必要がある → 下記に計算根拠を記入

【計算根拠】

$$\text{(計算結果) エネルギー削減量} = \frac{(A)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

④ 断熱改修によるエネルギー削減率(%)の算出

暖冷房のエネルギー削減量(MJ/年・世帯) ÷ 暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)

$$= (A) \div (a) \times 100 = \frac{(ケ)}{\text{(小数点第一位まで)}} \%$$

(4) 補助対象空調設備による暖房エネルギー削減計算（モデル区分D4の場合は③のみ記入のこと）

① 暖房の消費エネルギー量(MJ)（断熱改修後）の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 暖房用途割合(%)

$$(ア) \times (イ) \div 100 = \frac{(ウ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ 公募要領59ページ表11

暖房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (1 - 断熱改修によるエネルギー削減率% ÷ 100)

$$(エ) \times (1 - (ケ) \div 100) = \frac{(b)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

② 今回導入する機器（補助対象とするもの）の効率の算出

↓ どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で暖房する → ②-1へ
- ・ () 複数の機器で暖房する → ②-2へ

②-1（単一の機器で暖房する場合）

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(㎡)			(サ)	(シ)

↑ 必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		暖房 COP	効率
			(ス)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること
(効率(ス) = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

②-2（複数の機器で暖房する場合）

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							暖房 COP	効率		
居室①										
居室②										
居室③										
居室④										
居室⑤										
居室⑥										
居室⑦										
居室⑧										
合計			(サ)	(シ)	-			(セ)	-	

↑ 面積は小数点第二位まで

↑ メーカー名・機種名は
補助対象設備のみ記入

$$\frac{\text{補助対象暖房機器の平均効率 (セ)}}{\text{(シ)}} =$$

(ス) (効率は小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること (効率 = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がエアコンの場合は暖房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(㎡) × 効率」は小数点第三位まで記入

③ 既存暖房機器の情報

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	機器種別	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	その他 性能に関する情報
居室①									
居室②									
居室③									
居室④									
居室⑤									
居室⑥									
居室⑦									
居室⑧									

↑石油、ガス、電気のいずれか
該当するものを記入

- ※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること
- ※ 既存機器名称の例：石油ファンヒーター、ガストーブ、エアコン 等
- ※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

③-1 補助対象設備設置箇所における既存機器の暖房効率

↓いずれかに○印をつける

- ・ () 全て石油(灯油)暖房 → 効率(%)0.8
- ・ () 全てガス暖房 → 効率(%)0.75
- ・ () 全てエアコン → 効率(%)1.095
- ・ () 複数の種別の機器が混在する → 下記の計算へ

〈複数の種別の機器が混在する場合の計算〉

【計算式】

(例) 居室①②に補助対象設備を設置する場合

$$\{(\text{居室①の既存機器効率} \times \text{居室①の床面積}) + (\text{居室②の既存機器効率} \times \text{居室②の床面積})\} \div \text{居室①②の合計床面積}$$

$$\{(\quad \times \quad) + (\quad \times \quad)\} \div (\quad)$$

(計算結果) 既存機器の平均暖房効率 ()
(小数点第三位まで)

④ 暖房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 計算式で計算する →⑤へ
- ・ () SMASH等のソフトで計算する ※暖房の消費エネルギー量から断熱改修分の削減量を差引いてから計算すること
→右記(B)を記入し(5)へ(計算根拠は別紙で添付すること) **暖房エネルギー削減量 = (B)** MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

⑤ 計算式での計算(暖房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

$$\text{暖房の消費エネルギー量(断熱改修後)} \times \text{補助対象機器で暖房する居室の床面積} \div \text{暖房する居室の床面積}$$

$$(b) \times (\text{シ}) \div (\text{サ}) = (\text{タ}) \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

〈暖房エネルギー削減率の算出〉

$$1 - \text{既存機器の(平均)暖房効率} \div \text{補助対象とする暖房機器の(平均)効率}$$

$$1 - (\text{ソ}) \div (\text{ス}) = (\text{チ})$$

(小数点第三位まで)

《補助対象空調設備による暖房エネルギー削減量(B)の算出》

$$\text{補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量} \times \text{暖房エネルギー削減率}$$

$$(\text{タ}) \times (\text{チ}) = (\text{B}) \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

(5) 補助対象空調設備による冷房エネルギー削減計算（モデル区分D4の場合は③のみ記入のこと）

① 冷房の消費エネルギー量(MJ)（断熱改修後）の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 冷房用途割合(%)

$$(ク) \times () \div 100 = \frac{(ツ)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

↑ 公募要領59ページ表11

冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (1 - 断熱改修によるエネルギー削減率(%) ÷ 100)

$$(ツ) \times (1 - (ケ) \div 100) = \frac{(c)}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓ どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で冷房する → ②-1へ
- ・ () 複数の機器で冷房する → ②-2へ

②-1(単一の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(㎡)			(テ)	(ト)

↑ 必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		冷房 COP	効率 (ナ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること

$$(\text{効率}(ナ)) = \text{冷房COP} \times 3,600 \div 9,760$$

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

②-2(複数の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							冷房 COP	効率		
居室①										
居室②										
居室③										
居室④										
居室⑤										
居室⑥										
居室⑦										
居室⑧										
合計			(テ)	(ト)	-			(ニ)	-	

↑ 面積は小数点第二位まで

↑ メーカー名・機種名は
補助対象設備のみ記入

$$\text{補助対象冷房機器の平均効率} \\ (ニ) \div (ト) =$$

(効率は小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること (効率 = 冷房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がエアコンの場合は冷房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 「効率」及び「床面積(㎡) × 効率」は小数点第三位まで記入

※ 機器が暖房と同じ場合は「メーカー名」に「暖房と同じ」と記入し、機種名の記入は省略可(エアコンの場合はAPFについても省略可)

③ 既存冷房機器の情報

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	その他 性能に関する情報
居室①								
居室②								
居室③								
居室④								
居室⑤								
居室⑥								
居室⑦								
居室⑧								

※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること

※ 既存機器名称の例：エアコン 等

※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

④ 冷房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

・ () 計算式で計算する →⑤へ

・ () SMASH等のソフトで計算する ※冷房の消費エネルギー量から断熱改修分の削減量を差引いてから計算すること

→右記(C)を記入し(6)へ(計算根拠は別紙で添付すること) **冷房エネルギー削減量** = $\frac{(C)}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

⑤ 計算式での計算(冷房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

冷房の消費エネルギー量(断熱改修後) × 補助対象機器で冷房する居室の床面積 ÷ 冷房する居室の床面積

(c) × (d) ÷ (e) = (x) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

〈冷房エネルギー削減率の算出〉

1 - 既存機器の冷房効率 ÷ 補助対象とする冷房機器の(平均)効率

1 - 0.985 ÷ (ナ) = (ネ)
(小数点第三位まで)

《補助対象空調設備による冷房エネルギー削減量(C)の算出》

補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量 × 冷房エネルギー削減率

(x) × (ネ) = (C) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

(6) 給湯のエネルギー計算(モデル区分D2の場合は③のみ記入のこと)

① 給湯の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 給湯用途割合(%)

$$\left(\text{ク} \right) \times \left(\begin{array}{c} \uparrow \text{公募要領59ページ表11} \end{array} \right) \div 100 = \frac{\text{(d)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

メーカー名	機種名 (型式)	電気 : APF ガス・石油 : 給湯効率	台数 (台)

③ 既存の機器の効率の算出

機器種別	メーカー名	機種名 (型番)	使用年数 (年)	台数 (台)	他 性能に関わる情報

↑石油、ガス、電気のいずれか該当するものを記入
※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

↑機器種別が石油の場合は、瞬間式か瞬間貯湯式かを記入

④ 給湯エネルギー削減量の算出

《給湯エネルギー削減率の算出》

1 - 導入する機器のエネルギー係数 ÷ 既存の機器のエネルギー係数

$$1 - \left(\begin{array}{c} \uparrow \text{公募要領54ページ表7} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{c} \uparrow \text{公募要領62ページ表13} \end{array} \right) = \frac{\text{(J)}}{\text{(小数点第三位まで)}}$$

《給湯エネルギー削減量(D)の算出》

給湯の消費エネルギー量 × 給湯エネルギー削減率

$$\left(\text{d} \right) \times \left(\text{J} \right) = \frac{\text{(D)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(7) 照明・その他のエネルギー計算(新規システムの場合のみ)

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 照明・その他で補助対象がある → 下記(E)、(F)を記入し計算根拠を別紙で添付
- ・ () 照明・その他で補助対象はない → (8)へ

照明のエネルギー削減量(結果) = $\frac{\text{(E)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

その他のエネルギー削減量(結果) = $\frac{\text{(F)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}}$ MJ/年・世帯

※照明(またはその他)の消費エネルギー量は、他と同様に「全体の一次消費エネルギー量」×「照明(またはその他)の用途割合(%)」÷100で算出すること

(8) 申請住宅(全体)のエネルギー計算

① 申請住宅(全体)のエネルギー削減量(MJ/年・世帯)の算出

$$(A) + (B) + (C) + (D) + (E) + (F)$$

= (G) MJ/年・世帯 ←2ページ目に転記すること

② 申請住宅(全体)の改修部のエネルギー削減率(%)の算出

$$(a) + (d) + () + ()$$

= (g) MJ/年・世帯

↑(照明を改修した場合のみ) 照明の改修部の消費エネルギー量 ↑(その他を改修した場合のみ) その他の改修部の消費エネルギー量

$$(G) \div (g) \times 100 = (H) \% \left(\text{小数点第一位まで} \right)$$

←2ページ目に転記すること

③ 費用対効果(円/MJ)の算出

補助対象費用(1/3をする前の費用)[税込] ÷ 申請住宅(全体)のエネルギー削減量

= () ÷ (G) = (I) 円/MJ (小数点第一位まで)

←2ページ目に転記すること

(9) 断熱改修の仕様

① 断熱仕様

部 位		断熱材の種類	厚さ(単位mm)	次世代省エネ基準への適合確認	ノンフロン材の確認
屋根又は天井	屋 根				
	天 井				
壁					
外壁の中間階床の横架材部分					
床	外気に接する部分				
	その他の部分				
土間床等の外周部	外気に接する部分				
	その他の部分				

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

② 開口部の断熱・気密仕様

部 位	種 類	構造又は熱貫流率	次世代省エネ基準への適合確認 (窓ガラス・窓サッシは仕様等の確認)
窓ガラス・窓サッシ			
引き戸及び框ドア			
ド ア			
窓、引き戸及び框ドア			
ド ア			

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

③ 開口部の日射侵入防止措置

部 位	ガラスの日射侵入率	措 置
窓		
引き戸及び框ドア		
ド ア		

追加的節電実施計画書（新築・増築・改築）

1. 申込者 導入先住所 _____
氏 名 _____

2. 消費電力の削減率の計算

・今回導入する照明器具のW数の合計と、電球形LEDの合計W数と白熱電球の合計W数の差分の算出

室番号	室名	機器種別	機器のメーカー名	機種名(型式)	機器のワット(W)数	台数	機器ごとのW数の合計(ア)	導入するLEDのルーメン(lm)数	白熱電球換算W数	白熱電球換算W数の合計(イ)	(ア)と(イ)の差分(イ)-(ア)
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
合計							(a)			(b)	

↑電球形LEDランプの個所のみ記入

- ・今回導入する照明器具のW数の合計(a)
- ・電球形LEDランプのW数と、電球形LEDランプのW数を白熱電球のW数に換算したW数の差分の合計(b)

消費電力の削減率(%) = (b) ÷ {(a) + (b)} × 100

((b)) ÷ ((a)+(b)) × 100 = %
(小数点第一位まで)

追加的節電実施計画書（既築（全区分共通））

1. 申込者 導入先住所 _____
氏 名 _____

2. 消費電力の削減率の計算

・住宅全体の改修後の照明器具のW数の合計と、電球形LEDの合計W数とLEDで代替する照明器具の合計W数の差分の算出

	室名	機器種別	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の ワット(W)数	台数	機器ごとの W数の 合計 (ア)	LEDで代替 する既存の 照明のW数	台数	LEDで代替 する既存の 照明のW数の 合計 (イ)	(ア)と(イ) の差分 (イ)-(ア)
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
合計											

※ 既存の照明のメーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

↑電球形LEDランプの箇所のみ記入

- ・住宅全体の改修後の照明器具のW数の合計(a)
- ・今回導入する電球形LEDランプのW数と、今回導入する電球形LEDランプで代替する既存の照明器具のW数の差分の合計(b)

消費電力の削減率 (%) = (b) ÷ {(a) + (b)} × 100

((b)) ÷ ((a)+(b)) × 100 = %
(小数点第一位まで)

費用総括表

- ・費用明細書を元に、システムを構成する設備ごとの補助対象合計金額を総括表に記載すること
- ・費用明細書の金額と整合性が取れるようにすること

システムを構成する設備		補助対象の合計金額		摘要	
空調設備	計		円		
給湯設備	計		円		
省エネナビ	計		円		
照明設備	計		円		
その他()	計		円	注) 追加的節電対策の補助対象金額はここに記入すること	
小 計(A)			円		
断熱強化仕様に係る費用(新築・増築及び改築のみ)					
サ ラ ラ 部 ス 部	断熱強化仕様	計		円	…① (①と②の差額が補助対象額)
	次世代省エネルギー 基準仕様	計	△	円	…②
断 熱 部	断熱強化仕様	計		円	…③ (③と④の差額が補助対象額)
	次世代省エネルギー 基準仕様	計	△	円	…④
小 計(B=差額の合計)				円	注) 開口部及び断熱は、次世代省エネルギー基準仕様との差額が補助対象
断熱改修に係る費用(既築のみ)		計		円	
小 計(C)				円	
換 気 設 備	省エネ換気	計		円	…⑤ (⑤と⑥の差額が補助対象額)
	通常の同種機械換気	計	△	円	…⑥
小 計(D=差額)				円	注) 換気設備は、通常の機械換気との差額が補助対象
合 計(=A+B+C+D)				円	
消費税				円	
合 計(税込) (E)				円	(小数点以下切り捨て)
補助金交付申請予定額 (F=E/3)				円	(小数点以下切り捨て) 【様式第1 補助事業申込書】に転記

費用明細書【空調設備】

注1: 補助対象費用と補助対象外費用の合計が、別添の見積書(写)と相関がとれるようにすること

注2: 補助対象工事費については、作業レベルまで記載し、工数(人工等)、単価を明確にすること

注3: 補助対象・補助対象外の費目の詳細については、77ページを参照

注4: 見積書の各項目が税込金額で記載されている場合は、必ず[税抜]に修正して作成すること

※複数枚に及ぶ場合

(/ ページ)

＜補助対象費用＞

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)									
設備費計								—	
費目	図面No.	工事名・作業内容			数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考
設置工事費									
電気工事費									
その他 工事費									
工事費計								—	
補助対象合計金額[税抜]								← 費用総括表へ転記	

＜補助対象外費用＞

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	—								
設備費計								—	
費目	図面No.	工事名・作業内容					金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	—								
電気工事費	—								
諸経費等	—								
工事費・諸経費等計								—	
補助対象外合計金額[税抜]								← 総括表への転記不要	

※当様式は定型様式ではあるが、行数の調整等の変更は可

費用明細書【給湯設備】

注1: 補助対象費用と補助対象外費用の合計が、別添の見積書(写)と相関がとれるようにすること
 注2: 補助対象工事費については、作業レベルまで記載し、工数(人工等)、単価を明確にすること
 注3: 補助対象・補助対象外の費目の詳細については、77～78ページを参照
 注4: 見積書の各項目が税込金額で記載されている場合は、必ず[税抜]に修正して作成すること

※複数枚に及ぶ場合
(/ ページ)

< 補助対象費用 >

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考	
設備費 (材料費)										
設備費計									—	
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考		
設置工事費										
電気工事費										
配管接続・排 水配管工事費										
その他 工事費										
工事費計									—	
補助対象合計金額[税抜]									← 費用総括表へ転記	

< 補助対象外費用 >

費目	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考		
設備費 (材料費)	風呂接続 アダプター									
	追炊配管									
設備費計									—	
費目	図面No.	工事名・作業内容				金額(円) [税抜]	備考			
設置工事費	—									
電気工事費	—									
配管工事費	—									
諸経費等	—									
工事費・諸経費等計									—	
補助対象外合計金額[税抜]									← 総括表への転記不要	

※当様式は定型様式ではあるが、行数の調整等の変更は可

費用明細書【省エネナビ・省エネ換気・照明・開口部・断熱部・その他】

注1: 補助対象費用と補助対象外費用の合計が、別添の見積書(写)と相関がとれるようにすること

注2: 補助対象工事費については、作業レベルまで記載し、工数(人工等)、単価を明確にすること

注3: 補助対象・補助対象外の費目の詳細については、77ページを参照

注4: 省エネ換気、断熱強化等の補助対象費用を算出するための通常の機械換気、次世代省エネルギー基準仕様等の費用についても、他の補助対象設備と同様に当費用明細書を作成すること(費用総括表で差額を算出すること)

注5: 見積書の各項目が税込金額で記載されている場合は、必ず[税抜]に修正して作成すること

※複数枚に及ぶ場合

(/ ページ)

< 補助対象費用 >

費目	図面No.	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)									
設備費計									—
費目	図面No.	工事名・作業内容			数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考
設置工事費									
工事費計									—
補助対象合計金額[税抜]									← 費用総括表へ転記

< 補助対象外費用 >

費目	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考	
設備費 (材料費)	—								
設備費計									—
費目	図面No.	工事名・作業内容				金額(円) [税抜]	備考		
工事費	—								
諸経費等	—								
工事費・諸経費等計									—
補助対象外合計金額[税抜]									← 総括表への転記不要

※当様式は定型様式ではあるが、行数の調整等の変更は可

新規システム事前相談票

平成 23 年 月 日

一般社団法人 環境共創イニシアチブ(SII)
 審査第2グループ 住宅担当 宛

FAX: 03-5610-9761 (※番号をお間違いのないようご注意ください)

提案者	住所	
	会社名	
	部署名	
	氏名	
連絡先	TEL/FAX	
	メールアドレス	

1. 提案システムの名称

※簡潔な名称を提案者が設定すること
 ※提案が複数の場合は付番等で区別しやすい名称とすること

2. 提案システムのモデル区分(○で囲む)

A1・A4・A10・A14・A15・A22・A27・A28・D1・D2・D3・D4

3. 提案システムの種類(○で囲む。)

- ・定型システム内機器の別の組合せ
- ・上記以外

4. 提案システム概要及びシステム提案要件適合確認

<p>○空調(概要・性能)</p> <p>○給湯(概要・性能)</p> <p>○その他の設備(概要・性能)</p>	<p style="text-align: center;">システム提案要件への適合 (適合箇所へチェックを入れる)</p> <p style="text-align: center;">※公募要領22ページ参照</p> <p>◆交付要件 要件 イ)の適合・・・ <input type="checkbox"/></p> <p>◆システム構成 要件 ロ)、ハ)の適合・・・ <input type="checkbox"/></p> <p>◆構成設備の評価 要件 ニ)の適合・・・ <input type="checkbox"/></p> <p>◆機器の性能基準等 要件 ホ)の適合・・・ <input type="checkbox"/></p> <p>◆提案の対象外 要件 ヘ)の適合・・・ <input type="checkbox"/></p>
-------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5. システム導入住宅の種別(○で囲む)

新築・増築・改築・既築

6. システム導入住宅の地域区分(○で囲む)

I a・I b・II・III・IV a・IV b・V・VI

7. 当提案システムでの申込予定者

※当提案システムで複数名申込む予定の場合 → 現在の申込み予定者数 _____ 名(代表して1名を記入)

住所
 氏名
 電話番号

※新規システムでの申込みをご検討の場合は、本用紙にて、**平成23年8月10日(水)～8月19日(金)**の間にFAXにてご相談ください。(上記期間以外における相談は不可)

平成 23 年 月 日

平成 23 年度 住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業 (住宅に係るもの)
高効率エネルギーシステム提案書

1. システム名称 _____

2. 事前相談結果番号 No. _____

3. 申込者

郵便番号
住 所
氏 名
電話番号

4. システム提案者

郵便番号
住 所
名 称
代表者名
部 署 名
役 職 名
氏 名
電話番号
F A X
E-mail

注) ・「システム名称」は事前相談の名称と同一のものとすること。
・「事前相談結果番号」は S I I から発行された事前相談結果票に記載された番号を記入すること。
・システム提案者は常時連絡がとれる連絡先を記入すること。

システムNo. (SII記載箇所)	- - - - 空・給・断熱改修・その他()
----------------------	-------------------------

システム名称	
システムの 組合せ	・空調 HP・ガス・石油温水・温風暖房・太陽熱利用暖房・その他()
	・給湯 HP・ガス・石油・コージェネ・太陽熱・その他()
	・断熱改修 改修部位() ※既築の場合のみ
	・その他 省エネ換気・照明・断熱強化・その他()
申込住宅	エネルギー削減率 % 費用対効果 円/MJ
	地域 I a ・ I b ・ II ・ III ・ IVa ・ IVb ・ V ・ VI
	延床面積 階数
	構造

システム概要・機器等の仕様

システム概要図	機器等の仕様

システムの概要

--

提案者	会社名	
	部署名	
	担当者名	
	電話番号	
	FAX番号	

<p>概要詳細 及び特徴</p>		
<p>先進性</p>		
<p>汎用性</p>	<p>適用可能な 地域</p>	<p>I a ・ I b ・ II ・ III ・ IVa ・ IVb ・ V ・ VI</p>
	<p>上記該当 地域の エネルギー 削減率</p>	<p>(125㎡でシミュレーションし、根拠を別添すること)</p>
<p>その他</p>		

交付要件等確認書

(交付要件について)	確認欄
・当事業の交付要件（公募要領 5～7 ページ）について、全て確認し了承している。	<input type="checkbox"/>
(補助事業者の資格)	
・申込者は、システムを導入する住宅の建築主（既築の場合は所有者）であり、その住宅に常時居住する。	<input type="checkbox"/>
(工事請負契約及び工事期間について)	
・申込時点（今現在）において、補助対象システムの工事請負契約及び着工は行っていない。	<input type="checkbox"/>
・予約者決定（平成 23 年 10 月中旬予定）以降、30 日以内に補助対象システムの工事請負契約をすることを理解し、了承している。	<input type="checkbox"/>
・平成 24 年 1 月 15 日までに、補助対象システムの工事及びその費用の支払いが完了する予定である（施工予定会社等に確認している）。	<input type="checkbox"/>
(予約者決定以降に提出が必要な書類について)	
・予約者決定以降に提出が必要な書類（様式及び作成要領 86～104 ページ）について確認し、了承している。特に定期報告については、提出時期及び期間についても確認し、了承している。	<input type="checkbox"/>
(個人情報の取扱いについて)	
・当事業における個人情報の取扱い（公募要領 13 ページ）について理解し、了承している。	<input type="checkbox"/>
(申込提出書類一式について)	
・申込書及び添付書類一式について責任をもち、虚偽、不正の記載が一切ないことを確認している。	<input type="checkbox"/>
(導入するシステムについて)	
・導入するシステムには住宅用「省エネナビ」が含まれていることを確認し、了承している（断熱改修のみの場合を除く）。	<input type="checkbox"/>
・システム導入に係る申込者と施工業者との契約、施工、機器等の品質・性能、燃料等の調達、導入完了後の保守や保障等、知的財産権等を SII は保証しないこと及び万一、前述に関する紛争等が起きても SII は関与しないことを理解し、了承している。	<input type="checkbox"/>
(今回申込みをする補助対象工事について)	
・当事業の予約者となった場合、期限内に工事請負契約を結び、工事について実施する予定であり、工事費用についてもその用意がある。	<input type="checkbox"/>
(予約者の選定について)	
・当事業が、必ず採択されるものではないことを理解し、了承している。	<input type="checkbox"/>
・補助率が 1 / 3 より下がる場合もあることを理解し、了承している。	<input type="checkbox"/>
(現地調査及び取材等の協力)	
・SII が交付決定の審査のために現地調査を行う際、協力できる。また、補助事業者となった際に、SII が行う取材等に協力できる。	<input type="checkbox"/>

※必ず申込者ご本人さまがチェック及び記入してください。（手続代行者の代筆は不可）

※チェック欄のうち、ひとつでもチェックしていない項目がある場合は、不受理とさせていただきますので予めご了承ください。

以上の内容に相違ありません。

平成 年 月 日

申込者氏名

必ず申込者ご本人がご署名ください ※代行者不可

提出書類チェックリスト (1 / 2)

申 込 者 名					
手続代行者名					
No	書 類 名	項 目	内 容	確認欄	
	WEBで申込書類を作成した場合のみ	記載内容	WEBで入力した情報と、出力した申込書の内容が合っているか	<input type="checkbox"/>	
①	補助事業 申込書 【様式第1】	様式	SIIが定めた様式第1(平成23年度版)であるか	<input type="checkbox"/>	
		申込日	申込期間内の日付となっているか	<input type="checkbox"/>	
		申込者	郵便番号	記載されているか	<input type="checkbox"/>
			住所	現在居住している住所に間違いはないか	<input type="checkbox"/>
			氏名	連名の場合にはその全員の氏名が記載されているか	<input type="checkbox"/>
				ふりがなが記載されているか	<input type="checkbox"/>
			電話番号	記載されているか	<input type="checkbox"/>
		印鑑	印鑑登録印(連名の場合はそれぞれ押印されているか)	<input type="checkbox"/>	
		手続代行者	郵便番号	記載されているか	<input type="checkbox"/>
			住所	記載されているか	<input type="checkbox"/>
			会社名	記載されているか(スタンプでも可)	<input type="checkbox"/>
			代表者等名	記載されているか	<input type="checkbox"/>
			代表者等印	社外文書に押印の印鑑(シャチハタ不可)	<input type="checkbox"/>
		住宅の所在地	システムを導入する住宅の所在地であるか	<input type="checkbox"/>	
			新築・増築・改築・既築の種別に○印が記載されているか	<input type="checkbox"/>	
		工事着工予定日	予約者決定(10月中旬予定)より遅い日付であるか	<input type="checkbox"/>	
		工事完了予定日	平成24年1月15日までの日付であるか	<input type="checkbox"/>	
		先行予約者決定の希望の有無	希望しないに○印が記載されているか	<input type="checkbox"/>	
		システム番号	記載されているか(定型システムでの申請の場合)	<input type="checkbox"/>	
		モデル区分	○印が記載されているか	<input type="checkbox"/>	
		追加的節電対策	いずれかの□にチェックがされているか	<input type="checkbox"/>	
		地域区分	○印が記載されているか	<input type="checkbox"/>	
		延べ床面積	記載されているか	<input type="checkbox"/>	
床面積	階層ごとの床面積が記載されているか	<input type="checkbox"/>			
排出削減事業への参加意思	いずれかの□にチェックがされているか ※高効率給湯器の補助を申込み場合のみ必要	<input type="checkbox"/>			
補助金交付予定額	補助対象費用(税込)を1/3した金額であるか	<input type="checkbox"/>			
手続代行者 連絡先	担当者	(あれば)E-MAILアドレスが記載されているか	<input type="checkbox"/>		
	所属	支店名・部署名・部課名まで記載されているか	<input type="checkbox"/>		
	住所	担当者が所属する住所が記載されているか	<input type="checkbox"/>		
	電話番号/ FAX番号	記載されているか(携帯電話でも可)	<input type="checkbox"/>		
②	実施計画書	様式	(4種類ある定型様式のうち)申込み内容に合った様式であるか	<input type="checkbox"/>	
		記載事項	記載内容に記入漏れはないか	<input type="checkbox"/>	
		添付書類	電気、ガス、水道等の証憑(使用量の記載された請求書または検針票)の写しは添付されているか	<input type="checkbox"/>	
③	追加的節電 実施計画書	記載事項	記載内容に記入漏れはないか	<input type="checkbox"/>	

※手続代行者によるチェックでも可

提出書類チェックリスト (2 / 2)

No	書類名	項目	内容	確認欄	
④	費用総括表・費用明細書・見積書	費用総括表	様式	SIIが定めた定型様式であるか	<input type="checkbox"/>
			内容	費用明細書との整合性はとれているか ※追加的節電対策を行った場合、その他の欄に補助対象費を記載したか	<input type="checkbox"/>
			金額計算	税込・税抜に間違いはないか、また、小数点以下は切り捨てとなっているか	<input type="checkbox"/>
		費用明細書	様式	SIIが定めた定型様式であるか(行の調整等の変更は可)	<input type="checkbox"/>
			内容	費用総括表、見積書との整合性はとれているか	<input type="checkbox"/>
			記載方法	設備費と工事費に分けて記載されているか(一式表示は不可)	<input type="checkbox"/>
			断熱材工事 (該当者のみ)	(部材単価×施工面積等)金額の根拠が明確に記載されているか。 また、配置図と相関がとれているか	<input type="checkbox"/>
			開口部工事 (該当者のみ)	ガラス、またはサッシ毎に記載されているか。また、配置図と相関がとれているか	<input type="checkbox"/>
			空調機器 (該当者のみ)	機種毎に記載されているか。また、配置図と相関がとれているか	<input type="checkbox"/>
			給湯機器 (該当者のみ)	補助対象と補助対象外の箇所を公募要領に沿って記載しているか	<input type="checkbox"/>
省エネナビ (該当者のみ)	記載しているか	<input type="checkbox"/>			
見積書の写し	見積書の発行元・宛先が明記されているか	<input type="checkbox"/>			
⑤	配置図		補助対象機器等の配置がわかるものであるか	<input type="checkbox"/>	
			改修面積がわかるものであるか。また、改修面積が要件を満たしていることを裏付ける計算根拠を記載しているか(既築のみ)	<input type="checkbox"/>	
⑥	設備の仕様書の写し		システムを構成する補助対象設備全てのものを揃えているか	<input type="checkbox"/>	
			型式(品番)、性能、効率がわかるものであるか	<input type="checkbox"/>	
			メーカーカタログ等、同頁に複数の機器が記載されているものについては、該当する箇所にマーク等を記しているか	<input type="checkbox"/>	
⑦※	設計図面	平面図	階層全であるか	<input type="checkbox"/>	
			方位、部屋名を記載しているか	<input type="checkbox"/>	
		立面図(既築で断熱改修を含まないシステムを導入する場合は不要)	東西南北全であるか	<input type="checkbox"/>	
		矩計図(断面図) (新築・増築及び改築のみ)	躯体の構成材が明記されているか	<input type="checkbox"/>	
⑧※		事前相談結果票の写し	SIIからFAXで送付したものの写しであるか	<input type="checkbox"/>	
⑨※	※新規システムでの申込者のみ記入	システム提案書	記載漏れはないか	<input type="checkbox"/>	
⑩※		技術資料(⑧事前相談結果票でSIIから求められた場合)	SIIが求めたもの全てが揃っているか	<input type="checkbox"/>	
⑪	交付要件等確認書	様式	SIIが定めた定型様式であるか	<input type="checkbox"/>	
		記入者	申込者が記載したものであるか(手続代行者の代筆は不可)	<input type="checkbox"/>	
⑫	提出書類チェックリスト(本紙)		チェック漏れはないか	<input type="checkbox"/>	
			2ページ分揃っているか	<input type="checkbox"/>	

※手続代行者によるチェックでも可

2. 作成要領

(1) 様式第1 (補助事業申込書) の作成要領

様式第1 (補助事業申込書)

平成23年 月 日

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
代表理事 赤池 学 殿

申込者 郵便番号 所
(ふりがな) 氏名 名
電話番号 所
郵便番号 所
住社名 社名
代表者 氏名

手続代行者

平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業
(住宅に係るもの) 申込書

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業補助金(住宅に係るもの) 交付補助第5条 第1項の規定に基づき、下記のとおり経済産業省からの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先進的システム支援事業) 交付要領第3条に基づき国庫補助金に併せて補助事業の申込みをします。

3. 先行予約者決定の希望の有無 無い方を選択。 希望する方、希望しない方
※平成23年6月末日までに工事完了できる場合のみ希望可能。

4. 導入する住宅高効率エネルギーシステム

モデラ区分	A1・A4・A10・A14・A15・A22・A27・A28・D1・D2・D3・D4
システム番号	- - (新規システムの導入のみ記入)
追加的節電対策	<input type="checkbox"/> 中込む <input type="checkbox"/> 申込者なし

5. 住宅の概要

地域区分	I a I b II III IV a IV b V VI
延べ床面積	m ²
床面積	1 F m ² , 2 F m ² , 3 F m ² , 4 F m ² , 5 F m ²
	B1 F m ² , B2 F m ²

(注) 新築・増築・改築等は、住宅に係るエネルギーの取組の合理化に関する建築法等及び建築物の所有者の判断基準「平成19年建築省業省・国土交通省告示第9号」に基づき性能を満たすものであること。
(灯油) 給油器の補助を申込の場合、下記のいずれかにチェックすること。
 国が運営委託する排出削減事業(グリーン・リネージュ倶楽部(高効率給油器))
 その他の排出削減事業

(注) いずれかのチェックがされていない場合は、申込み受理することができません。

7. 補助金交付申請予印
(手続代行者連絡先)

担当者	(F-mail:)
所属	
住所	
電話番号	F A X 番号

(※付書票) 一般社団法人 環境共創イニシアチブが公募要件で指定する書類を添付すること。(備考) 用紙は日工費補助金A4とし、縦位置とする。
一般社団法人 環境共創イニシアチブの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金は、経済産業省が定めた住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先進的システム支援事業) 交付要領第3条に基づき国庫補助金を住宅・建築物に係る高効率エネルギーシステムを住宅・建築物に導入しようとする方に交付するものです。

- 申込者印は裏印で(連名者がある場合には連名者も裏印を捺印)
- 手続代行者印は代表者印で
- ※シヤチハタは不可

- 該当する新築から既築の種類を○で囲む
- システム設置予定地の住宅所在地を記入

- 工事着工予定日について
 - ※システム導入工事の着工予定日(建物の着工日ではない)
 - ※予約者の決定通知の日付以降であること
 - ※工事完了予定日について
 - ※システム導入工事又は工事代金支払い完了日のいずれか遅い日という
 - ※期限: 平成24年1月15日まで

- 2次公募では先行予約者決定はありません。希望しないを○で囲むこと

- 該当するモデル区分を○で囲む
 - 公募要領27~51ページの定型システムのシステム番号を記入(新規システム採用の場合は記入不要)
 - 追加的節電対策(公募要領68~69ページ参照)の実施の有無にチェックを付ける

- システムを導入する住宅の区分(公募要領70~80ページ参照)を○で囲む

- 参加する排出削減事業(公募要領8ページ及び、67ページ参照)にチェックを付ける

- 消費税等を含んだ対象費用総額の1/3の金額を記入
 - 1円未満は切り捨て(消費税等算出時1円未満切り捨て)

- 担当者は問い合わせ等で確実に対応できる実務担当者が望ましい
- 電子メールが使用可能な場合、担当者氏名の後ろに必ず電子メールアドレスを記入してください

(添付書類)

- 実施計画書
 - 費用総括表
 - 費用明細書
 - 見積書(写し)
 - 配置図(平面図と併用可)
 - 仕様書(カタログの写し等)
 - 建築図面(平面図・立面図・矩計図)
 - 交付要件等確認書
 - 提出書類チェックリスト
- ※追加的節電対策を申込み場合は以下の書類も添付すること
- 追加的節電実施計画書
 - 仕様書(カタログの写し等)
- ※新規システムでの申込者は以下の書類も添付すること
- 事前相談結果票の写し
 - システム提案書
 - 技術資料

(2) 実施計画書の作成要領
1) 新築・増築・改築の場合

【新築・増築・改築】
定型様式1 (1/9)

実施計画書(新築・増改築)

記入要領

1. 申込者 システム導入先住所 _____
氏 名 _____

2. システム導入住宅 居住者人数(予定) _____ 人
地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI
↑該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)

工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・
重量鉄骨造・RC・その他()
↑該当工法に○印をつける

システムを導入する住宅についての情報を記入

3. 他の補助金への申請状況
今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

システム導入住宅において、他の補助金等(エコポイントを含む)に申請(予定)の場合、その名称を記入する
例)エコキュート導入補助金
住宅エコポイント

4. 導入システム
定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)		- A	- 新・増改築
システムの組み合わせ (該当する仕様に○印をつけ、省エネナビはメーカー名と型式を記入する)	空調	ガス外式HPセントラル空調・冷温水式HPセントラル空調・冷温水式HP(部分)空調(HP床暖房等)・ 地中熱利用冷温水式セントラル空調・個別エアコン・ガス温水床暖房・石油温水床暖房・ 太陽熱利用暖房・その他()	
	給湯	CO2冷媒HP給湯器(エコキュート)・潜熱回収型ガス給湯器(エコジョーズ)・ 潜熱回収型石油給湯器(エコフィール)・ガスエンジン給湯器(エコウィル)・ 太陽熱利用給湯器+補助熱源()・ その他()	
	省エネナビ	メーカー名： 型式： 省エネナビ(公募要領66ページ参照)のメーカー名、 型式を必ず記入すること	
	その他	省エネ換気・照明・断熱強化・その他()	

5. エネルギー計算結果

- システム導入後の消費エネルギー削減量 _____ MJ/年 追加的節電対策にかかる費用は除外して算出すること 拠(F)より転記
- システム導入後の消費エネルギー削減率 _____ % 拠(G)より転記
- システム導入による費用対効果 _____ 円/MJ (小数点第一位まで) ←算出根拠(H)より転記

6. エネルギー計算根拠

※計算方法(計算式、SMASH等のソフトによる計算)に係わらず必ず記入すること

※エネルギー計算については公募要領52～57ページも参照すること

(1) 暖房のエネルギー計算

① 暖房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

暖房の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

$$\left(\overset{\substack{\uparrow \text{公募要領} \\ \text{52ページの表5を} \\ \text{確認し、当該地域の} \\ \text{値を記入する}}}{18,711} \right) \times \left(\overset{\substack{\uparrow \text{小数点第二位まで}}}{100.12} \right) \div 125(\text{m}^2) = \text{(a)} \quad \overset{\substack{\text{小数点以下四捨五入} \\ \text{(小数点以下四捨五入)}}}{14,987} \text{ MJ/年・世帯}$$

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

・ () 単一の機器で全館もしくは全居室暖房する →②-1へ

・ (○) 複数の機器で暖房する →②-2へ

②-1(単一の機器で全館もしくは全居室暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	暖房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (m ²)				
					機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能 暖房COP	効率
居室①								
居室②								
居室③								
居室④								
居室⑤								
居室⑥								
居室⑦								
居室⑧								
床面積合計(m ²)			(ア)	(イ)				

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		暖房COP	効率
			(ウ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること

$$\text{(効率(ウ))} = \text{暖房COP} \times 3,600 \div 9,760$$

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

←必ず全居室について記入すること

補助対象機器以外で
暖房する居室について
は記入しない

同一居室に複数の機器を導入する場合、
2行を使ってそれぞれについて記載
平均効率は効率の悪い機器で居室全体を
空調するものとして算出すること

②-2(複数の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	暖房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (m ²)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の		床面積 (m ²) × 効率	(エアコンの場合) APF
							暖房COP	効率		
居室①	LDK	28.98	28.98	28.98	○○○○	XYZ-Z50AA	4.8	1.770	51.295	6.0
居室②	1F洋室①	13.25	13.25	13.25	△△△△	AA-28	6.21	2.291	30.356	6.7
居室③	1F洋室②	13.25	13.25	13.25	△△△△	AA-28	6.21	2.291	30.356	6.7
居室④	2F和室	10.77	10.77							
居室⑤	寝室	10.77	10.77	10.77	△△△△	AC-B22	6.85	2.527	27.216	7.2
居室⑥	書斎	5.8								
居室⑦										
居室⑧										
合計		82.82	(ア) 77.02	(イ) 66.25	-				(エ) 139.223	-
		↑面積は小数点第二位まで		↑メーカー名・機種名は 補助対象設備のみ記入		補助対象暖房 機器の平均効率 (エ) ÷ (イ) =		(ウ)		

全居室を記入

面積は小数点第三位を
四捨五入

$$= 10.77 \text{ m}^2 \times 2.527$$

(小数点第四位を四捨五入)

2.101

$$= 139.223 \div 66.25$$

(効率は小数点第三位
小数点第四位を四捨五入)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること (効率=暖房COP×3,600÷9,760)

※ 機器がエアコンの場合は暖房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(m²)×効率」は小数点第三位まで記入

記入例

③ 暖房エネルギー削減量の算出

■ SMASH等のソフトで計算する → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

$$\text{暖房エネルギー削減量(結果)} = \frac{\text{(A)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

■ 断熱強化、省エネ換気を含まない場合

〈補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

暖房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で暖房する居室の床面積 ÷ 暖房する居室の床面積

$$\text{(a)} \quad 14,987 \times (\text{イ} \quad 66.25) \div (\text{ア} \quad 77.02) = \text{(オ)} \quad 12,891 \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

〈暖房エネルギー削減率の算出〉

1 - 暖房の比較効率 ÷ 補助対象とする暖房機器の(平均)効率

$$1 - (\text{ウ} \quad 1.095) \div (\text{エ} \quad 2.101) = \text{(カ)} \quad 0.479$$

(小数点第三位まで)

↑ 公券要領53ページ表6

割り算から先に行い、その後1から引く

《暖房エネルギー削減量(A)の算出》

補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量 × 暖房エネルギー削減率

$$\text{(オ)} \quad 12,891 \times \text{(カ)} \quad 0.479 = \text{(A)} \quad 6,175 \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

■ 断熱強化を含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

■ 省エネ換気を含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

断熱強化及び省エネ換気を含まない場合以外は下記(A)を記入し、計算根拠を別紙で添付すること

■ 断熱強化、省エネ換気ともに含む場合 → 下記(A)を記入し(2)へ(計算根拠を別紙添付)

* 暖房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

$$\text{暖房エネルギー削減量(結果)} = \frac{\text{(A)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

(2) 冷房のエネルギー計算

暖房のエネルギー計算と同様に計算する

① 冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

冷房の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

$$\text{(b)} \quad 3,999 \times (\text{イ} \quad 100.12) \div 125(\text{m}^2) = \text{(b)} \quad 3,203 \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

↑ 公券要領52ページ表5

↑ 小数点第二位まで

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓ どちらかに○印をつける

・ () 単一の機器で全館もしくは全居室冷房する → ②-1へ

・ (○) 複数の機器で冷房する → ②-2へ

②-1(単一の機器で全館もしくは全居室冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (m ²)	冷房する 居室の 床面積 (m ²)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (m ²)
居室①				
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(m ²)			(キ)	(ク)

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		冷房 COP	効率
			(ケ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること

$$\text{(効率(ケ))} = \text{冷房COP} \times 3,600 \div 9,760$$

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

←必ず全居室について記入すること

②-2(複数の機器で冷房する場合)

同一居室に複数の機器を導入する場合、
2行を使ってそれぞれについて記載
平均効率(効率は効率の悪い機器で居室全体を
空調するものとして算出すること

記入例

居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の性能			床面積 (㎡) × 効率	APF (エアコンの場合)
			居室の 床面積 (㎡)	メーカー名 (型式)	冷房 COP		
居室① LDK	28.98	28.98	28.98	暖房と同じ	4.07	1.501	43.499
居室② 1F洋室①	13.25	13.25	13.25	暖房と同じ	5.89	2.173	28.792
居室③ 1F洋室②	13.25	13.25	13.25	暖房と同じ	5.89	2.173	28.792
居室④ 2F和室	10.77	10.77					
居室⑤ 寝室	10.77	10.77	10.77	暖房と同じ	6.67	2.460	26.494
居室⑥ 書斎	5.8						
居室⑦							
居室⑧							
合計	82.82	(キ) 77.02	(ク) 66.25	-		(コ) 127.577	
↑面積は小数点第二位まで		↑メーカー名・機種名は 補助対象設備のみ記入		補助対象冷房 機器の平均効率 (コ)÷(ク)=		(ケ) 1.926	

機器が暖房と同じ場合は「暖房と同じ」と記入する
(その場合機種名の記入は省略可)

- ※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること (効率=冷房COP×3,600÷9,760) (効率は小数点第三位まで)
- ※ 機器がエアコンの場合は冷房COP、効率、APFをすべて記載すること
- ※ 「効率」及び「床面積(㎡)×効率」は小数点第三位まで記入
- ※ 機器が暖房と同じ場合は「メーカー名」に「暖房と同じ」と記入し、機種名の記入は省略可(エアコンの場合はAPFについても省略可)

③ 冷房エネルギー削減量の算出

- SMASH等のソフトで計算する → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

$$\text{冷房エネルギー削減量} = \frac{\text{(B)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

- 断熱強化、省エネ換気を含まない場合

〈補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

冷房の消費エネルギー量 × 補助対象機器で冷房する居室の床面積 ÷ 冷房する居室の床面積

$$\text{(b)} \quad 3,203 \quad \text{(ク)} \quad 66.25 \quad \text{(キ)} \quad 77.02 \quad \text{(サ)} \quad 2,755 \quad \text{MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

〈冷房エネルギー削減率の算出〉

1 - 冷房の比較効率 ÷ 補助対象とする冷房機器の(平均)効率

$$1 - \frac{0.985}{\text{(ケ)} \quad 1.926} = \text{(シ)} \quad 0.489$$

(小数点第三位まで)

《冷房エネルギー削減量(B)の算出》

補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量 × 冷房エネルギー削減率

$$\text{(サ)} \quad 2,755 \quad \text{(シ)} \quad 0.489 \quad \text{(B)} \quad 1,347 \quad \text{MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

- 断熱強化を含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

- 省エネ換気を含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

断熱強化及び省エネ換気を含まない場合以外は
下記(B)を記入し、計算根拠を別紙で添付すること

- 断熱強化、省エネ換気ともに含む場合 → 下記(B)を記入し(3)へ(計算根拠を別紙添付)

* 冷房エネルギーの削減計算は、「断熱強化による削減」→「省エネ換気による削減」→「空調機器による削減」の順で行うこと

$$\text{冷房エネルギー削減量} = \frac{\text{(B)}}{\text{(小数点以下四捨五入)}} \text{ MJ/年・世帯}$$

記入例

(3) 給湯のエネルギー計算

① 給湯の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

給湯の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

$$\left(\underset{\substack{\uparrow \text{公募要領52ページ表5}}}{16,892} \right) \times \left(\underset{\substack{\uparrow \text{小数点第二位まで}}}{100.12} \right) \div 125 = \text{(c)} \quad \underline{13,530} \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

公募要領52ページの表5を確認し、当該地域の値を記入する

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)

メーカー名	機種名 (型式)	電気：APF ガス・石油：給湯効率	台数 (台)
〇〇〇〇	EC-d	3.4	1

※定型以外の給湯器の場合はメーカー名、型式、台数を記入

③ 給湯エネルギー削減量の算出 ※定型以外の給湯器の場合は、下記(C)に結果のみ記入し(4)へ(計算根拠を別紙添付)

〈給湯エネルギー削減率の算出〉 公募要領54ページの表7を参照 公募要領54ページの表8を参照

$$1 - \left(\underset{\substack{\uparrow \text{公募要領54ページ表7}}}{0.857} \right) \div \left(\underset{\substack{\uparrow \text{公募要領54ページ表8}}}{1.36} \right) = \text{(ス)} \quad \underline{0.370}$$

(小数点第三位まで)

割り算から先に行い、その後1から引く

《給湯エネルギー削減量(C)の算出》

給湯の消費エネルギー量 × 給湯エネルギー削減率

$$\text{(c)} \quad \underline{13,530} \times \text{(ス)} \quad \underline{0.370} = \text{(C)} \quad \underline{5,006} \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

(4) 照明のエネルギー計算

↓どちらかに○印をつける

- ・ (○)照明を補助対象とする →①へ
- ・ ()照明を補助対象としない →(5)へ

① 照明の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出 公募要領52ページの表5を確認し、当該地域の値を記入する

照明の標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

$$\left(\underset{\substack{\uparrow \text{公募要領52ページ表5}}}{10,867} \right) \times \left(\underset{\substack{\uparrow \text{小数点第二位まで}}}{100.12} \right) \div 125 = \text{(d)} \quad \underline{8,704} \text{ MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出 追加的節電(LEDランプ)を導入する場合は記載しない

メーカー名	機種名 (型式)	エネルギー消費効率 (lm/W)	台数 (台)	消費電力 (W)
〇〇〇〇	ABC550	109.8	1	100
〇〇〇〇	ABC660	98.1	3	228(76w×3台)
〇〇〇〇	ABC660	98.1	1	80
合計				(セ) 408
家全体の照明の消費電力合計				(シ) 1,100

エネルギー消費効率の高い順に補助対象機器のみ記入

補助対象機器を含めた家全体の照明の消費電力の合計を記入

- ※ エネルギー消費効率(lm/W)の高い順に補助対象機器のみ記入すること
- ※ エネルギー消費効率(lm/W) = ランプの全光束(lm) ÷ (セ) ÷ (シ) = 0.2以上でない場合は申込み不可
- ※ 家全体の照明機器の型番・消費電力・設置箇所を明記した一覧表を別途添付すること
- ※ (セ) ÷ (シ) = 0.2以上でない場合は申請不可

$$\text{(セ)} \div \text{(シ)} = \underline{0.371}$$

(小数点第三位まで)

記入例

③ 照明エネルギー削減量の算出
《照明エネルギー削減量(D)の算出》

【計算式】
照明の消費エネルギー量×補助対象機器の消費電力(w)÷家全体の照明の消費電力の合計×{1-60(lm/W)÷補助対象機器のエネルギー消費効率(lm/W)}

(d) () × () ÷ () × { 1 - 60 ÷ () }

上記を、エネルギー消費効率(lm/W)の同じ機器ごとに計算し、その値を合計する(小数点以下四捨五入)

・ 8,704 × 100w ÷ 1,100w × { 1 - 60 ÷ (109.8) } = 359 (小数点以下四捨五入)
 ・ 8,704 × 308w ÷ 1,100w × { 1 - 60 ÷ (98.1) } = 947 (小数点以下四捨五入)

228w + 80w = 308w 359 + 947 = 1,306

(計算結果) 照明エネルギー削減量 = (D) 1,306 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

(5) その他のエネルギー計算

↓どちらかに○印をつける

- ・ () その他で補助対象申請がある → 計算根拠を別紙で添付し、その他の補助対象申請がある場合は記入する
- ・ (○) その他の補助対象申請はない → (6)へ

① その他のエネルギー削減量(結果) = (E) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

※その他の消費エネルギー量は、他と同様に「その他の標準消費エネルギー量」×「申請住宅の延床面積」÷125で算出すること

(6) 申請住宅(全体)のエネルギー計算

① 申請住宅(全体)の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

標準消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 申請住宅の延床面積(m²) ÷ 125(m²)

(83,109) × (100.12) ÷ 125 = (f) 66,567 MJ/年・世帯
↑ 公募要領52ページ表5 ↑ 小数点第二位まで (小数点以下四捨五入)

② 申請住宅(全体)のエネルギー削減量(MJ/年・世帯)の算出

= (A 6,175) + (B 1,347) + (C 5,006) + (D 1,306) + (E)

= (F) 13,834 MJ/年・世帯 ←1ページ目に転記すること

補助対象申請のない箇所は記入不要

③ 申請住宅(全体)のエネルギー削減率(%)の算出

(F 13,834) ÷ (f 66,567) × 100 = (G) 20.8 % ←1ページ目に転記すること
(小数点第一位まで)

④ 費用対効果(円/MJ)の算出 補助対象費用が3,000,000円(税込)の場合 300円/MJ以上の場合は申込み不可

補助対象費用(1/3をする前の費用(税込)) ÷ 申請住宅(全体)のエネルギー削減量

= (3,000,000) ÷ (F 13,834) = (H) 216.9 円/MJ ←1ページ目に転記すること
(小数点第一位まで)

(7) 省エネ換気の機器効率 (省エネ換気を補助申請する場合記載)

メーカー名	機種名 (型式)	熱(温度)交換効率		熱交換式以外の 場合○を記入	台数 (台)
		顕熱回収型	全(潜)熱回収型		
	省エネ換気を補助申請する場合に記載する	%	%		
		%	%		

記入要領

7. 導入住宅が次世代省エネルギー基準を満たす根拠

次世代省エネルギー基準仕様 断熱強化仕様 (該当する仕様を○で囲むる)

- ・新築で次世代省エネルギー基準仕様の場合、以下の項目は記入不要 →8.へ
- ・増改築で次世代省エネルギー基準仕様の場合は、(1)又は(2)で示す。
- ・断熱強化仕様の場合(断熱仕様を補助の対象とする場合)は、(1)及び(2)の双方で示す。
- ・断熱強化仕様の場合は、熱損失係数を必ず記入すること。
また公募要領7ページ<表1>の基準値以下であること。
- ・性能規定による場合は、算出根拠を添付すること。

(1) 基準値との比較で示す場合(建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準による「性能規定」)

導入住宅の熱損失係数	_____ W/m ² ・K	断熱強化仕様の場合は、必ず熱損失係数を記入すること
夏期日射取得係数	_____	

(2) 仕様で示す場合(設計・施工の指針による「仕様規定」)

① 断熱仕様

部 位	断熱材の種類	厚さ(単位mm)	次世代省エネ基準への適合確認	ノンフロン材の確認
屋根又は天井	屋根			
	天井			
壁				
外壁の中間階床の横架材部分				
床	外気に接する部分			
	その他の部分			
土間床等の外周部	外気に接する部分			
	その他の部分			

種類、厚さは詳しく記入(カタログと整合性がとれるよう記載すること)
例)ガラスウール16K 厚150
ポリスチレンフォームB種 厚60 等

次世代省エネ基準以上であることを確認し、○を記入(仕様書(カタログ)も添付し、仕様書(カタログ)のどこに記載しているか分かるように該当部分にマーカーや付箋を貼るなどすること)

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

② 気密仕様

部 位 (取合い部を含む)	材 料 (素 材)	厚	ノンフロン材であることを確認し、○を記入(仕様書(カタログ)もノンフロン材であることがわかる部分を添付すること)
壁	()		
床	()		
天井	()		
屋根	()		

③ 開口部の断熱・気密仕様

部 位	種 類	構造又は熱貫流率	気密性等級
窓			
引き戸及び框ドア			
ド ア			

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

④ 開口部の日射侵入防止措置

部 位	ガラスの日射侵入率	措 置
窓		
引き戸及び框ドア		
ド ア		

仕様内訳、付属部品名、ひさし、軒等の仕様を記入

記入要領

8. システム導入前(申込時点で居住している)の住宅について

① 基本情報

・居住者人数	_____人	システム導入前(申込時点で居住している) 住宅についての情報を記入
・地 域	I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI	
・建物種別	戸建(持ち家)・戸建(賃貸)・集合住宅(持ち家)・集合住宅(賃貸)・社宅・その他()	
・工 法	木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・重量鉄骨造・RC・その他()	
・築年数	_____年	
・延べ床面積	_____㎡	
・開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様を記入)		
サッシ :	アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他()	
ガラス :	単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他()	
・その他住宅の性能に関わる情報()		

② システム導入前の住宅の空調設備について

居室	居室 (全居室を 記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房/ 冷房	空調機器 使用の有 無	機器の種類	メーカー名	機種名(型式)	使用 年数	他、性能に 関わる情報	台数
居室①			暖・冷	有・無	システム導入前(申込時点で居住している) 住宅の空調設備についての情報を可能な限り記入					
居室②			暖・冷	有・無						
居室③			暖・冷	有・無						
居室④			暖・冷	有・無						
居室⑤			暖・冷	有・無						
居室⑥			暖・冷	有・無						
居室⑦			暖・冷	有・無						
居室⑧			暖・冷	有・無						

※全ての居室について記載すること
 ※分かる範囲で記載すること
 ※暖房・冷房、空調機器使用の有無については該当するものに○印をつけること

③ システム導入前の住宅の給湯設備について

メーカー名	機種名 (型式)	使用 年数	他 性能に 関わる情報	台数
	システム導入前(申込時点で居住している) 住宅の給湯設備についての情報を可能な限り記入			

※分かる範囲で記載すること

④ システム導入前(直近1年間)の住宅における過去のエネルギー使用量実績値

記入要領

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月					
		都市ガスかLPG(プロパンガス)の場合は、どちらかに○をつける LPGの場合は使用量の単位も記入					
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月		検針月日(/)	期間(~ 日)		
		電気・ガス・水道等については、直近1年間の証憑(検針票等)の写しも添付すること (A4用紙に貼り付けてコピーをとる)					
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
システム導入前(申込時点で居住している)住宅における直近1年間のエネルギー使用量についての情報を、注意書き(※)を参考に記入							
合計							

※使用しているエネルギーについて記載すること

※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること

※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること

※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること

※ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印をつけること

※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位(m³もしくはkg)を記入すること

※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること

(例えば、4~5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)

※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入すること
(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1~30日)を記入する)

※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入すること

※灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入すること

※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間(日にち単位)の分かる証憑(検針票または請求書等)の写しを必ず添付すること

2) 既築 D2～4 (断熱改修+機器) の場合

【既築D2～4 (断熱改修+機器)】
定型様式1 (1/10)

実施計画書(既築 D2～4(断熱改修+機器))

記入要領

既築 A区分(機器のみ)及びD1(断熱改修のみ)については
本作成要領の該当箇所を参考に作成のこと

1. 申込者

システム導入先住所

氏 名

システムを導入する
住宅についての情報を記入

2. システム導入住宅

・ 居住者人数(予定) _____ 人

・ 地 域 I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI

↑ 該当地域に○印をつける(※公募要領70～80ページ)

・ 住宅延床面積 _____ m² …(ア)

・ 家全体の暖冷房している(床)面積(空調面積) _____ m² …(イ)

・ 断熱改修面積 _____ m² …(ウ)

・ (ウ)/(ア) _____ (小数点第二位まで記入)

・ 空調している全ての居室を断熱改修する

・ いいえ
○印をつける

・ 住宅の種別 戸建・分譲マンション

(ウ)/(ア)が0.5以上でない場合、及び空調している
全ての居室を断熱改修しない場合は申込み不可

・ 工 法 木造軸組・木造枠組壁(2×4・2×6)・軽量鉄骨造・

重量鉄骨造・RC・その他()

↑ 該当工法に○印をつける

・ 築 年 数 _____ 年

・ 既設の開口部の仕様(代表してリビングの開口部の仕様)

サッシ:アルミ・アルミプラスチック複合・プラスチック・木製・その他()

ガラス:単層・複層・低放射複層ガラス(Low-Eガラス)・真空ガラス・その他()

↑ 該当仕様に○印をつける

※ (ウ)は、平面図において斜線等で示すこと

※ (ウ)/(ア)が0.5以上でない場合、及び暖冷房している全ての居室を改修しない場合は申請不可

3. 他の補助金への申請状況

今回補助対象となるものを、他の補助金等に応募(申請)している、または申請予定の場合はその補助金等の名称を必ず記入すること(重複して補助金等を受け取ることはできません)。

システム導入住宅において、他の補助金等(エコポイントを含む)に申請(予定)の場合、その名称を記入する
例)エコキュート導入補助金

記入要領

4. 導入システム

定型システム ・ 新規システム ←どちらかに○印をつける

システムNo. (定型システムの場合に記入)			-D		-既築		
断熱改修の組合わせ (該当する改修部位に○印をつける)	窓ガラス	窓サッシ	外壁又は壁	床	天井又は屋根	ドア	
機器の組合わせ (該当する仕様に○印をつけ、省エネナビはメーカー名と型式を記入する)	空調	冷温水式HP空調（HP床暖房等）・地中熱利用冷温水式空調・個別エアコン・ガス温水床暖房・石油温水床暖房・太陽熱利用暖房・その他（ ）					
	給湯	CO2冷媒HP給湯器（エコキュート）・潜熱回収型ガス給湯器（エコジョーズ）・潜熱回収型石油給湯器（エコフィール）・ガスエンジン給湯器（エコウイル）・太陽熱利用給湯器+補助熱源（ ）・その他（ ）					
	省エネナビ	メーカー名： 型式：	省エネナビ（公募要領66ページ参照）のメーカー名、型式を必ず記入すること				
	その他	照明・その他（ ）					

5. エネルギー計算結果

- ・システム導入後の消費エネルギー削減量 _____ MJ/年
- ・システム導入後の消費エネルギー削減率 _____ %
- ・システム導入による費用対効果 _____ 円/MJ

追加的節電対策にかかる費用は
 除外して算出すること

拠(G)より転記

拠(H)より転記

(小数点第一位まで) ←算出根拠(I)より転記

記入要領

6. エネルギー計算根拠

※計算方法（計算式、SMASH等のソフトによる計算）に係わらず必ず記入すること

※エネルギー計算については公募要領58～63ページも参照すること

(1) 直近1年間のエネルギー使用量実績値

	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG ()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
月分	検針月日(/)	検針月					
		都市ガスかLPG(プロパンガス)の場合は、どちらかに○をつける。 LPGの場合は使用量の単位も記入					
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	電気・ガス・水道等については、直近1年間の証憑(検針票等)の写しも添付すること (A4用紙に貼り付けてコピーをとる)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
月分	検針月日(/)	直近1年間のエネルギー使用量についての情報を、注意書き(*)を参考に記入		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合計							

※使用しているエネルギーについて記載すること

※電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書等に記載されている数値を記入すること

※電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入すること

※電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量の合計を記入すること

※ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印をつけること

※LPGのカッコ内には、検針票、領収書等に記載されている使用量の単位(m³もしくはkg)を記入すること

※上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書等に記載されている2ヶ月合計の数値を記入すること

(例えば、4～5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)

※太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入すること

(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1～30日)を記入する)

※太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入すること

※灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入すること

※電気・都市ガス・LPG・水道等については、使用量及び期間(日にち単位)の分かる証憑(検針票または請求書等)の写しを必ず添付すること

記入例

(2) 一次消費エネルギー量実績値の算出

① 使用量実績からのエネルギー換算

	使用量実績	換算値	エネルギー消費量
電気	(6,200) kWh	× 9.76 MJ/kWh	= <u>(エ) 60,512</u> (MJ) <small>(小数点以下四捨五入)</small>
都市ガス	() m ³	× () MJ/m ³	= <u>(オ)</u> (MJ) <small>(小数点以下四捨五入)</small>
LPG	(181.5) kg	× MJ/kg	= <u>(カ) 9,075</u> (MJ) <small>(小数点以下四捨五入)</small>
灯油	()	× MJ/kg	= <u>(キ)</u> (MJ) <small>(小数点以下四捨五入)</small>

※当該住宅で使用していないエネルギーについては空欄にすること
 ※都市ガスの換算値については当該地区のガス会社に照会、確認のこと
 ※LPGの単位がm³の場合はkgに換算(1m³=1.964kg)すること()内は小数点第三位まで記入

② 全体の一次消費エネルギー量の計算

(エ **60,512**)+(オ **0**)+(カ **9,075**)+(キ **0**) = (ク) 69,587 (MJ)

(3) 断熱改修によるエネルギー削減計算

① 暖冷房の消費エネルギー量(MJ)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (暖房用途割合+冷房用途割合)(%)
 (ク **69,587**) × { (**22.5**) + (**4.8**) } ÷ 100 = (a) 18,997 MJ/年・世帯
↑ 公募要領59ページ表11 (小数点以下四捨五入)

② 断熱改修のエネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

- ・ () みなし削減率及び計算式で計算する → ③へ
- ・ () SMASH等のソフトで計算する → 下記(A)を記入し④へ(計算根拠は別紙で添付すること)

断熱改修の暖冷房エネルギー削減量 = (A) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

公募要領59ページの表11を確認し、当該地域の値を記入する

③ みなし削減率及び計算式での計算(断熱改修における暖冷房エネルギー削減量の算出)

↓該当に○印をつける

- ・ () 家全体の改修であり、全体を同じ削減率で計算できる → 断熱改修のエネルギー削減率 (ク) %
↑ 公募要領64～65ページ

暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 断熱改修のエネルギー削減率(%)
 (a) × (ク) ÷ 100 = (A) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

- ・ () 居室毎もしくは階毎に計算する必要がある → 下記に計算根拠を記入

【計算根拠】

1F空調居室(LDK(28.98m²)、洋室①(13.25m²)、洋室②(13.25m²)) = 55.48m²
 2F空調居室(和室(10.77m²)、寝室(10.77m²)) = 21.54m²
 } 空調居室の合計: 77.02m²
 1F空調居室のエネルギー削減量: 18,997MJ × 55.48m² / 77.02m² × 28% ÷ 100 = 3,832MJ
 2F空調居室のエネルギー削減量: 18,997MJ × 21.54m² / 77.02m² × 42% ÷ 100 = 2,231MJ
 3,832MJ + 2,231MJ = 6,063MJ

(計算結果) エネルギー削減量 = (A) 6,063 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

みなし削減率表より
 ・窓2 + 外壁 + 床 = 削減率28%
 ・窓2 + 外壁 + 天井 = 削減率42%

④ 断熱改修によるエネルギー削減率(%)の算出

暖冷房のエネルギー削減量(MJ/年・世帯) ÷ 暖冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)
 = (A **6,063**) ÷ (a **18,997**) × 100 = (ク) 31.9 %
(小数点第一位まで)

(4) 補助対象空調設備による暖房エネルギー削減計算(モデル区分D4の場合は③のみ記入のこと)

記入例

① 暖房の消費エネルギー量(MJ)(断熱改修後)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 暖房用途割合(%)

(ケ **69,587**) × (**22.5**) ÷ 100 = (コ) **15,657** MJ/年・世帯
↑ 公募要領59ページ表11 (小数点以下四捨五入)

暖房の消費エネルギー量 **6.2)②で算出** (1 - 断熱改修によるエネルギー削減率% ÷ 100)

(コ **15,657**) × (1 - (ケ **31.9**) ÷ 100) = (b) **10,662** MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で暖房する → ②-1へ
- ・ (○) 複数の機器で暖房する → ②-2へ

断熱改修によって削減される効果分を差し引く

②-1(単一の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)	
					居室①
居室②					
居室③					
居室④					
居室⑤					
居室⑥					
居室⑦					
居室⑧					
床面積合計(㎡)			(サ)	(シ)	

↑必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		暖房 COP	効率
			(ス)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること

(効率(ス) = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

②-2(複数の機器で暖房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	暖房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 暖房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							暖房 COP	効率		
居室①	LDK	28.98	28.98	28.98	○○○○	XYZ-Z50AA	4.8	1.770	51.295	6.0
居室②	1F洋室①	13.25	13.25	13.25	△△△△	AA-28	6.21	2.291	30.356	6.7
居室③	1F洋室②	13.25	13.25	13.25	△△△△	AA-28	6.21	2.291	30.356	6.7
居室④	2F和室	10.77	10.77							
居室⑤	寝室	10.77	10.77	10.77	△△△△	AC-B22	6.85	2.527	27.216	7.2
居室⑥	書斎	5.8								
居室⑦										
居室⑧										
合計		82.82	(サ) 77.02	(シ) 66.25	-				(セ) 139.223	-
		↑面積は小数点第二位まで		↑メーカー名・機種名は補助対象設備のみ記入		補助対象暖房機器の平均効率(セ) ÷ (シ) =		(ス) 2.101		

補助対象機器以外で暖房する居室については記入しない

同一居室に複数の機器を導入する場合、2行を使ってそれぞれについて記載
平均効率は効率の悪い機器で居室全体を空調するものとして算出すること

全居室を記入

面積は小数点第三位を四捨五入

= 10.77㎡ × 2.527
(小数点第四位を四捨五入)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は暖房COPと効率の両方を記載すること (効率 = 暖房COP × 3,600 ÷ 9,760)

※ 機器がエアコンの場合は暖房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 機器がガスまたは石油式の場合、暖房COPの項目は空欄とすること

※ 「効率」及び「床面積(㎡) × 効率」は小数点第三位まで記入

(効率は小数点第三位)
= 139.223 ÷ 66.25
(小数点第四位を四捨五入)

③ 既存暖房機器の情報

居室	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	機器種別	機器種別は必ず 記載すること	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	記入例
										その他 性能に関する情報
居室①	LDK	28.98	電気		電気ヒーター	〇〇〇〇	BB-10	5年	1台	1.095
居室②	1F洋室①	13.25	石油		石油ファンヒーター	△△△△	CC-1	7年	1台	0.8
居室③	1F洋室②	13.25	ガス		ガスストーブ	□□□□	DD-1	5年	1台	0.75
居室④	2F和室	10.77	電気		エアコン	〇〇〇〇	BB-20	8年	1台	1.095
居室⑤	寝室	10.77	電気		エアコン	〇〇〇〇	BB-20	7年	1台	1.095
居室⑥	書斎	5.8								
居室⑦										
居室⑧										

全居室を記入

↑石油、ガス、電気のいずれか
該当するものを記入

※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること

※ 既存機器名称の例：石油ファンヒーター、ガスストーブ、エアコン 等

※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

③-1 補助対象設備設置箇所における既存機器の暖房効率

↓いずれかに○印をつける

- ・ () 全て石油(灯油)暖房 → 効率(セ)0.8
- ・ () 全てガス暖房 → 効率(セ)0.75
- ・ () 全てエアコン → 効率(セ)1.095
- ・ (○) 複数の種別の機器が混在する → 下記の計算へ

〈複数の種別の機器が混在する場合の計算〉

【計算式】

居室①	1.095	×	28.98	=	31.7331
居室②	0.8	×	13.25	=	10.6000
居室③	0.75	×	13.25	=	9.9375
居室⑤	1.095	×	10.77	=	11.7932
合計			66.25		64.0638

64.0638 ÷ 66.25 = 0.9670

(計算結果) 既存機器の平均暖房効率：(ヨ) 0.967
(小数点第三位まで)

補助対象とする暖房機器を導入する居室毎に
既存機器効率 × 居室の床面積

※機器効率は 石油(灯油)暖房：0.8
ガス暖房：0.75
エアコン：1.095 とする

上記の計算で出した合計値を、補助対象とする暖房機器を
導入する居室の合計床面積で除する

④ 暖房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

- ・ (○) 計算式で計算する → ⑤へ
- ・ () SMASH等のソフトで計算する ※暖房の消費エネルギー量から断熱改修分の削減量を差し引いてから計算すること
→右記(B)を記入し(5)へ(計算根拠は別紙で添付すること) **暖房エネルギー削減量 = (B)** MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

⑤ 計算式での計算(暖房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

暖房の消費エネルギー量(断熱改修後) × 補助対象機器で暖房する居室の床面積 ÷ 暖房する居室の床面積

(b) 10,662 × (シ) 66.25 ÷ (サ) 77.02 = (タ) 9,171 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

〈暖房エネルギー削減率の算出〉

1 - 既存機器の(平均)暖房効率 ÷ 補助対象とする暖房機器の(平均)効率

1 - (ヨ) 0.967 ÷ (ス) 2.101 = (チ) 0.540
(小数点第三位まで)

※ 割り算を先行し

6.(4)③で算出

6.(4)②-1または②-2の表で算出

割り算から先行し、
その後1から引く

《補助対象空調設備による暖房エネルギー削減量(B)の算出》

補助対象物で暖房する居室の合計消費エネルギー量 × 暖房エネルギー削減率

(タ) 9,171 × (チ) 0.540 = (B) 4,952 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

記入例

(5) 補助対象空調設備による冷房エネルギー削減計算(モデル区分D4の場合は③のみ記入のこと)

① 冷房の消費エネルギー量(MJ)(断熱改修後)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 冷房用途割合(%)

(ケ) **69,587** × (**4.8**) ÷ 100 = (ツ) **3,340** MJ/年・世帯
↑ 公募要領59ページ表11 (小数点以下四捨五入)

冷房の消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × (1 - 断熱改修によるエネルギー削減率(%) ÷ 100)

(ツ) **3,340** × (1 - (ケ) **31.9**) ÷ 100 = (c) **2,275** MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

↓どちらかに○印をつける

- ・ () 単一の機器で冷房する → ②-1へ
- ・ (○) 複数の機器で冷房する → ②-2へ

断熱改修によって削減される効果分を差し引く

②-1(単一の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)
居室②				
居室③				
居室④				
居室⑤				
居室⑥				
居室⑦				
居室⑧				
床面積合計(㎡)			(デ)	(ト)

↑必ず全居室について記入すること

機器の メーカー名	機種名(型式)	機器の性能	
		冷房 COP	効率
			(ナ)

(小数点第三位まで)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること

(効率(ナ)) = 冷房COP × 3,600 ÷ 9,760

※ 機器がガスまたは石油式の場合、冷房COPの項目は空欄とすること

②-2(複数の機器で冷房する場合)

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	冷房する 居室の 床面積 (㎡)	補助対象 機器で 冷房する 居室の 床面積 (㎡)	機器の メーカー名	機種名 (型式)	機器の性能		床面積 (㎡) × 効率	(エアコンの場合) APF
							冷房 COP	効率		
居室①	LDK	28.98	28.98	28.98	暖房と同じ		4.07	1.501	43.499	
居室②	1F洋室①	13.25	13.25	13.25	暖房と同じ		5.89	2.173	28.792	
居室③	1F洋室②	13.25	13.25	13.25	暖房と同じ		5.89	2.173	28.792	
居室④	2F和室	10.77	10.77							
居室⑤	寝室	10.77	10.77	10.77	暖房と同じ		6.67	2.460	26.494	
居室⑥	書斎	5.8								
居室⑦										
居室⑧										
合計		82.82	(デ) 77.02	(ト) 66.25	-				(ニ) 127.577	-
		↑面積は小数点第二位まで			↑メーカー名・機種名は補助対象設備のみ記入		補助対象冷房機器の平均効率 (ニ) ÷ (ト) =		(ナ)	1.926

同一居室に複数の機器を導入する場合、
2行を使ってそれぞれについて記載
平均効率は効率の悪い機器で居室全体を
空調するものとして算出すること

機器が暖房と同じ場合は「暖房と同じ」と記入する
(その場合機種名の記入は省略可)

※ 機器がヒートポンプ式の場合は冷房COPと効率の両方を記載すること (効率 = 冷房COP × 3,600 ÷ 9,760)

(効率は小数点第三位まで)

※ 機器がエアコンの場合は冷房COP、効率、APFをすべて記載すること

※ 「効率」及び「床面積(㎡) × 効率」は小数点第三位まで記入

※ 機器が暖房と同じ場合は「メーカー名」に「暖房と同じ」と記入し、機種名の記入は省略可(エアコンの場合はAPFについても省略可)

③ 既存冷房機器の情報

	居室 (全居室を記入) 【L、D、LD、 LDK、寝室、 和室、洋室、 書斎、その他】	床面積 (㎡)	既存機器名称	メーカー名	機種名 (型番)	使用 年数 (年)	台数 (台)	その他 性能に関する情報
居室①	LDK	28.98	エアコン	〇〇〇〇	BB-10	5年	1台	0.985
居室②	1F洋室①	13.25	エアコン	〇〇〇〇	XX-00	5年	1台	0.985
居室③	1F洋室②	13.25	エアコン	〇〇〇〇	XD-001	5年	1台	0.985
居室④	2F和室	10.77						
居室⑤	寝室	10.77	エアコン	〇〇〇〇	BB-20	5年	1台	0.985
居室⑥	書斎	5.8						
居室⑦			全居室の既存冷房機器の情報を記入					
居室⑧								

記入例

全居室を記入

- ※ 居室①～⑧は②-1もしくは②-2と同じ居室とすること
- ※ 既存機器名称の例：エアコン 等
- ※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

④ 冷房エネルギー計算の方法

↓どちらかに○印をつける

- ・ (○) 計算式で計算する →⑤へ

- ・ () SMASH等のソフトで計算する ※冷房の消費エネルギー量から断熱改修分の削減量を差し引いてから計算すること

→右記(C)を記入し(2)へ(計算根拠は別紙で添付すること) **冷房エネルギー削減量 = (C)** MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

⑤ 計算式での計算(冷房エネルギー削減量の算出)

〈補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量の算出〉

冷房の消費エネルギー量(断熱改修後) × 補助対象機器で冷房する居室の床面積 ÷ 冷房する居室の床面積

$$(c \quad 2,275) \times (ト \quad 66.25) \div (テ \quad 77.02) = (ヌ) \quad 1,957 \quad \text{MJ/年・世帯}$$

〈冷房エネルギー削減率の算出〉

1 - 既存機器の冷房効率 ÷ 補助対象とする冷房機器の(平均)効率

$$1 - 0.985 \div (ナ \quad 1.926) = (ネ) \quad 0.489$$

(小数点第三位まで)

《補助対象空調設備による冷房エネルギー削減量(C)の算出》

補助対象物で冷房する居室の合計消費エネルギー量 × 冷房エネルギー削減率

$$(ヌ) \quad 1,957 \times (ネ) \quad 0.489 = (C) \quad 957 \quad \text{MJ/年・世帯}$$

(小数点以下四捨五入)

(6) 給湯のエネルギー計算(モデル区分D2の場合は③のみ記入のこと)

記入例

① 給湯の消費エネルギー量(MJ/年・世帯)の算出

全体の一次消費エネルギー量(MJ/年・世帯) × 給湯用途割合(%)

(ク 69,587) × (20.3) ÷ 100 = (d) 14,126 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)
6.(2)②で算出
↑ 公募要領59ページ表11

② 今回導入する機器(補助対象とするもの)の効率の算出

メーカー名	機種名 (型式)	電気 : APF ガス・石油 : 給湯効率	台数 (台)
〇〇〇〇	EC-d	3.4	1

③ 既存の機器の効率の算出

機器種別	メーカー名	機種名 (型番)	使用年数 (年)	台数 (台)	他 性能に関わる情報
ガス	△△△△	DE-f	15	1	
機器種別は必須。 メーカー、機種名もわかる範囲で記入すること					

↑ 石油、ガス、電気のいずれか該当するものを記入
 ※ メーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

↑ 機器種別が石油の場合は、瞬間式か瞬間貯湯式かを記入

④ 給湯エネルギー削減量の算出

(給湯エネルギー削減率の算出)

1 - 導入する機器のエネルギー係数 ÷ 既存の機器のエネルギー係数

1 - (0.902) ÷ (1.36) = (j) 0.337
↑ 公募要領54ページ表7 ↑ 公募要領62ページ表13 (小数点第三位まで)

割り算から先に行い、
その後1から引く

《給湯エネルギー削減量(D)の算出》

給湯の消費エネルギー量 × 給湯エネルギー削減率

(d 14,126) × (j 0.337) = (D) 4,760 MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

(7) 照明・その他のエネルギー計算(新規システムの場合のみ)

↓ どちらかに○印をつける

- ・ () 照明・その他で補助対象がある → 下記(E)、(F)を記入し計算根拠を別紙で添付
- ・ (○) 照明・その他で補助対象はない → (8)へ

照明のエネルギー削減量(結果) = (E) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

その他のエネルギー削減量(結果) = (F) MJ/年・世帯
(小数点以下四捨五入)

※ 照明(またはその他)の消費エネルギー量は、他と同様に「全体の一次消費エネルギー量」×「照明(またはその他)の用途割合(%)」÷100で算出すること

(8) 申請住宅(全体)のエネルギー計算

記入例

① 6.(3) ②または③で算出 6.(4) ④または⑤で算出 6.(5) ④または⑤で算出

(A 6,063) + (B 4,952) + (C 957) + (D 4,760) + (E) + (F)

= (G) 16,732 MJ/年・世帯 ←2ページ目に転記すること

② 申請住宅(全) 6.(3) ①で算出 6.(6) ①で算出 算出

(a 18,997) + (d 14,126) + () + ()

↑(照明を改修した場合のみ) 照明の改修部の消費エネルギー量

↑(その他を改修した場合のみ) その他の改修部の消費エネルギー量

= (g) 33,123 MJ/年・世帯

(G 16,732) ÷ (g 33,123) × 100 = (H) 50.5 % ←2ページ目に転記すること
(小数点第一位まで)

③ 費用対効果(円/MJ)の算出 補助対象費用が3,000,000円(税込)の場合 300円/MJ以上の場合は申込み不可

補助対象費用(1/3をする前の費用) ÷ 申請住宅(全体)のエネルギー削減量

= (3,000,000) ÷ (G 16,732) = (I) 179.3 円/MJ ←2ページ目に転記すること
(小数点第一位まで)

(9) 断熱改修の仕様

記入要領

① 断熱仕様

部 位	断熱材の種類	厚さ(単位mm)	次世代省エネ基準への適合確認	ノンフロン材の確認
屋根又は天井	屋 根			
	天 井			
壁				
外壁の中間階床の横架材部分				
床	外気に接する部分			
	その他の部分			
土間床等の外周部	外気に接する部分			
	その他の部分			

種類、厚さは詳しく記入(カタログと整合性がとれるよう記載すること)
例)グラスウール16K 厚150
ポリスチレンフォームB種 厚60 等

次世代省エネ基準以上であることを確認し、○を記入(仕様書(カタログ)も添付し、仕様書(カタログ)のどこに記載しているか分かるように該当部分にマーカーや付箋を貼るなどすること)

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

② 開口部の断熱・気密仕様

部 位	種 類	構造又は熱貫流率	次世代省エネ基準適合確認(窓ガラス・窓サッシ仕様等の確認)	ノンフロン材であることを確認し、○を記入(仕様書(カタログ)もノンフロン材であることがわかる部分を添付すること)
窓ガラス・窓サッシ				
引き戸及び框ドア				
ド ア				
窓、引き戸及び框ドア				
ド ア				

要件に適合していることを確認し、○を記入(仕様書(カタログ)も添付要)

※必ず仕様書(カタログ)の写しを添付すること

③ 開口部の日射侵入防止措置

部 位	ガラスの日射侵入率	措 置
窓		
引き戸及び框ドア		
ド ア		

仕様内訳、付属部材名、ひさし、軒等の仕様を記入

(3) 追加的節電実施計画書の作成要領

【新築・増築・改築】
定型様式 8

追加的節電実施計画書 (新築・増築・改築)

1. 申込者 導入先住所 _____
氏 名 _____

システムを導入する住宅と
同じ住所を記入

2. 消費電力の削減率の計算

・今回導入する照明器具のW数の合計と、電球形LEDの合計W数と白熱電球の合計W数の差分の算出

室番号	室名	機器種別	機器のメーカー名	機種名(型式)	機器のワット(W)数	台数	機器ごとのW数の合計(ア)	導入するLEDのルーメン(lm)数	白熱電球換算W数	白熱電球換算W数の合計(イ)	(ア)と(イ)の差分(イ)-(ア)
1	LDK	電球形蛍光灯	〇〇〇〇	ABC-100	100	2	200				
		電球形蛍光灯	△△△△	DEF-35	60	2	120				
		電球形LED	〇〇〇〇	ABC-60	10.3	2	20.6	810	60	120	99.4
2	1F洋室①	電球形蛍光灯	〇〇〇〇	ABC-80	60	3	180				
3	1F洋室②	電球形蛍光灯	□□□□	ZZ-456	60	2	120				
		電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	810	60	60	49.7
4	2F和室	電球形蛍光灯	〇〇〇〇	ZZ-456	60	1	60				
5	寝室	電球形蛍光灯	△△△△	DEF-35	60	2	120				
		電球形LED	□□□□	ZZ-40	6	4	24	485	40	160	136
6	書斎	電球形蛍光灯	〇〇〇〇	ABC-60	60	1	60				
7	トイレ	電球形LED	□□□□	ZZ-123	7.2	1	7.2	490	40	40	32.8
8	洗面所	電球形蛍光灯	〇〇〇〇	ABC-60	60	1	60				
		電球形LED	□□□□	ZZ-123	7.2	1	7.2	490	40	40	32.8
9	風呂	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	810	60	60	49.7
10	玄関	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	810	60	60	49.7
11	廊下	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	2	20.6	810	60	120	99.4
12	階段	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	810	60	60	49.7
13											
合計							(a) 1,041			(b) 599	

↑電球形LEDランプの個所のみ記入

- ・今回導入する照明器具のW数の合計(a)
- ・電球形LEDランプのW数と、電球形LEDランプのW数を白熱電球のW数に換算したW数の差分の合計(b)

消費電力の削減率(%) = (b) ÷ {(a) + (b)} × 100

小数点第二位以下切り捨て

((b) 599) ÷ ((a)+(b) 1,640) × 100 = 36.5 %
(小数点第一位まで)

追加的節電実施計画書（既築（全区分共通））

1. 申込者 導入先住所 _____
氏 名 _____

システムを導入する住宅と
同じ住所を記入

2. 消費電力の削減率の計算

・住宅全体の改修後の照明器具のW数の合計と、電球形LEDランプの合計W数とLEDで代替する照明器具の合計W数の差分の算出

	室名	機器種別	機器のメーカー名	機種名(型式)	機器のワット(W)数	台数	機器ごとのW数の合計(ア)	LEDで代替する既存の照明のW数	台数	LEDで代替する既存の照明のW数の合計(イ)	(ア)と(イ)の差分(イ)-(ア)
1	LDK	電球形蛍光灯	○○○○	ABC-100	100	2	200				
		電球形蛍光灯	△△△△	DEF-35	60	2	120				
		電球形LED	○○○○	ABC-60	10.3	2	20.6	60	2	120	99.4
2	1F洋室①	電球形蛍光灯	○○○○	ABC-80	60	3	180				
3	1F洋室②	電球形蛍光灯	□□□□	ZZ-456	60	2	120				
		電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	60	1	60	49.7
4	2F和室	電球形蛍光灯	○○○○	ZZ-456	60	1	60				
5	寝室	電球形蛍光灯	△△△△	DEF-35	60	2	120				
		電球形LED	□□□□	ZZ-40	6	4	24	40	4	160	136
6	書斎	電球形蛍光灯	○○○○	ABC-60	60	1	60				
7	トイレ	電球形LED	□□□□	ZZ-123	7.2	1	7.2	40	1	40	32.8
8	洗面所	電球形蛍光灯	○○○○	ABC-60	60	1	60				
		電球形LED	□□□□	ZZ-123	7.2	1	7.2	40	1	40	32.8
9	風呂	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	60	1	60	49.7
10	玄関	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	60	1	60	49.7
11	廊下	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	2	20.6	60	2	120	99.4
12	階段	電球形LED	△△△△	DEF-60	10.3	1	10.3	60	1	60	49.7
13											
合計							(a) 1,041			(b) 599	

※ 既存の照明のメーカー名、機種名は分かる範囲で記入すること

↑電球形LEDランプの箇所のみ記入

- ・住宅全体の改修後の照明器具のW数の合計(a)
- ・今回導入する電球形LEDランプのW数と、今回導入する電球形LEDランプで代替する既存の照明器具のW数の差分の合計(b)

消費電力の削減率(%) = (b) ÷ {(a) + (b)} × 100

小数点第二位以下切り捨て

(b) 599) ÷ ((a)+(b) 1,640) × 100 = 36.5 %
(小数点第一位まで)

(4) 費用総括表の作成要領

定型様式2

費用総括表

- ・費用明細書を元に、システムを構成する設備ごとの補助対象合計金額を総括表に記載すること
- ・費用明細書の金額と整合性が取れるようにすること

システムを構成する設備		補助対象の合計金額		摘要	
空調設備	計	700,000	円	費用明細書の補助対象費用の設備費・工事費の合計を記入してください ※税抜	
給湯設備	計	800,000	円		
省エネナビ	計	50,000	円	新築・増築及び改築で断熱強化仕様の場合は、断熱強化仕様と次世代省エネルギー基準仕様の設備費・工事費の合計(補助対象外を除く)をそれぞれ記入してください ※税抜	
照明設備	計		円		
その他(追加的節電対策)	計	50,000	円		
小計(A)		1,600,000	円		
断熱強化仕様に係る費用(新築・増築及び改築のみ)					
サ(カ開 ラロ シス 部)	断熱強化仕様	計	1,800,000	円	…① (①と②の差額が補助対象額)
	次世代省エネルギー基準仕様	計	△	1,200,000	円
断熱部	断熱強化仕様	計	1,000,000	円	…③ (③と④の差額が補助対象額)
	次世代省エネルギー基準仕様	計	△	500,000	円
小計(B)=(差額の合計)		1,100,000	円		
断熱改修に係る費用(既築のみ)		計		円	
小計(C)				円	
換気設備	省エネ換気	計	400,000	円	…⑤ (⑤と⑥の差額が補助対象額)
	通常の機械換気	計	△	300,000	円
小計(D=差額)			100,000	円	注)換気設備…
合計(=A+B+C+D)			2,800,000	円	消費税は、この段階で計算してください。 (小数点以下切り捨て)
消費税			140,000	円	
合計(税込)(E)			2,940,000	円	(小数点以下切り捨て)
補助金交付申請予定額(F=E/3)			980,000	円	(小数点以下切り捨て) 【様式第1 補助事業申込書】に転記

(5) 費用明細書の作成要領

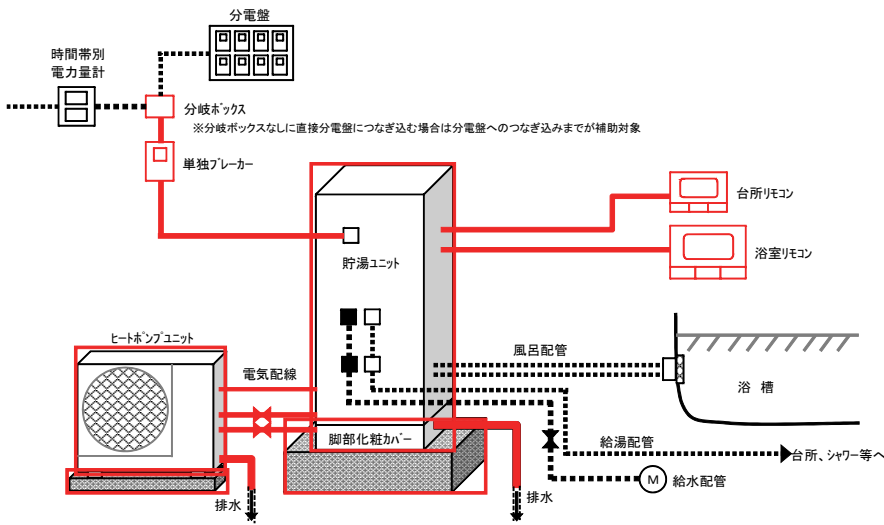
1) 補助対象費用と補助対象外費用についての留意事項

建築主(既築の場合は住宅所有者)と施工業者等間の費用全てが対象となるわけではありません。
詳細は下記表の通りです。

区分	費用	内容
補助 対象	空調機器 及び 給湯機器	補助対象となる空調機器、給湯機器の設置に必要な機械装置・建築材料等の購入・据付に要する費用 * 空調機器・給湯機器の一部は補助対象外とする(詳細は、下記の補助対象外費及び72ページを参照) * (補助対象機器の一部であっても)省エネルギーに寄与しないもの、及びそれに関する工事は補助対象としない。 * 設備設置と一体不可分の工事に限る
	計測装置 (省エネナビ)	補助対象となる計測装置(省エネナビ)の購入・据付に要する費用 * 機器を導入する補助事業者は必須(断熱改修のみの場合は必須としない) * 補助対象になるのは1申込につき1台 * (財)省エネルギーセンターで登録されているものに限る * 分電盤一体型の場合は、一般の分電盤費用との差額を補助対象とする * 既存、もしくは当事業と並行して設置する太陽光発電のモニターが、省エネナビとして(財)省エネルギーセンターで登録されている場合は、別途設置する必要はない(完了報告時の写真貼付及び型式確認で対応) * 上記において太陽光発電を国からの補助金を受けて購入した場合は、当事業の補助対象費用として加算してはならない
	省エネ換気	通常の機械換気設備との差額が補助対象
	照明	補助対象となる照明機器の購入・据付に要する費用
	断熱強化	次世代省エネルギー基準仕様との差額が補助対象
	断熱改修	次世代省エネルギー基準仕様に改修するための材料等の購入・据付に要する費用 * 足場設置費等、省エネルギーに寄与しないもの、及びそれに関する工事は補助対象外
	その他	(新規システムの場合) SIIが補助対象として指定するもの
補助 対象外	諸経費	設計費・送料・資材運搬費・足場設置費・現地交通費・撤去費・廃材処理費・管理費・印刷代・エネルギー供給事業者への各種申請費など
	仕上げ材等	床暖房の仕上げ材・断熱部の仕上げ材 * 仕上げ材一体の場合 仕上げ材部分を除いた機器部分、断熱部分が補助対象となる(費用の内訳を明示すること) なお工事費は補助対象外
	電気工事の一部	分電盤、電気の一次幹線(引き込み口～計器～分電盤)、計器の材料等の購入・据付に要する費用
	給湯機器の一部	給湯器における給湯配管、給水配管、風呂追い炊き配管、ガス管の購入・据付に要する必要(給湯器本体への接続工事、ガス管への接続工事は除く)
	差額を算出するものの比較機器分	・分電盤一体型省エネナビにおける分電盤相当費用(材工) ・省エネ換気における同種の機械換気設備相当費用(材工) ・断熱強化仕様における次世代省エネルギー基準仕様相当費用(材工)
	その他 対象外設備	・太陽光発電、燃料電池、障子、ブラインド、カーテンレール、施工を伴わない照明機器、蓄熱電気暖房機、FF式暖房機、コンロ、IHクッキングヒーター、食器洗い機、ユニットバス、断熱浴槽、その他の家電製品や容易に脱着、移動が可能なもの ・高効率変圧器や非常用発電機など、「エネルギーの使用の合理化に関する法律施工令」の第14条に定める建築設備以外の設備

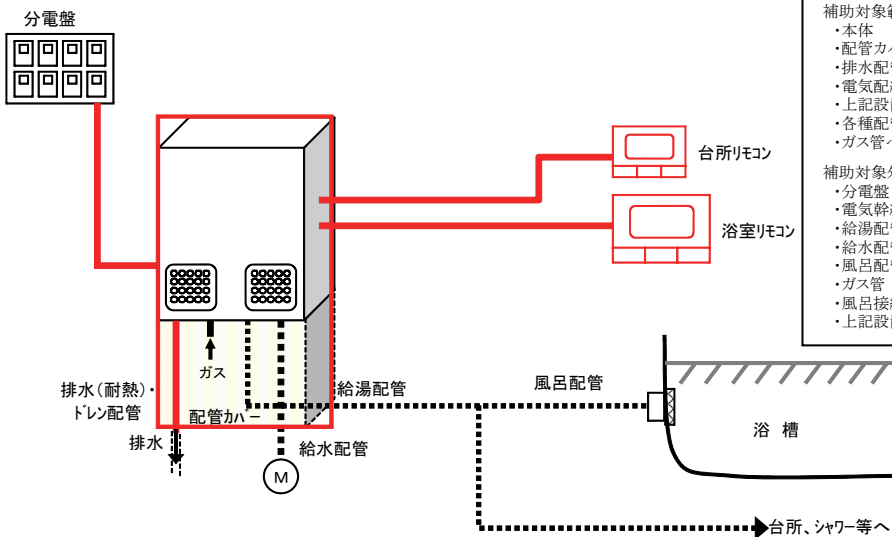
2) 給湯器の補助対象範囲 (赤線部分が補助対象)

◆CO₂冷媒ヒートポンプ給湯機給湯器の場合



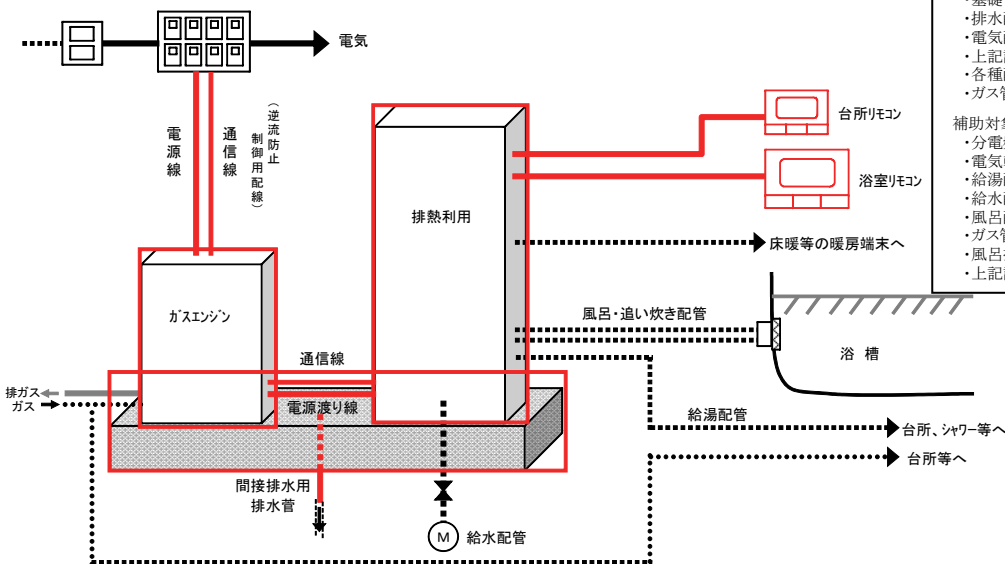
- 補助対象範囲**
- ・本体(ヒートポンプユニット・タンク)
 - ・ヒートポンプユニット～タンク間の循環配管
 - ・配管カバー(脚部化粧カバー)
 - ・排水配管(ドレン排水含む)
 - ・基礎
 - ・電気配線工事費(分岐ボックス～本体、リモコン関係)
 - ※分電盤につなぎ込む場合は分電盤～本体、リモコン関係
 - ・上記設置・施工に係る工事費
 - ・各種配管の本体への接続工事費
- 補助対象外**
- ・分電盤
 - ・電気幹線(引込口～計器～分電盤)
 - ・給湯配管
 - ・給水配管
 - ・風呂配管
 - ・風呂接続アダプタ
 - ・上記設置・施工に係る工事費

◆潜熱回収型ガス給湯器の場合



- 補助対象範囲**
- ・本体
 - ・配管カバー
 - ・排水配管(ドレン排水含む)
 - ・電気配線工事費(分電盤～本体、リモコン関係)
 - ・上記設置・施工に係る工事費
 - ・各種配管の本体への接続工事費
 - ・ガス管への接続工事費
- 補助対象外**
- ・分電盤
 - ・電気幹線(引込口～計器～分電盤)
 - ・給湯配管
 - ・給水配管
 - ・風呂配管
 - ・ガス管
 - ・風呂接続アダプタ
 - ・上記設置・施工に係る工事費

◆ガスエンジン給湯器の場合



- 補助対象範囲**
- ・本体(発電ユニット・給湯暖房ユニット)
 - ・発電ユニット～給湯暖房ユニット間の通信線・電源渡り線
 - ・配管カバー
 - ・基礎
 - ・排水配管(ドレン排水含む)
 - ・電気配線工事費(分電盤～本体、リモコン関係)
 - ・上記設置・施工に係る工事費
 - ・各種配管の本体への接続工事費
 - ・ガス管への接続工事費
- 補助対象外**
- ・分電盤
 - ・電気幹線(引込口～計器～分電盤)
 - ・給湯配管
 - ・給水配管
 - ・風呂配管
 - ・ガス管
 - ・風呂接続アダプタ
 - ・上記設置・施工に係る工事費

3) 費用明細書の記入例及び注意点

①空調機器の場合

定型様式 3

費用明細書【空調機器】

本体、材料等、補助対象となる
設備費(材料費)を記入して下さい

標準価格・オープン価格
を記入して下さい

枚に及ぶ場合
(ページ)

<補助対象費用>

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	1	エアコン(4.0kW)	11J-4001	1	セット	*****	*****	*****	
	2	エアコン(2.2kW)	6A-2201A	1	セット	*****	*****	*****	
設備費計							*****		-
費目	図面No.	工事名・作業内容		工数	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	1	設置にかかる部材費		※	式	*****	*****		
	1	人工費用		※	人工	*****	*****		
	2	設置にかかる部材費		※	式	*****	*****		
	2	人工費用		※	人工	*****	*****		
電気工事費	1,2	電気工事にかかる部材費		1	式	*****	*****	分電盤の取替工事分を除く	
	1,2	人工費用		※	人工	*****	*****		
その他									
補助対象設備の設置に必要な 工事費のうち補助対象となる ものを記入して下さい				1人工=作業員1名が 1日間かかる作業量		工事費計	*****		-
補助対象合計金額[税抜]							*****	← 費用総括表へ転記	

<補助対象外費用>

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	-	床暖房の仕上げ材等、補助対象 外設備が見積書に含まれている 場合は記入して下さい							
設備費計									-
費目	図面No.	工事名・作業内容		工数	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	-	分電盤の取替、一次幹線の 張替工事等は補助対象外 (71ページ参照)							
電気工事費	-	分電盤取替工事費					*****		
諸経費等	-	既存機器撤去工事費					*****	2台分合計	
		諸経費、設計費、送料、資材運搬 費、足場設置費、現地交通費、撤 去費、廃材処理費、管理費、印刷 代等は補助対象外 (71ページ参照)					*****		
工事費・諸経費等計							*****		-
補助対象外合計金額							*****	← 総括表への転記不要	

費用明細書【給湯機器】

本体、材料等、補助対象となる
設備費(材料費)を記入して下さい

標準価格・オープン価格
を記入して下さい

(枚に及ぶ場合 / ページ)

<補助対象費用>

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格 等	備考
設備費 (材料費)	1	CO2冷媒ヒートポンプ給湯器	T-1234、 HP-5678	1	台	※※※※※	※※※※※※	※※※※※	タンク、ヒートポンプ ユニットのセット
	1	同脚部化粧カバー	AB0001	1	式	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	1	同ヒートポンプ循環配管	BE0101	1	式	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	1	同リモコンセット	RIM10B1	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
設備費計									—
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	1	基礎にかかる部材費		1	式	※※※※※	※※※※※		
	1	基礎工事の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
	1	設置にかかる部材費		1	式	※※※※※	※※※※※		
	1	設置工事の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
電気工事費	1	電気配線工事にかかる部材費		1	式	※※※※※	※※※※※	分電盤～本体、分岐ボックス、リモコン	
	1	電気配線工事の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
	1								
配管接続・排 水配管工事費	1	本体への配管接続にかかる部材費		1	式	※※※※※	※※※※※		
	1	本体への配管接続の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
	1	排水配管工事にかかる部材費		1	人工	※※※※※	※※※※※		
	1	排水配管工事の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
その他 工事費									
工事費計									—
補助対象合計金額[税抜]							※※※※※		← 費用総括表へ転記

補助対象設備の設置に必要な
工事費のうち補助対象となる
ものを記入して下さい

1人工=作業員1名が
1日間かかる作業量

<補助対象外費用>

補助対象外設備が見積書に含まれ
ている場合は記入して下さい

費目	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格 等	備考
設備費 (材料費)	風呂接続 アダプター	風呂接続アダプター	FUR0000	1	個	※※※※	※※※※	※※※※
	追炊配管	追炊配管	ODH2222	1	式	※※※※※	※※※※※	※※※※※
設備費計							※※※※※	—
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考
設置工事費	—							
電気工事費	—	幹線張替工事費						
配管工事費	—	給水・給湯配管の既存管延長工事費					※※※※※	
	—	風呂追炊配管工事費					※※※※※	
諸経費等	—	既存給湯器撤去工事費					※※※※※	
		諸経費					※※※※※	
工事費・諸経費等計							※※※※※	—
補助対象外合計金額							※※※※※	← 総括表への転記不要

分電盤の取替、一次幹線の
張替工事等は補助対象外
(71ページ参照)

給水配管、給湯配管、風呂追
炊き配管の既存管の延長や
取替については補助対象外
(71～72ページ参照)

諸経費、設計費、送料、資材運搬
費、足場設置費、現地交通費、撤
去費、廃材処理費、管理費、印刷
代等は補助対象外
(71ページ参照)

②給湯機器の場合－2

定型様式3

費用明細書【給湯機器】

本体、材料等、補助対象となる
設備費(材料費)を記入して下さい

標準価格・オープン価格を
記入して下さい

枚に及ぶ場合
/ ページ)

<補助対象費用>

費目	図面No.	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	1	潜熱回収型ガス給湯器	EJ1234	1	台	*****	*****	*****	
	1	リモコンセット	RIM20A	1	セット	*****	*****	*****	
	1	配管カバー	HK0002	1	式	*****	*****	*****	
設備費計									—
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	1	設置にかかる部材費		1	式	*****	*****		
	1	設置工事の人工費用		*	人工	*****	*****		
電気工事費	1	電気配線工事にかかる部材費		1	式	*****	*****	配線工事、リモコン工事	
	1	電気配線工事の人工費用		*	人工	*****	*****		
配管接続・排水配管工事費	1	本体への配管接続にかかる部材費		1	式	*****	*****		
	1	本体への配管接続の人工費用		*	人工	*****	*****		
	1	排水配管工事にかかる部材費		1	人工	*****	*****		
	1	排水配管工事の人工費用		*	人工	*****	*****		
その他 工事費	1	ガス管への接続工事費		*	人工	*****	*****		
工事費計							*****		—
象合計金額[税抜]							*****		← 費用総括表へ転記

補助対象設備の設置に必要な
工事費のうち補助対象となる
ものを記入して下さい

1人工とは、作業員1名
が1日間かかる作業量

<補助対象外費用>

費目	品名	品番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考	
設備費 (材料費)	風呂接続 アダプター	風呂接続アダプター	FS0001	1	個	*****	*****	*****	
	追炊配管	追炊配管	ODK1111	1	式	*****	*****	*****	
設備費計							*****	—	
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	—	分電盤の取替、一次幹線の 張替工事等は補助対象外 (71ページ参照)							
電気工事費	—	給水配管、給湯配管、風呂追 炊き配管、ガス管の既存管の 延長や取替については補助 対象外 (71～72ページ参照)							
配管工事費	—	給水・給湯配管の既存管延長工事費					*****		
	—	風呂追炊配管工事費					*****		
	—	ガス管延長工事費					*****		
諸経費等	—	既存給湯器撤去工事費					*****		
諸経費	—	諸経費					*****		
工事費・諸経費等計							*****		—
補助対象外合計金額							*****		← 総括表へ転記不要

費用明細書【**省エネナビ**・省エネ換気・照明・開口部・断熱部・その他】

※複数枚に及ぶ場合
(/ ページ)

<補助対象費用>

費目	図面No.	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	8	省エネナビ	SNB000	1	式	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
設備費計							※※※※※		—
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	8	設置工事の人工費用		※	人工	※※※※※	※※※※※		
工事費計							※※※※※		—
補助対象合計金額[税抜]							※※※※※	← 費用総括表へ転記	

本体、材料等、補助対象となる設備費(材料費)を記入して下さい。
(注)分電盤と一体型の省エネナビの場合は、同等の通常の分電盤の差額が補助対象費用となるため、別途通常の分電盤分の費用明細書も作成して下さい

標準価格・オープン価格を記入して下さい

補助対象設備の設置に必要な工事費のうち補助対象となるものを記入して下さい

1人工とは、作業員1名が1日間かかる作業量

<補助対象外費用>

費目	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・ オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	—							
設備費計								—
費目	図面No.	工事名・作業内容				金額(円) [税抜]	備考	
工事費	—							
諸経費等	—							
工事費・諸経費等計								—
補助対象外合計金額								← 総括表への転記不要

④断熱改修（開口部）の場合

定型様式 3

費用明細書【省エネナビ・省エネ換気・照明・**開口部**・断熱部・その他】

※断熱改修に及びる場合

<補助対象費用>

標準価格・オープン価格を記入して下さい

費目	図面No.	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・オープン価格	備考
設備費 (材料費)	1	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1690*H2030	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	2	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	3	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W720*H840	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	4	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	5	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	6	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	7	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	8	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	9	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
	10	樹脂製内窓(Low-Eペアガラス)	W1650*H1760	1	セット	※※※※※	※※※※※	※※※※※	
設備費計							※※※※※		—
費目	図面No.	工事名・作業内容		数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考	
設置工事費	1~10	設置工事の人工費用(10セット)		※	人工	※※※※※	※※※※※	1セットあたり※人工	
工事費計							※※※※※		—
補助対象合計金額[税抜]							※※※※※		← 費用総括表へ転記

本体、材料等、補助対象となる
設備費(材料費)を記入して下さい

補助対象設備の設置に必要な
工事費のうち補助対象となる
ものを記入して下さい

1人工とは、作業員1名が
1日間かかる作業量

<補助対象外費用>

補助対象外設備が見積書に含まれている場合は記入して下さい

費目	品名	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・オープン価格等	備考
設備費 (材料費)	—				
設備費計					—
費目	図面No.	工事名・作業内容		金額(円) [税抜]	備考
工事費	—				
諸経費等	—	搬入費		※※※※※	
工事費・諸経費等計				※※※※※	—
補助対象外合計金額				※※※※※	← 総括表への転記不要

諸経費、設計費、送料、資材運搬費、足場設置費、現地交通費、撤去費、廃材処理費、管理費、印刷代等は補助対象外(71ページ参照)

⑤追加的節電対策（電球形LED）の場合

定型様式 3

費用明細書【省エネナビ・省エネ換気・照明・開口部・断熱部・**その他**】

<補助対象費用>

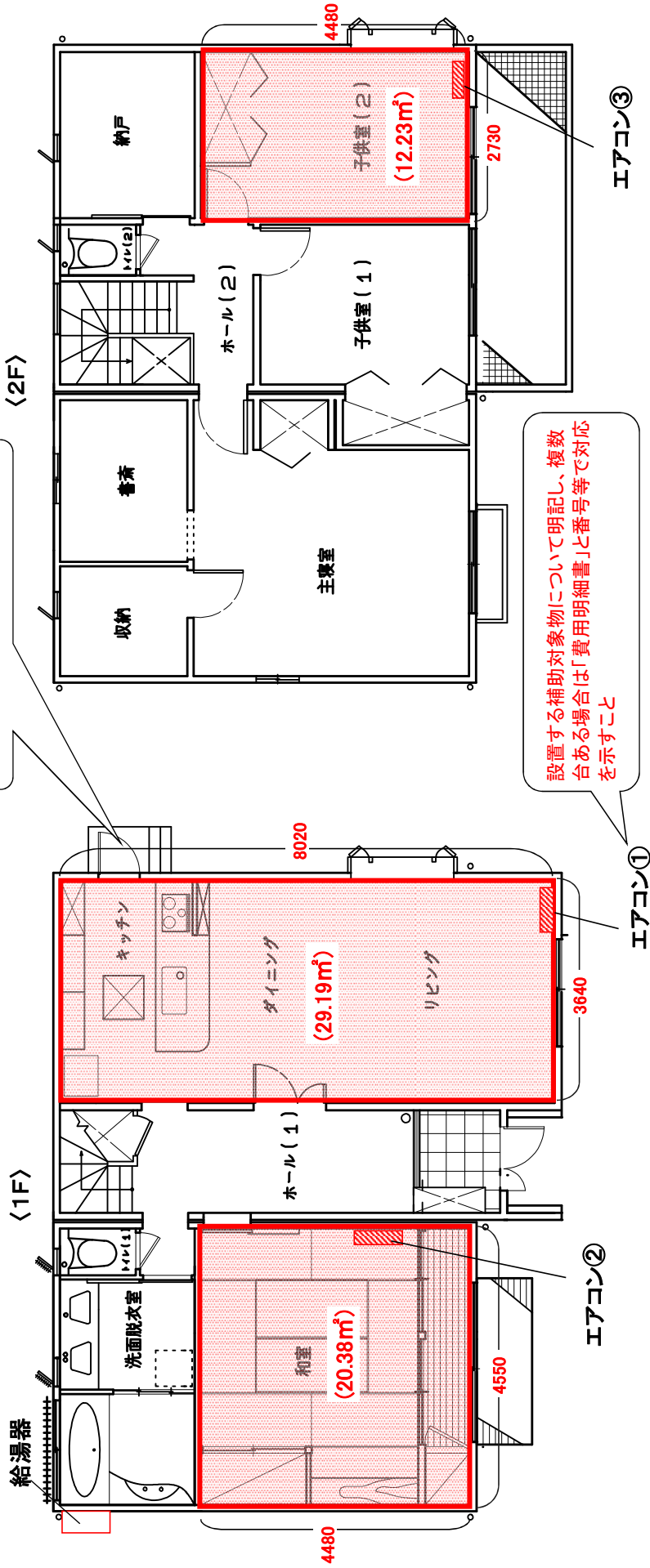
費目	図面No.	品名	型式・機番 もしくは規格	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・オープン価格 記入して下さい	備考
設備費 (材料費)		○●機 電球形LEDランプ	ZZ-123	4	台	*****	*****	*****	
		○●機 電球形LEDランプ	ZZ-40	2	台	*****	*****	*****	
		●○機 電球形LEDランプ	ABC-100	2	台	*****	*****	*****	
設備費計							*****		—
費目	図面No.	工事名・作業内容			数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	備考
設置工事費		取付工事費			*	人工	*****	*****	
工事費計							*****		—
補助対象外合計金額[税抜]									← 費用総括表へ転記

<補助対象外費用>

費目	品名	型式・機番	数量	単位	単価(円)	金額(円) [税抜]	標準価格・オープン価格	備考
設備費 (材料費)	—	その他の照明器具	10	台	*****	*****	*****	
設備費計						*****		—
費目	図面No.	工事名・作業内容			金額(円) [税抜]	備考		
工事費	—							
諸経費等	—							
工事費・諸経費等計								—
補助対象外合計金額						*****		← 総括表への転記不要

(6) 配置図の作成要領

- 1) 既築 機器の配置の例
(個別エアコン (3台) + 給湯器 + 省エネナビの場合の例)



個別エアコンを導入する居室の間口・奥行き寸法、及び床面積を明記すること

設置する補助対象物について明記し、複数台ある場合は「費用明細書」と番号等に対応を示すこと

個別エアコン(3台)を導入する居室の合計床面積が、住宅の延床面積の1/3以上であること

住宅の延床面積: 141.62 m²

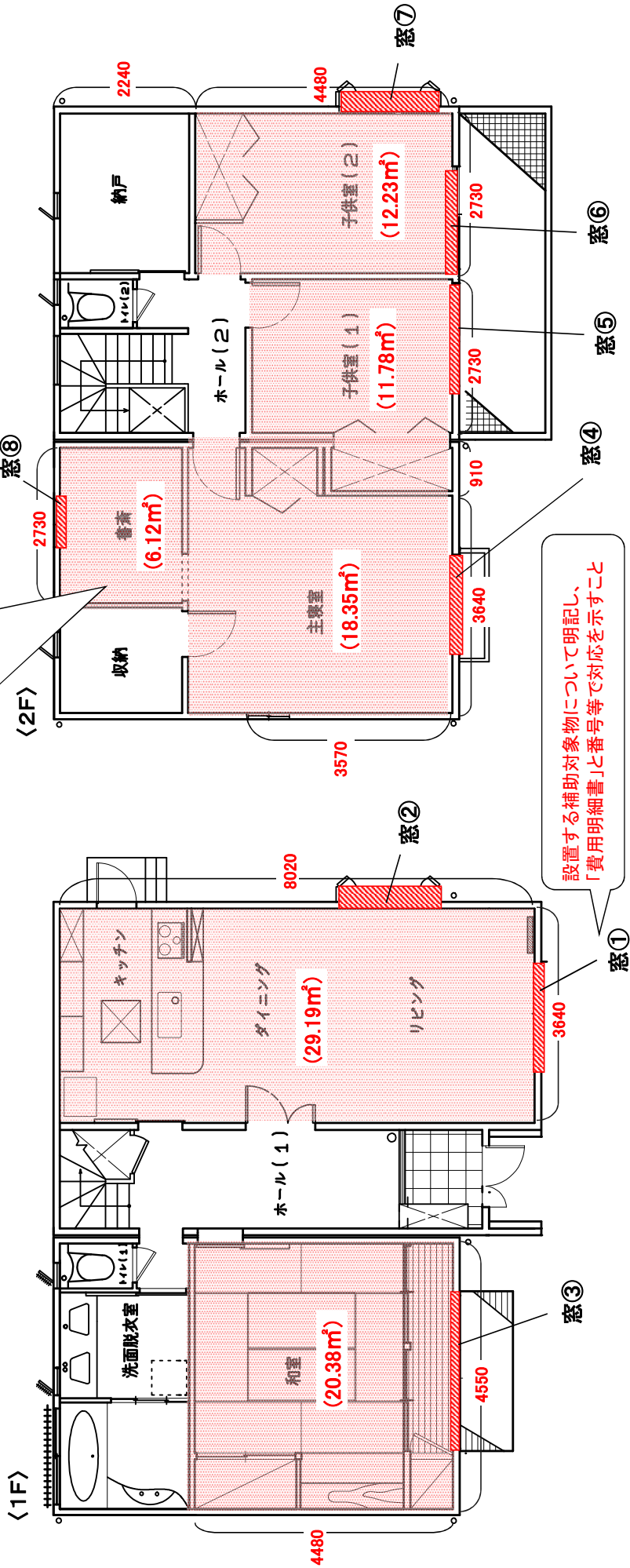
補助対象個別エアコンを設置する居室の合計床面積 LDK(29.19 m²) + 和室(20.38 m²) + 子供室(2)(12.23 m²) = 61.8 m²

61.8 m² / 141.62 m² (住宅の延床面積) = 0.43

※ 「居室」内の収納部分は床面積に含めることができません。
 ※ 省エネナビについては配置図での表記は不要とします。

2) 既築 断熱改修の例

(暖冷房している全ての居室の窓ガラス・窓サッシを改修する場合の例)



住宅の延床面積: 141.62㎡

断熱改修を行う「居室」の合計床面積 (=断熱改修面積)

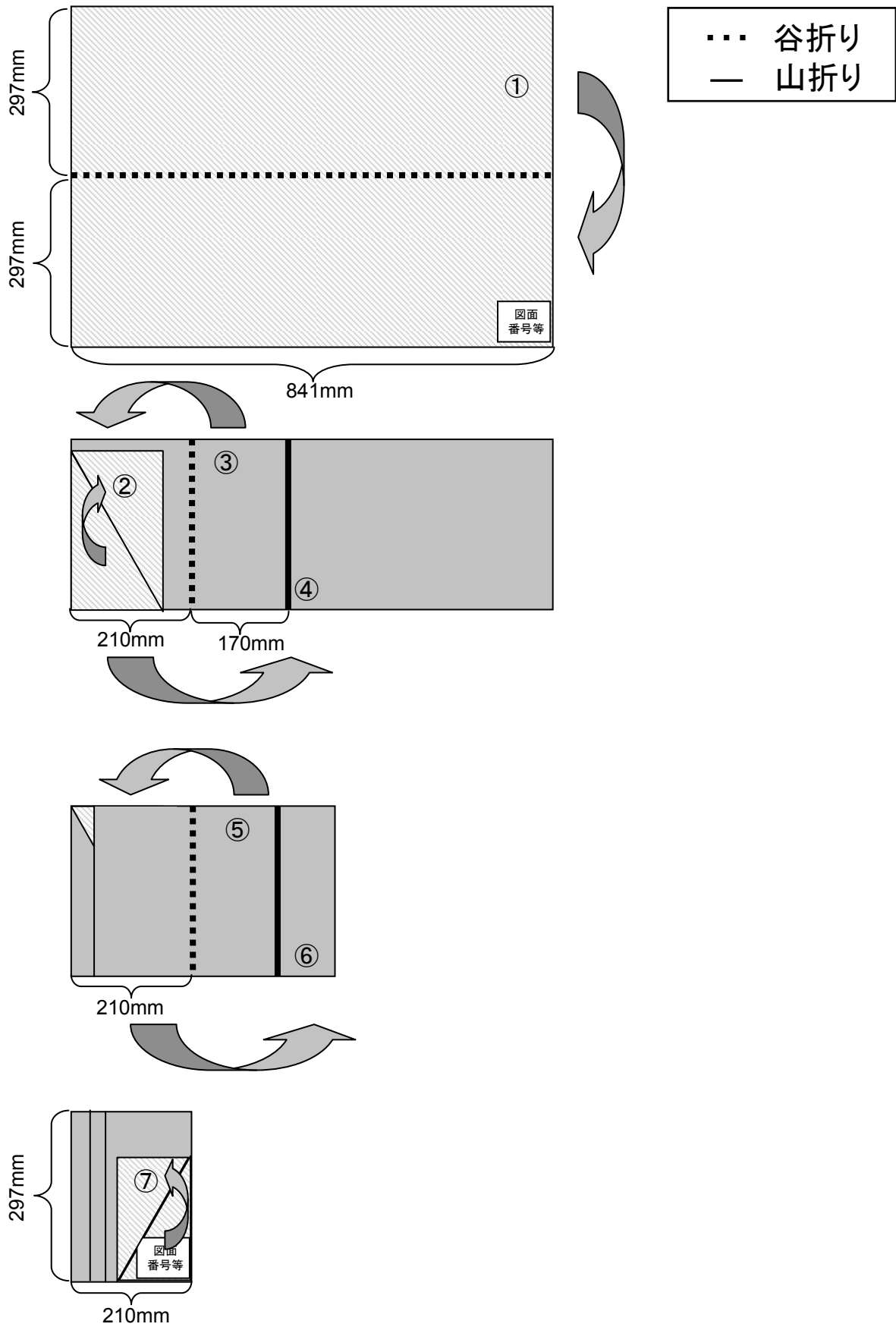
LDK(29.19㎡) + 和室(20.38㎡) + 主寝室(18.35㎡) + 子供室(1)(11.78㎡) + 子供室(2)(12.23㎡) + 書斎(6.12㎡) = 98.05㎡

98.05㎡ (断熱改修面積) / 141.62㎡ (住宅の延床面積) = 0.69

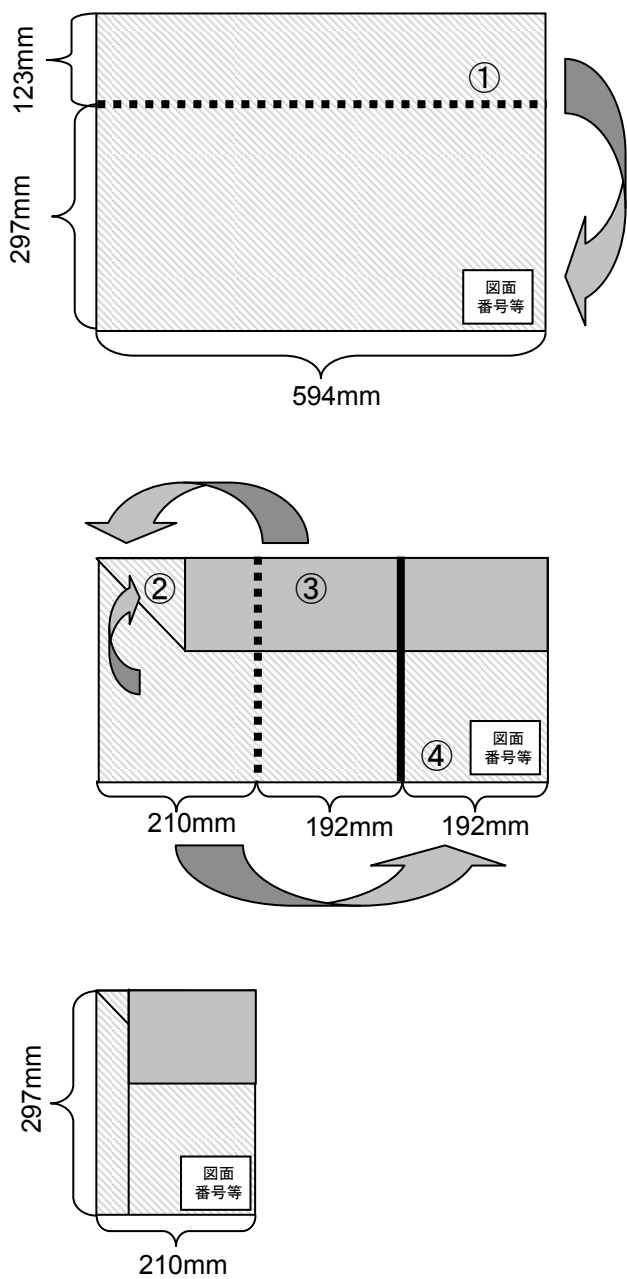
※ 「居室」内の収納部分は改修面積に含めることができます。

(7) 建築図面等(A1~3)の折り方

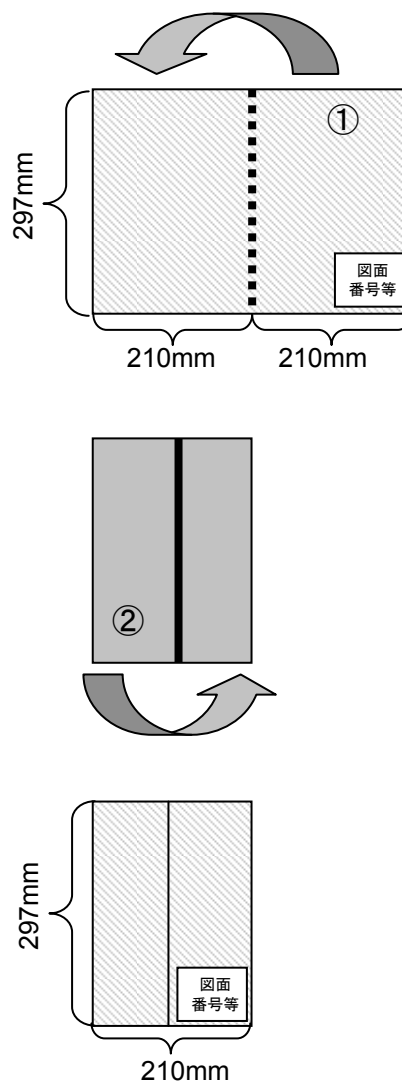
1) A1図面のA4サイズへのファイル折り



2) A2図面のA4サイズへのファイル折り



3) A3図面のA4サイズへの
ファイル折り



(8) システム提案書の作成要領

定型様式5 (1/3) 平成23年 月 日 平成23年度 住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業(住宅に係るもの) 高効率エネルギーシステム提案書	1. システム名称 _____ 2. 事前相談結果番号 No. _____ 3. 申込者 郵便番号 _____ 住所名 _____ 氏名 _____ 電話番号 _____ 4. システム提案者連絡先 (常時連絡がとれる連絡先) 郵便番号 _____ 住所名 _____ 代表者名 _____ 部署名 _____ 役職名 _____ 氏名 _____ 電話番号 _____ FAX _____ E-mail _____
-----------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

注) ・「システム名称」は事前相談の名称と同一のものとする。こと。
 ・「事前相談結果番号」はS I I から発行された事前相談結果票に記載された番号を記入すること。
 ・システム提案者は常時連絡がとれる連絡先を記入すること。

1

・事前相談と同一の名称とすること
 ・簡潔な名称を提案者が設定すること
 ・提案が複数の場合は付番等で区別しやすい名称が望ましい

2

・事前相談結果票に記載された事前相談結果番号を記入すること

3

・申込者(システム導入予定者)の情報を記入する

4

・本提案書の作成担当者を記入する
 (内容について確認する場合は、常時連絡がとれる連絡先を記入すること)

※ 事前相談結果票において求められた技術資料についても必ず添付すること

システムNo. (SII記載箇所) - - - - 空・給・断熱改修・その他()

システムの名称	・空調 ・給湯 ・断熱改修 ・その他		・HP・ガス・石油温水・温風暖房・太陽熱利用暖房・その他() ・HP・ガス・石油・コージェネ・太陽熱・その他() 改修部位() ※既築の場合のみ ・断熱改修(既築)・改修部位()
申込住宅	エネルギー削減率	%	費用対効果
	地域	I a・I b・II・III・IVa・IVb・V・VI	円/MJ
	延床面積 構造	階数	

システム概要・機器等の仕様

システム概要図	機器等の仕様

システムの概要

会社名	
部署名	
担当者名	
電話番号	
FAX番号	

・記入不要(SIIが記入する)

・該当する項目に○をつける

・実施計画書に記載した申込住宅の情報を転記する
(予約者決定後のSIIホームページ公開の際は、申込住宅についての内容は地域区分のみ公開)

・わかりやすいようにイラスト・システム図等を用いて説明すること
・色分けは不可。黒一色で記入する
・単位は、すべてSI単位で表示すること

・機器毎の種類(名称)及び効率(COP等)等の性能値について記入する

・システムの概要を簡潔に説明する

・一般からのシステムに係る問い合わせ等を直接受ける窓口を記入する

※必ず枠内に収めて記入すること(「別紙参照」等は不可)

概要詳細 及び特徴		
先進性		
汎用性	適用できる 地域	I a ・ I b ・ II ・ III ・ IV a ・ IV b ・ V ・ VI (125㎡でシミュレーションし、根拠を別添すること)
その他		

・システム概要の補足説明及び特徴を記入する

・新規性やこれまでにない工夫等、将来のシステムの先導として期待される特性を記入する

・申込住宅を含め、当該システムを住宅に導入した場合にSIIが定めるエネルギー削減率を達成できる地域に○をつける

・上記で○をつけた各地域について、延床面積125㎡の住宅でシミュレートした削減率を記入する
・計算根拠は別紙で添付すること

・その他、先導的なシステムの好例となりうる特性等を記入する

※必ず枠内に収めること(「別紙参照」等は不可)

3. 予約者決定以降に必要な様式・書類

(1) 工事着工届出書（様式第2）

予約者は、予約者決定通知を受けて30日以内に下記の書類をSIIに提出します。

- ・工事着工届出書（様式第2）
- ・工事請負契約書の写し（コピー）
- ・工程表の写し（コピー）

※予約者は、予約者決定通知を受けてから速やかに工事請負契約をしてください。

（工事の着工は、工事着工届出書の提出後で構いません。）

※新築の場合、補助金の交付申請に建設住宅性能評価書の写しが必要となりますので、評価機関への申請（予定）日を必ずご記入ください。

※書類の作成については、予約者決定通知時に「関連書類作成要領書」を送付しますので、そちらを参考に作成ください。

様式第2 (工事着工届出書)

平成23年 月 日

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
代表理事 赤池 学 殿

予約者 郵便番号
住所
氏名 印
電話番号

手続代行者 住所
会社名
代表者等名 印

平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業
(住宅に係るもの) 工事着工計画届出書

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(住宅に係るもの) 交付規程第6条第1項の規定に基づき、下記のとおり経済産業省からの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業) 交付要綱第3条に基づく国庫補助金に係る工事着工届出書を提出します。

記

1. 工事着工(予定)日 平成 年 月 日
2. 工事完了予定日 平成 年 月 日
3. 建設住宅性能評価申請(予定)日 平成 年 月 日(新築のみ)

(手続代行者連絡先)

担当者	(E-mail:)
所属	
住所	〒
電話番号 F A X	

(添付書類)

- (1) 工事請負契約書の写し(コピー)
- (2) 工程表の写し(コピー)

(備考) 用紙は日本工業規格A4とし、縦位置とする。

一般社団法人 環境共創イニシアチブの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金は、経済産業省が定めた住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業) 交付要綱第3条に基づく国庫補助金を住宅・建築物に係る高効率エネルギーシステムを住宅・建築物に導入しようとする方に交付するものです。

(2) 補助金交付申請書（兼工事完了報告書）（様式第6）

予約者は、工事完了の日から30日以内又は平成24年1月末日のいずれか早い日までに下記の書類をSIIに提出します。

- ・補助金交付申請書（兼工事完了報告書）（様式第6）
 - ・費用総括表・費用明細書
 - ・領収書の写し（コピー）
 - ・部位ごとの写真（施工前～施工後及び品番の写真）
 - ・印鑑証明書
 - ・住民票（**システム導入住宅の住所のもの。居住者全員分**）
 - ・建設住宅性能評価書の写し（コピー）（新築のみ）
 - ・**補助金の振込口座の通帳の写し（コピー）** ※予約者と同一名義の口座であること
 - ・システム導入前のエネルギー使用状況報告書
 - ・提出書類チェックリスト
- (補助金交付申請書（兼工事完了報告書）（様式第6）「2. 排出削減事業への参加」において、国が運営委託する排出削減事業（グリーン・リンケージ倶楽部（高効率給湯器））を選択された方のみ）
- ・**エネルギー使用量等計測機器設置報告書**

※書類の作成については、予約者決定通知時に「関連書類作成要領書」を送付しますので、そちらを参考に作成ください。

※費用総括表及び費用明細書については、申込み時と同様の様式となります。

※提出書類チェックリストは予約者決定通知時に送付する「関連書類作成要領書」についてありますのでそちらをご利用ください。

様式第6 補助金交付申請書
兼工事完了報告書

平成23年 月 日

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
代表理事 赤池 学 殿



申 込 者 郵 便 番 号
住 所
氏 名
電 話 番 号
手 続 代 行 者 郵 便 番 号
住 所
会 社 名
代 表 者 等 名

印

印

平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業
(住宅に係るもの) 補助金交付申請書 (兼工事完了報告書)

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(住宅に係るもの)交付規程第11条第1項の規定に基づき、下記のとおり経済産業省からの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業)交付要綱第3条に基づく国庫補助金に係る補助事業の工事の完了を報告するとともに補助金の交付を申請します。

記

1. 工事完了日 平成 年 月 日
2. 排出削減事業への参加^(注1) 高効率給湯器(CO2冷媒ヒートポンプ給湯器、潜熱回収型ガス給湯器、ガスエンジン給湯器、又は潜熱回収型石油(灯油)給湯器)の補助を申請する場合は、下記のいずれかにチェックすること。^(注2)

<input type="checkbox"/>	国が運営委託する排出削減事業(グリーン・リンケージ倶楽部(高効率給湯器))
<input type="checkbox"/>	その他の排出削減事業(事業名等: _____)

(注1) 記載内容について、別途国が委託する事業者から確認を行う場合があります。(注2) いずれか1つにチェックがされていない場合は、申請を受理することができません。

3. 補助金交付申請額 円

4. 補助金の振込先 ※ゆうちょ銀行以外の金融機関か、ゆうちょ銀行かどちらか一方の振込先を記入。

金融機関(ゆうちょ銀行以外)		ゆうちょ銀行	
金融機関コード(数字4ケタ)	振込銀行名	記号(6桁目がある場合は※部分に記入ください)	
		1	0*
支店コード(数字3ケタ)	支店名	番号(右詰で記入ください)	
			1
預金種別(該当に○)	口座番号(右詰で記入ください)		
普通・当座・その他			
口座名義人(カナ表記)			

(手続代行者連絡先)

担 当 者	(E-mail: _____)		
所 属	電 話 番 号		
	F A X 番 号		
住 所			

(添付書類)

- | | |
|-----------------------------|--------------------------------------|
| (1) 費用総括表・費用明細書 | (2) 領収書の写し(コピー) |
| (3) 部位ごとの写真(施工前～施工後及び品番の写真) | (4) 印鑑証明書 |
| (5) 住民票(居住者全員分) | (6) 建設住宅性能評価所の写し(コピー) |
| (7) 補助金の振込口座の通帳の写し(コピー) | (8) システム導入前のエネルギー使用状況報告書 |
| (9) 提出書類チェックリスト | (10) エネルギー使用量計測機器設置書 ^(注3) |

(注3) 2. で「グリーン・リンケージ倶楽部(高効率給湯器)」を選択された方のみ。

(備考) 用紙は日本工業規格A4とし、縦位置とする。

一般社団法人 環境共創イニシアチブの住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金は、経済産業省が定めた住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(先導的システム支援事業)交付要綱第3条に基づく国庫補助金を住宅・建築物に係る高効率エネルギーシステムを住宅・建築物に導入しようとする方に交付するものです。

エネルギー使用量等計測機器設置報告書

1. 申込者

予約者番号 _____

導入先住所 _____

氏 名 _____

電話番号 _____

2. 設置した高効率給湯器について（複数設置した場合、それぞれの機器ごとにわかる様に記入してください）

高効率給湯器の種別 (いずれかにチェック)	<input type="checkbox"/> CO2冷媒ヒートポンプ給湯器	<input type="checkbox"/> 潜熱回収型ガス給湯器	<input type="checkbox"/> ガスエンジン給湯器	<input type="checkbox"/> 潜熱回収型石油(灯油)給湯器
メーカー名				
型式 ※1				
製造番号				
機器効率 ※2				

※潜熱回収型ガス給湯器を設置した申込者のみ

使用燃料 (いずれかにチェック)	<input type="checkbox"/> 都市ガス	<input type="checkbox"/> LPガス
---------------------	-------------------------------	-------------------------------

- ※1 ガスエンジン給湯器で、貯湯ユニットと発電ユニットで型式が分かれる場合は、両方の型式を記入ください。
- ※2 ・CO2冷媒ヒートポンプ給湯器、潜熱回収型ガス給湯器、潜熱回収型石油(灯油)給湯器はエネルギー消費効率を、ガスエンジン給湯器は発電効率と排熱効率を記入ください。
- ・機器メーカーにおいて、公表されている定格の効率(高位発熱量ベース)を設置機器ごとに記入ください。

3. 設置した高効率給湯器のエネルギー使用量^{※3}計測機器について

機器種別 (いずれかにチェック)	<input type="checkbox"/> 省エネナビ	<input type="checkbox"/> その他
メーカー名		
型式		
仕様 (該当する項目にチェック)	<input type="checkbox"/> 設置した給湯器の機器ごとにエネルギー使用量 ^{※3} を計測できる	
	<input type="checkbox"/> 機器ごとのエネルギー使用量 ^{※3} のデータを1年間保持し、表示できる	
	(備考・補足)	

※3 ガスエンジン給湯器の場合は発電量

※本申込書は、平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業(住宅に係るもの)補助金交付申請書(兼工事完了報告書)の「2. 排出削減事業への参加」において、「国が運営委託する排出削減事業(グリーン・リンケージ倶楽部(高効率給湯器))」にチェックされた方のみ、記載いただくものです。

システム導入前のエネルギー使用状況報告書

(1)システム導入前の直近一年間の暖冷房について

問1:夏季・冬季の室内環境は快適でしたか。
1. 快適 2. やや快適 3. 普通 4. やや不快 5. 不快

問2:問1で「やや不快」又は「不快」と回答された方の理由は何ですか(複数回答可)。
1. 風通しが悪い 2. 日当たりが良く暑い 3. 湿気が多い 4. 日当たりが悪く寒い 5. 結露しやすい 6. 足元が寒い 7. 部屋毎の温度差が激しい 8. 乾燥している 9. その他()

問3:暖冷房するにあたって、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. 暖房設定温度を低く(20℃目安)する 2. 冷房設定温度を高く(28℃目安)する 3. 使用時間の短縮 4. 不必要なつけっぱなしをしない 5. 衣服で調整する 6. 扇風機の併用 7. 通風する 8. 緑のカーテン 9. 打ち水 10. カーテンやブラインドをする 11. 窓にひさしを付ける 12. 日射遮蔽フィルムを張る 13. フィルターの清掃をする 14. 同じ部屋で過ごす 15. 風量の調整 16. 室外機の周辺に物を置かない 17. 室外機にひさしを付ける 18. 特にない 19. その他()

(2)システム導入前の直近一年間の給湯について

問4:システム導入前の直近一年間、浴室に以下のような設備は付いていましたか(複数回答可)。
1. 節水型シャワーヘッド 2. サーモスタット水栓 3. 保温力の高い浴槽 4. 保温力の高い浴槽蓋 5. 浴室暖房乾燥機 6. 24時間風呂 7. ジェットバス 8. 浴室サウナ 9. ホームサウナ 10. いずれもない 11. その他()

注) 普段使用していたものについてお答え下さい。

問5:給湯を使用するにあたって、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. 間隔を空けずに入浴する 2. シャワーはこまめに止める 3. 入浴時間の短縮 4. 浴槽の蓋はこまめに閉める 5. 風呂の残り湯を洗濯に利用する 6. まとめて食器洗いをする 7. 食器洗いの際はフットスイッチを使用 8. センサー付き水栓を使用 9. 台所・洗面所ではお湯を使用しない 10. 台所・洗面所のお湯は設定温度を低くする 11. 特にない 12. その他()

(3)システム導入前の直近一年間の照明について伺います。

問6:居室で使用していた照明の種類は何ですか(複数回答可)。 ※居室とは、居間(L)、食事室(D)、LD、DK、LDK、寝室、応接室、書斎その他これに類するもの
1. 白熱灯 2. 蛍光灯 3. LED 4. その他()

問7:居室以外で使用していた照明の種類は何ですか(複数回答可)。 ※居室以外とは、トイレ、洗面所、浴室、廊下、内玄関、外玄関、庭園、敷地内駐車場
1. 白熱灯 2. 蛍光灯 3. LED 4. 分からない 5. その他()

問8:夜間、常時照明をつけていた箇所はありますか(複数回答可)。
①廊下 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない ②内玄関 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない ③外玄関 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない ④庭園 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない ⑤駐車場 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない

問9:照明に関して、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. こまめに ON・OFF する 2. 使わない照明は消す 3. なるべく同じ部屋で過ごす 4. こまめに掃除する 5. 白熱灯を蛍光灯やLEDに変える 6. 特にない 7. その他()

(4)システム導入前の直近一年間の台所について

問10:台所に以下のような設備はありますか(複数回答可)。
1. 冷凍冷蔵庫(約____年前購入) 2. ジャー炊飯器 3. 電子レンジ 4. オーブン(電気・ガス) 5. ガスコンロ 6. IHクッキングヒーター 7. 食器洗淨乾燥機 8. いずれもない 9. その他()

注) 普段使用していたものについてお答え下さい。

問11:台所の設備を使用するにあたって、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. 冷凍冷蔵庫の(季節ごとの)温度調節 2. 冷ましてから冷凍冷蔵庫に入れる 3. 冷蔵庫カーテンを使用 4. 冷凍冷蔵庫に物を詰め込み過ぎない 5. 冷凍冷蔵庫の開閉の短縮 6. 野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する 7. 炊飯器保温をやめて電子レンジで温めなおす 8. 使用しない設備のコンセントは抜く 9. 圧力鍋を使用し調理時間の短縮 10. 特になし 11. その他()

(5)システム導入前の直近一年間のトイレについて

問12:トイレに以下のような機能はありましたか(複数回答可)。
1. 温水洗淨便座(貯湯式・瞬間式) 2. 節水型トイレ 3. いずれもない 4. その他()

問13:トイレを使用するにあたって、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. (季節ごとに)温度調節 2. タイマー設定 3. 使用しないときは便座の蓋をする 4. 特になし 5. その他()

(6)システム導入前の直近一年間のその他の機器、動力について伺います。

問14:以下のような設備、もしくはその他エネルギーを比較的消費すると思われる設備はありましたか(複数回答可)。
1. テレビ(ブラウン管・液晶・プラズマ)(____台) 2. 衣類乾燥機 3. 電話機(携帯電話を除く) 4. テレビ録画機器(HDD・DVDレコーダー・DVDプレーヤー・ビデオデッキ・ブルーレイ)(____台) 5. パソコン(____台) 6. オーディオ機器 7. 屋外イルミネーション(____月頃実施) 8. 室内エレベーター 9. ペット用保温設備 10. ガーデニング用温室ハウス 11. いずれもない 12. その他()

注) 普段使用しているものについてお答え下さい。

問15:問14で回答したもののうち、1日のうちで長時間(12~24時間目安)使用する設備はありましたか。
1. 特になし 2. ある(具体的に____を____時間程度使用)

問16:その他の動力を使用するにあたって、工夫していたことはありますか(複数回答可)。
1. 使用していない時はコンセントを抜く又は主電源を切る 2. テレビやパソコンの画面照度を抑える 3. 洗濯のまとめ洗い 4. 節電タップの利用 5. 特になし 6. その他()

(7)システム導入前の直近一年間の生活状況について

問17:世帯年収はどれくらいでしたか。
1. 300万円未満 2. 300~500万円未満 3. 500万円~700万円未満 4. 700万円~1000万円未満 5. 1000万円以上 6. 収入なし

問18:1年間で居住者人数に変化はありましたか。
1. 変化なし 2. 変化あり →具体的に 1人目:____年生まれの者が____月頃 増えた・減った 2人目:____年生まれの者が____月頃 増えた・減った 3人目:____年生まれの者が____月頃 増えた・減った

問19:(居住者全員が)1週間以上、長期不在した期間はありましたか。
1. ない 2. ある →具体的に ____月頃、____日間くらい

問20:1年間で家で過ごす時間や時間帯が大きく変化した居住者はいますか。

1. いない 2. いる →具体的に
 1人目: _____年生まれの者が _____月頃から1日あたり _____時間程
 昼間の在宅時間が増えた・昼間の在宅時間が減った・夜間の在宅時間が増えた・夜間の在宅時間が減った
 2人目: _____年生まれの者が _____月頃から1日あたり _____時間程
 昼間の在宅時間が増えた・昼間の在宅時間が減った・夜間の在宅時間が増えた・夜間の在宅時間が減った

問21:エネルギー(電気やガス等)を必要とするペットはいましたか。また、システム導入前1年間の途中で増えた場合はその時期もお答えください。

1. いない 2. いた →具体的に _____が _____匹 (_____月頃)
 _____が _____匹 (_____月頃)

問22:システム導入前1年間で増築・改築・または断熱改修をした箇所はありますか。

1. 特にない
 2. ある →具体的に _____月頃、(どこを) _____を (どれくらい) _____㎡増築・改築
 _____月頃、(どこを) _____を (どのように) _____
 (どのくらい) _____断熱改修

問23:暖冷房設備、給湯設備、または大型家電の交換、増設した箇所はありましたか。

1. 特にない
 2. ある →具体的に _____月頃、(何) _____を (何) _____に _____台交換
 _____月頃、(何) _____を (何) _____に _____台交換
 _____月頃、(何) _____を _____台増設
 _____月頃、(何) _____を _____台増設

問24:下記のような省エネ行動をしていましたか(複数回答可)。

1. エコドライブ 2. 公共交通機関の積極的利用 3. カーシェアリングの利用 4. レンタサイクルの利用
 5. 買い物袋の持参 6. カーボンオフセット商品を選択 7. 間伐材を使用した商品を選択
 8. 地元食材を使って地産地消 9. カーボン・フットプリントで商品を選択
 10. (自治体や企業等で作成している)環境家計簿を利用 11. 地域の環境イベントへの参加
 12. 省エネに関する展示会や講習会等への参加 13. 省エネに関する積極的な情報収集
 14. 特になし 15. その他(_____)

問25:システム導入後1年目に省エネに関して取り組む目標を1つたて、それをご記入ください。

※必ず予約者ご本人さまがご記入ください。(手続代行者の代筆は不可。)

以 上

(3) 定期報告書

補助事業者は補助事業終了後3年間、エネルギー使用量（電力、ガス、灯油、水道使用量等）およびエネルギー使用状況等について、定期報告書により下記の通り当機構へ報告します。

〈提出書類〉

定期報告書（95～104 ページ）

（内容）

- ・ 毎月のエネルギー使用量（95 ページ）・・・毎月記載していただくもの
- ・ 毎月の設備の使用状況（96～101 ページ）・・・毎月記載していただくもの
- ・ その他の設備及び生活アンケート（102～104 ページ）・・・年1回記載していただくもの

〈提出期限及び報告対象期間〉

第1回報告提出期限：平成25年4月末日

（報告対象：平成24年4月～平成25年3月分）

第2回報告提出期限：平成26年4月末日

（報告対象：平成25年4月～平成26年3月分）

第3回報告提出期限：平成27年4月末日

（報告対象：平成26年4月～平成27年3月分）

〈提出先〉

〒100-8692

郵便事業会社 銀座支店 私書箱 636 号

《住宅に係るもの》担当者宛

※封筒に「定期報告書在中」と記載ください。

※SII から定期報告書を受け取った旨の連絡は致しません。

※上記の定期報告の他、別途アンケート調査、省エネルギー効果検証の為の計測、取材等にご協力いただく場合があります。

一般社団法人 環境共創イニシアチブ
代表理事 赤池 学 殿

補助事業者 郵便番号
住 所
氏 名
電話番号

印

平成23年度住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進補助事業(住宅に係るもの)
定期報告書

住宅・建築物高効率エネルギーシステム導入促進事業費補助金(住宅に係るもの)交付規程第17条に基づき、下記のとおり報告します。

1. 毎月のエネルギー使用量

【記載についての注意事項】

- * 電気、都市ガス及びLPGの使用量は、毎月の検針票、領収書に記載されている数値を記入してください。
- * 電気、ガス及び上水道は、上段に使用量、下段に検針月日を記入してください
- * 電気の時間帯別電灯契約等をしている方は、毎月の使用量合計を記入してください。
- * ガスについては、都市ガスかLPG(プロパンガス)のどちらか該当する項目に○印を付けてください。
- * LPGのカッコ内には、検針票、領収書に記載されている使用量の単位を記入してください。
- * 上水道使用量が2ヶ月毎の検針の場合は、検針票、領収書に記載されている2ヶ月合計の数値を記入してください。
(例えば、4~5月分の使用量は5月欄に合計値を記入する)
- * 太陽光発電設備、家庭用コージェネレーション設備(エコウィル)等の発電設備を設置している方は、発電量(モニター数値)を記入してください。(上段に発電量、下段に発電量の計測期間(例えば、4月分は1~30日)を記入してください。)
- * 太陽光発電設備を設置している方は電力会社への売電量(検針票の数値)も記入してください。
- * 灯油、その他(ペレットや重油など)を使用している方は、月毎の購入量を記入してください。

()年度	電気 (kwh)	都市ガス(m ³) ・LPG()	灯油 (ℓ)	上水道 (m ³)	発電量 (kwh)	売電量 (kwh)	その他 ()
4月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
5月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
6月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
7月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
8月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
9月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
10月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
11月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
12月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
1月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
2月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
3月分							
	検針月日(/)	検針月日(/)		検針月日(/)	期間(~ 日)		
合 計							

2. 毎月の設備の使用状況

毎月記載していただくアンケート(4月・5月分)

(1) 毎月の暖冷房及び給湯の使用状況について伺います。

4月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・6～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回以上
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

5月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・6～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・6～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

毎月記載していただくアンケート(6月・7月分)

6月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)	使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()	
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー 使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの 合計入浴時間 (シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()		

7月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)	使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()	
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・6～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー 使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの 合計入浴時間 (シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()		

毎月記載していただくアンケート(8月・9月分)

8月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない		
居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。		
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

9月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・6～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない		
居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。		
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

毎月記載していただくアンケート(10月・11月分)

10月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
	今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

11月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・6～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
	今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

毎月記載していただくアンケート(12月・1月分)

12月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
	今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

1月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト外式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____ が _____ 台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間(シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
	今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

毎月記載していただくアンケート(2月・3月分)

2月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー 使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い焚きする(具体的に_____回/月)・いつも追い焚き ※追い焚きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間 (シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

3月	今月使用した暖冷房機器 (該当するもの全てに○印を付けて下さい)		使用しない・ダクト式 HP 空調(暖房・冷房・除湿)・冷温水式 HP 空調(暖房・冷房)・エアコン(暖房・冷房・除湿)・床暖房(ガス・石油)・ファンヒーター(ガス・石油)・ストーブ(電気・ガス・石油・ペレット)・電気ホットカーペット・こたつ・扇風機・その他()
	※今月、暖冷房をした方 のみお答え下さい	使用台数及び設定温度 ※設定温度は、温度設定可能な機器のみ○印を付けて下さい	_____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上) _____が_____台 (20℃未満・20～22℃・23～25℃・26～28℃・29℃以上)
		使用時間帯	午前・午後～夕方・夕方～就寝前・就寝中・1日中
		1日あたりの平均使用時間	1時間未満・1～5時間・5～12時間・12～18時間・18時間～24時間
		1ヶ月あたりの使用日数	5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	今月使用した 給湯機器	1人1日あたりのシャワー 使用回数(居住者平均)	使用しない・1回未満・1回・1.5回・2回
		風呂(浴槽)に入った日数	入らない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
		台所・洗面所で使用した日数	使用しない・5日未満・5～10日・11～15日・16～20日・21～25日・ほぼ毎日
	※今月、給湯を使用した方 のみお答え下さい	シャワー設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
		風呂を沸かす時の設定温度	40℃未満・40～42℃・43～45℃・46℃以上・設定できない
風呂を沸かす時、湯張りをしますか		毎回湯張りをする・時々追い炊きする(具体的に_____回/月)・いつも追い炊き ※追い炊きとは、現在入っている水又はお湯を設定温度にすること	
1日のうち、風呂の温め直しをしますか		温め直さない・温め直す(具体的に_____回/日)・自動保温機能を使用	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載	台所・洗面所の設定温度	35℃未満・35～39℃・40～42℃・43℃以上・設定できない	
	居住者全員の1日あたりの合計入浴時間 (シャワー、風呂ともに)	1時間未満・1～3時間・3～5時間・5時間以上 ※入浴していない時間は含めない。 ※同時に数人が入浴した場合、最初に入った時から、全員が出た時間までを入浴時間とする。	
今月の省エネナビ使用目的 ※省エネナビを設置している方のみ記載		電気使用量の目安・電気代の目安・目標値の設定・前月との比較・データ分析・リアルタイムに使用量を見るため・家族の省エネ意識を高めるため・特になし・その他()	

3. その他の設備及び生活アンケート

毎年1回記載していただくアンケート

(1)暖冷房について伺います。

問1:夏季・冬季の室内環境は快適ですか。

1. 快適 2. やや快適 3. 普通 4. やや不快 5. 不快

問2:問1で「やや不快」又は「不快」と回答された方の理由は何ですか(複数回答可)。

1. 風通しが悪い 2. 日当たりが良く暑い 3. 湿気が多い 4. 日当たりが悪く寒い 5. 結露しやすい
6. 足元が寒い 7. 部屋毎の温度差が激しい 8. 乾燥している 9. その他()

問3:システム導入前と比べ、暖冷房で変化はありましたか(複数回答可)

1. 冷房時間が減った 2. 冷房時間が増えた 3. 冷房の設定温度を高くするようになった
4. 暖房時間が減った 5. 暖房時間が増えた 6. 暖房の設定温度を低くするようになった
7. 結露しなくなった 8. 変わらない 9. その他()

問4:暖冷房するにあたって、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. 暖房設定温度を低く(20℃目安)する 2. 冷房設定温度を高く(28℃目安)する 3. 使用時間の短縮
4. 不必要なつけっぱなしをしない 5. 衣服で調整する 6. 扇風機の併用 7. 通風する 8. 緑のカーテン 9. 打ち水
10. カーテンやブラインドをする 11. 窓にひさしを付ける 12. 日射遮蔽フィルムを張る 13. フィルターの清掃をする
14. 同じ部屋で過ごす 15. 風量の調整 16. 室外機の周辺に物を置かない 17. 室外機にひさしを付ける 18. 特にない
19. その他()

(2)給湯について伺います。

問5:浴室に以下のような設備は付いていますか(複数回答可)。

1. 節水型シャワーヘッド 2. サーモスタット水栓 3. 保温力の高い浴槽 4. 保温力の高い浴槽蓋 5. 浴室暖房乾燥機
6. 24時間風呂 7. ジェットバス 8. 浴室サウナ 9. ホームサウナ 10. いずれもない
11. その他()

注)普段使用しているものについてお答え下さい。

問6:システム導入前と比べて、給湯の使用方法に変化はありましたか(複数回答可)。

1. 入浴回数が減った 2. 入浴回数が増えた 3. 入浴時間が減った 4. 入浴時間が増えた
5. 風呂の設定温度を低くするようになった 6. 台所・洗面所の設定温度を低くするようになった
7. 1日の中で追い焚きする時間が短くなった 8. 1日の中で追い焚きする時間が長くなった 9. 変わらない
10. その他()

問7:給湯を使用するにあたって、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. 間隔を空けずに入浴する 2. シャワーはこまめに止める 3. 入浴時間の短縮 4. 浴槽の蓋はこまめに閉める
5. 風呂の残り湯を洗濯に利用する 6. まとめて食器洗いをする 7. 食器洗いの時はフットスイッチを使用
8. センサー付き水栓を使用 9. 台所・洗面所ではお湯を使用しない 10. 台所・洗面所のお湯は設定温度を低くする
11. 特にない 12. その他()

(3)照明について伺います。

問8:居室で使用している照明の種類は何ですか(複数回答可)。

※居室とは、居間(L)、食事室(D)、LD、DK、LDK、寝室、応接室、書斎その他これに類するもの

1. 白熱灯 2. 蛍光灯 3. LED 4. その他()

問9:居室以外で使用している照明の種類は何ですか(複数回答可)。

※居室以外とは、トイレ、洗面所、浴室、廊下、内玄関、外玄関、庭園、敷地内駐車場

1. 白熱灯 2. 蛍光灯 3. LED 4. 分からない 5. その他()

問10:夜間、常時照明をつけている箇所はありますか(複数回答可)。

- ①廊下 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない
②内玄関 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない
③外玄関 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない
④庭園 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない
⑤駐車場 1. 常時点灯 2. 必要時のみ(手動・人感センサー・タイマー・その他()) 3. ついていない

問11:照明に関して、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. こまめにON・OFFする 2. 使わない照明は消す 3. なるべく同じ部屋で過ごす 4. こまめに掃除する
5. 白熱灯を蛍光灯やLEDに変える 6. 特にない 7. その他()

(4)台所について伺います。

問12:台所に以下のような設備はありますか(複数回答可)。

1. 冷凍冷蔵庫(約__年前購入) 2. ジャー炊飯器 3. 電子レンジ 4. オープン(電気・ガス) 5. ガスコンロ
6. IHクッキングヒーター 7. 食器洗浄乾燥機 8. いずれもない 9. その他()

注)普段使用しているものについてお答え下さい。

問13:台所の設備を使用するにあたって、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. 冷凍冷蔵庫の(季節ごとの)温度調節 2. 冷ましてから冷凍冷蔵庫に入れる 3. 冷蔵庫カーテンを使用
4. 冷凍冷蔵庫に物を詰め込み過ぎない 5. 冷凍冷蔵庫の開閉の短縮 6. 野菜の下ごしらえに電子レンジを活用する
7. 炊飯器保温やめて電子レンジで温めなおす 8. 使用しない設備のコンセントは抜く 9. 圧力鍋を使用し調理時間の短縮
10. 特にない 11. その他()

(5)トイレについて伺います。

問14:トイレに以下のような機能はありますか(複数回答可)。

1. 温水洗浄便座(貯湯式・瞬間式) 2. 節水型トイレ 3. いずれもない 4. その他()

問15:トイレを使用するにあたって、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. (季節ごとに)温度調節 2. タイマー設定 3. 使用しないときは便座の蓋をする 4. 特にない
5. その他()

(6)その他の機器、動力について伺います。

問16:以下のような設備、もしくはその他エネルギーを比較的消費すると思われる設備はありますか(複数回答可)。

1. テレビ(ブラウン管・液晶・プラズマ)(__台) 2. 衣類乾燥機 3. 電話機(携帯電話を除く)
4. テレビ録画機器(HDD・DVDレコーダー・DVDプレーヤー・ビデオデッキ・ブルーレイ)(__台)
5. パソコン(__台) 6. オーディオ機器 7. 屋外イルミネーション(__月頃実施) 8. 室内エレベーター
9. ペット用保温設備 10. ガーデニング用温室ハウス 11. いずれもない 12. その他()

注)普段使用しているものについてお答え下さい。

問17:問16で回答したもののうち、1日のうちで長時間(12~24時間目安)使用する設備はありますか。

1. 特にない 2. ある(具体的に__を__時間程度使用)

問18:その他の動力を使用するにあたって、工夫していることはありますか(複数回答可)。

1. 使用していない時はコンセントを抜く又は主電源を切る 2. テレビやパソコンの画面照度を抑える 3. 洗濯のまとめ洗い
4. 節電タップの利用 5. 特にない 6. その他()

問19:省エネナビを設置している方で、家族の省エネ意識に変化はありましたか。

1. 変化はない 2. 省エネ意識が高くなった

(7)生活状況について伺います。

問20:世帯年収はどれくらいですか。

1. 300万円未満 2. 300~500万円未満 3. 500万円~700万円未満 4. 700万円~1000万円未満
5. 1000万円以上 6. 収入なし

問21:1年間(4月~翌年3月)で居住者人数に変化はありましたか。

1. 変化なし 2. 変化あり →具体的に 1人目: __年生まれの者が__月頃 増えた・減った
2人目: __年生まれの者が__月頃 増えた・減った
3人目: __年生まれの者が__月頃 増えた・減った

問22: (居住者全員が)1週間以上、長期不在した期間はありますか。

1. ない 2. ある →具体的に _____月頃、 _____日間くらい

問23: 1年間(4月～翌年3月)で家で過ごす時間や時間帯が大きく変化した居住者はいますか。

1. いない 2. いる →具体的に

1人目: _____年生まれの者が _____月頃から1日あたり _____時間程

昼間の在宅時間が増えた・昼間の在宅時間が減った・夜間の在宅時間が増えた・夜間の在宅時間が減った

2人目: _____年生まれの者が _____月頃から1日あたり _____時間程

昼間の在宅時間が増えた・昼間の在宅時間が減った・夜間の在宅時間が増えた・夜間の在宅時間が減った

問24: エネルギー(電気やガス等)を必要とするペットはいますか。また、この1年間(4月～翌年3月)で増えた場合はその時期もお答えください。

1. いない 2. いる →具体的に _____が _____匹 (この1年間で増えた場合 _____月頃)
 _____が _____匹 (この1年間で増えた場合 _____月頃)

問25: 1年間(4月～翌年3月)で増築・改築・または断熱改修をした箇所はありますか。

1. 特にない

2. ある →具体的に _____月頃、(どこを) _____を (どれくらい) _____ m²増築・改築
 _____月頃、(どこを) _____を (どのように) _____
 (どのくらい) _____断熱改修

問26: 1年間(4月～翌年3月)で暖冷房設備、給湯設備、または大型家電の交換、増設した箇所はありますか。

1. 特にない

2. ある →具体的に _____月頃、(何) _____を (何) _____に _____台交換
 _____月頃、(何) _____を (何) _____に _____台交換
 _____月頃、(何) _____を _____台増設
 _____月頃、(何) _____を _____台増設

問27: 下記のような省エネ行動をしていますか。

1. エコドライブ 2. 公共交通機関の積極的利用 3. カーシェアリングの利用 4. レンタサイクルの利用
 5. 買い物袋の持参 6. カーボンオフセット商品を選択 7. 間伐材を使用した商品を選択 8. 地元食材を使って地産地消
 9. カーボン・フットプリントで商品を選択 10. (自治体や企業等で作成している)環境家計簿を利用
 11. 地域の環境イベントへの参加 12. 省エネに関する展示会や講習会等への参加
 13. 省エネに関する積極的な情報収集 14. 特になし 15. その他()

問28: 1年間(4月～翌年3月)をシステム導入前と比べてエネルギー消費量はどうなりましたか。また、その原因は何だと思えますか(複数回答可)。

1. だいぶ減った 2. 減った 3. 変わらない 4. 増えた 5. かなり増えた
 (理由) 1. 導入システムの効果 2. 居住者の増減 3. 在宅時間の変化 4. ペットの変化 5. 住宅の大きさの変化
 6. 断熱改修の効果 7. 設備の変化 8. 省エネ意識・行動の変化 9. 気象・気温
 10. その他()

問29: 次年度のエネルギー削減に向け、又は省エネに関して取り組む事項(目標)を1つご記入ください。

以上